



雄飛

№44

50周年記念号

目次

	校歌	2
	体育会組織図	3
	大学のスポーツ関連施設	4
特別寄稿 特集		7 17
各部紹介 本年度結果報告	常任幹事会 22 硬式野球部 24 男子バレーボール部 26 女子バレーボール部 28 男子卓球部 30 女子卓球部 32 テニス部 34 バドミントン部 36 剣道部 38 柔道部 40 スキー部 42 男子陸上競技部 44 女子陸上競技部 46 サッカー部 48 躰道部 50 弓道部 52 男子ハンドボール部 54 女子ハンドボール部 56 水泳部 58 ゴルフ部 60 軟式野球部 62 アイスホッケー部 64 女子ソフトボール部 66 空手道部 68	
24部の歴史		72



東北福祉大学校歌

作詞者 扇畑忠雄
作曲者 古賀政男

天^{あまつと}伝う日の

光さやかに

青葉吹く風

胸にすずしく

丘べに立ちて

見^み放くる海よ

命ゆたかに

吾ら学ばん

真^{まこと}と法を

ひたすら求め

ここに汲む

思索の泉

東北福祉大学応援歌

作詞者 梅沢伊勢三
作曲者 岩浪 隆
編曲者 岡崎 光治

名もかんばしき

梅檀の

双葉のほこり

高らかに

若人われら

敢然と

世紀の朝を

うちひらく

ああ ひかり

ひかり

このひかり

大学のスポーツ関連施設



全天候型体育館



陸上競技場・サッカー場



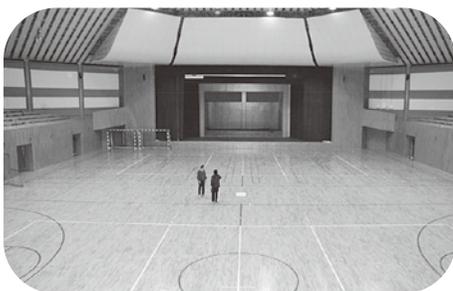
野球場



武徳館



弓道場



福聚殿（体育館）



H-3GYM 内卓球場

特別寄稿



君に栄冠あれ

—— 大学体育会発足 50 周年に寄せて ——



学 長 千葉 公慈
体育会名誉会長

1972 年（昭和 47 年）に発足した東北福祉大学体育会は、このたび誕生 50 周年を迎えることになりました。これまで数多のご尽力をいただいたすべての関係各位に対しまして、甚深なる感謝と敬意を表します。

学園創立 150 周年を令和 7 年にひかえる本学にとって、この半世紀に及ぶ体育会の目覚ましい活躍は、東北の地にとどまらず、全国そして世界でも注目されるに至りました。神宮球場に名を轟かせ、日本のプロ野球界を牽引した野球部はもちろんのこと、バレーボール部、卓球部、弓道部、女子ソフトボール部、陸上競技部、空手道部等々、『雄飛』に掲載された健闘ぶりは枚挙に暇のないところです。本学卒業生の佐々木主浩さんや斎藤隆さんのメジャーリーグでの大活躍もありました。さらに特筆すべきはゴルフ部の驚異的な大活躍です。

2021 年の 4 月 12 日、世界の超一流だけが参加するアメリカ合衆国のオーガスタで、卒業生の松山英樹さんがマスターズ・トーナメント優勝という大偉業を成し遂げました。これはゴルフ史上と申しますか、我が国のスポーツ界の歴史を塗り替えるほどの大金字塔です。昨年は男女の団体と個人それぞれで全国制覇という快挙もあり、4 年生の蟬川泰果さんは Panasonic オープンで優勝の直後、国内最高峰の日本オープンでも見事に優勝を果たすなど驚異的な活躍を続けています。2 年生の橋本美月さんもアジア制覇に全豪オープンアマで優勝を果たしました。加えて卒業生の比嘉一貴さんは年間賞金王に、金谷拓実さんはアジアツアーの海外初制覇にも輝きました。

本学の建学の精神を伝える道元禅師の教えに、次のような言葉があります。

「一発菩提心を百千万発するなり」（『正法眼蔵』「発菩提心」）

「一発菩提心」とは、悟りを求めて踏み出すときの第一歩の心境です。その純粹なる初心は、道を求め続ける限り、百千万回にわたって奮起せよと教えています。すなわち究極の境地に至る最終の一步は、実は初心の一步と何ら変わることはない偉大な志なのです。

いざ、体育会の 100 周年に向けて未来の扉は大きく開かれました。すべての本学のスポーツマンに栄冠が輝き続けることを願ってやみません。

体育会設立 50 周年に寄せて



体育会会長 梶原 洋

50周年にあたり、なんといっても一番印象深いのは、1991（平成3）年の野球部による初めての全国制覇であった。私がまだ、本学に赴任して3年目のことであり、東北の大学で全国一になったということで、本当に心から痛快、そして爽快な出来事であった。あのとき、学生も教職員も全学をあげてみな中庭に集まって優勝を祝ったことは、今でも忘れられない貴重な思い出となっている。

私はアスリートではないが、さまざまな局面でアスリート諸君がなぜ社会で高く評価されるのか、理解しているつもりである。日本そして世界で活躍する本学のアスリートも松山英樹君をはじめとして枚挙にいとまないが、傑出した能力を持つ選手だけでなく、強くなりたい、早くなりたい、うまくなりたいと望み、努力しながらも、果たせないもどかしさに悩み、多くの挫折を経験したアスリート諸君も何一つ無駄なことはなく、それ以後の人生においてきっと報わるという強い確信を私は持っている。それは、日常のどのような体験よりも貴重で大切なのだ。その時は壁にぶつかり、どうしようもなくもがいていても、そのハザードを乗り越えられたなら、一段も二段も上ることができるだろうし、たとえそれができなかったとしても、やはり君たちは成長しているのだと私は言いたい。だからアスリートとしての多様な経験は、世の中で高く評価される。つらい練習も挫折の経験、体験も必ずしもうまくいかなくても、それからのさらに厳しい人生のなかで、生きていくかけがえのない力となるのであり、無駄な努力ではなかったのだと振り返る時が来るだろう。東北福祉大学の体育会は、世界に活躍する学生アスリートだけでなく、そうでなかった人物も大事にする組織として、さらに100年先に向かってこれからも進んでいくことを願っている。

体育会 50 周年に寄せて



学生支援センター長 渡部 純夫

初めに「体育会 50 周年」本当におめでとうございます。記念すべき 50 周年を迎えられたことに対しこころよりお祝いを申し上げます。50 年の年月の中で、幾多の困難を一丸となって乗り越えながら、輝かしい実績と伝統を築きあげてこられた諸先輩の皆様に対し、こころからの敬意と感謝を表すものであります。ひとえに 50 年といっても、その道筋は長く長く感じられたのではないのでしょうか。過ぎてしまえば、「光陰矢の如し」といわれるようにあっという間に思えるかもしれませんが、歴史を作るための日々の鍛錬は言葉には筆述しがたいものがあったのではないかと、思いを馳せる次第です。

学生支援センター長として日々の業務を行っておりますと、体育会に所属する諸団体からの合宿願いや試合のスケジュール等の書類がたくさん出て参ります。それを見ながら、それぞれの団体の活躍を秘かに願わずにはおれません。また、輝かしい結果などの報告が入るたびに、思わずこころの中でよくやったと叫んでいる自分を発見したりしております。学生支援センターは、体育会の皆様が安心して日々力を発揮できるように、全面的にバックアップに取り組んでおります。

私自身はスポーツが大好きで、いつも身近なものとして慣れ親しんできております。そのためか、野球部部长という大役も仰せつかっており、いつもこころが熱くなっております。若い学生さんの躍動している姿を目の当たりにしながら、昔に思いを馳せることもあります。私のスポーツ歴は、大したものではないのですが、小学校高学年から剣道をはじめ、中学校の 3 年間竹刀を振り続けました。高校時代は山岳部に所属し冬山で雪洞を掘って寝たことを鮮明に覚えております。そのため、大学はワンダーフォーゲル部に所属し、体育会本部の副会長などをさせていただきました。同時にラグビーに目覚め、愛好会を経て卒業後も 30 歳半ばまでラグビーを続けておりました。

「体育会」が今後さらなる歴史を積み重ね、100 周年というとてもなく輝かしい金字塔を立てられることを祈願しております。

体育会と弓道部



名誉教授 岡田 清一

東北福祉大学体育会が設立五十周年を迎えるという。まことにめでたく、これまでの活動に深甚なる敬意を表したいと思う。

体育会の活動は、一般学生はもちろんのこと、体育会に加盟する各部所属の学生にとっても必ずしも身近なものではない。にもかかわらず、各部が順調に維持・運営されるためには必須の組織ではないかと思っている。とはいうものの、平成元年4月、高名な溝口兼三先生の後任として弓道部部长を引き受けるまでは、私もまたその一人であった。

当時の弓道部は、Ⅲ部（5部制）校であったが、就任後、Ⅱ部に昇格したものの、創部15周年を迎える直前に再び降格していた。また、当時、開催されていた東北地区の大学総合大会に出場するも、多くの伝統校のほか、国立大学にも強豪校があったから、頂点に立つこともなかった。

創部15年程度では、卒業生も極めて少なく、さらに弓道場が無かったことは致命的であった。創部当時の学生は、大崎八幡宮の弓道場で稽古に励んでいたというが、その場が無くなると、泉区の弓道場に週3日ほど通う程度で、十分な稽古の時間を確保できなかった。そのため、Ⅱ部定着を優先したが、それも容易ではなかった。

そのような時、体育会の学生は、弱小部であるにもかかわらず、総体には必ず数人の学生が応援に来てくれた。弱小部から常勝部になった実例を話して応援してくれた。思いやる体育会学生の対応に驚いた。平成11年の第22回全日本学生弓道女子王座決定戦、翌年の第11回全国学生弓道選抜大会、さらには平成14年の第26回全日本学生弓道女子王座決定戦で全国優勝できたのも、そうした部外の多くの応援・支援の賜物と思う。

体育会の現況を知ることはないが、そうした配慮のできる学生がさらに輩出することを願っている。

体育会 50 周年に向けて特別寄稿

—— 部活動の思い出 空手道部とテニス部 ——



名誉教授 江尻 行男

私と体育会の関係は先ず、武道系の「空手道部」その次は球技系の「ソフトテニス部」を合計 20 年に渡って部長職を務めさせていただいたことです。それぞれの部活動での思い出を若干述べてみたいと思います。

福祉大に昭和 57 年の 10 月に奉職して翌年の 4 月に、「空手道部」の部長を仰せつかりました。「押忍」、「押忍」という雰囲気の中で、当初はいろいろな点で戸惑いました。試合では中々勝てませんでした。しかし、部長になってから 8 年目の東北総体ではどの試合も圧倒的に勝って団体優勝しました。隣で一緒に観ていた高校の監督から「先生おめでとうございます」と言われた時はうれしさ 100 倍でした。翌年も問題なく優勝しました。試合に勝つことによって部員は自信と誇りを持ち、存在意義（パーパス）を自分のものとしていったように思います。そして、東北地域では強くなってきたのでよい雰囲気の中で次の先生にバトンを渡しました。因みに、当時の部員の中には現在、大学の教授や企業の幹部、自治体の議員などで活躍するものも多い。

空手道部退任から 2、3 年後、今度はソフトテニス部を引き受けることとなった、部員は皆練習が大好きで、自由な雰囲気の中でテニスさえしていれば天国といった感じでした。部員の数も一時期男女併せて 40 人状となり、3 面のコートは活気と賑わいで溢れていました。試合の成績も全国で準優勝、ベスト 4 など強豪校となっていました。中には卒業後に全日本で優勝した者も 2 名輩出するなど「ソフトテニスマガジン」という雑誌にも紹介されました。ところでソフトテニス部は途中から硬式テニスの学生も加わることとなり、名称も「テニス部」と改称されました。

私は高校時代の部活は野球部でしたが、福祉大体育会の空手道部もテニス部も全くの素人でした。性格の異なる部活を 20 年間担当させていただきましたが、この間いづれの部活においてもいろいろな困難や危機もありました。しかし体育会当局や先生方、あるいは OB、OG の方々のおかげで何とか難局を乗り越えることができました。この場をお借りして感謝するとともに今後も一層の発展を祈ります。

体育会 50 周年を 迎えるにあたって



平成 25 年度社会福祉学科卒 ゴルフ部 松山 英樹

東北福祉大学体育会発足から 50 年、誠におめでとうございます。
数々の歴史と伝統のある体育会に、私も 4 年間在籍できたことは非常に光栄なことであり、

また、今の自分が世界を舞台に戦うことができているのも体育会に所属しながら色々なことを学ばせて頂いたお陰だと深く感謝しております。

私の在学期間中の学長 萩野浩基先生の入学式でのお言葉「才能は有限、努力は無限」は深く心に突き刺さりました。あのお言葉も私を人として大きく成長させてくれた要因の一つであり、私の座右の銘となっております。

大学 1 年生の秋に初出場したアジアパシフィックアマチュア選手権で優勝することができ、ゴルファーなら誰もが憧れるオーガスタショナルゴルフクラブで、翌年に開催される 4 月のマスターズトーナメントの出場権を獲得し、一層日々の練習に熱が入っていた 3 月…東北地方を襲った東日本大震災で翌月に控えていたマスターズの出場も、「こんな大変な状況下で本当に出場しても良いのだろうか…」と一人悩んでいたところ、周囲の温かい数々のメッセージに背中を押していただき出場を果たして、ローエストアマチュアを獲得できた瞬間、後押ししてくれた多くの皆様へ私なりの復興支援が少しはできたかなと思います。

大学 3 年生の秋に出場したプロのトーナメント、三井住友 VISA 太平洋マスターズで優勝することができ、ここもまた人生の岐路に立たされた瞬間でした。大学生生活残り 1 年をアマチュアで過ごすかプロに転向するか…ここでもまた周囲の温かいお言葉、アドバイスが私の背中を後押ししてくれました。

おかげ様で大学 4 年生の 1 年間はプロとしてトーナメントに出場し、4 勝を挙げて史上初のルーキーイヤーでの賞金王も獲得することができました。

ゴルフを始めた時からの目標であった世界 4 大メジャートーナメント制覇…

そのうちの一つ、最も優勝しなかったマスターズで勝てたのは東日本大震災、私自身初めてマスターズに出場してから 10 年の節目となる 2021 年でした。

この瞬間も、あの時に後押ししてくれた皆様、今まで応援してくれたファンの皆様によっと恩返しのできたかなという感慨深さがありました。

大学生活は社会に出る前の大切な 4 年間であること、授業だけでは学べないことを先生、先輩、友人、体育会で学ばせて頂いたと今も感謝の気持ちで一杯です。

東北福祉大学体育会の今後更なる発展と皆様のご健勝を祈念申し上げます。



体育会 50 周年記念に向けて



平成 23 年度社会福祉学科卒 女子バレーボール部 佐藤あり紗

体育会 50 周年おめでとうございます。

50 年の歴史の中の学生生活 4 年間に携われたこと、大変嬉しく思います。

私が、初めて女子バレーボール部の佐藤伊知子先生に出会ったのは中学生の頃でした。

当時、2 つ上のカテゴリーのお姉さん方からバレーボールを教えもらったり一緒にプレーする機会をいただいたりと、とても贅沢な経験をさせてもらいました。そして何よりも話が面白く、たくさん褒めてくれる佐藤伊知子先生の事が大好きでした。

中学を卒業し、高校は古川学園に進学し、その後の進路は大和田先生、佐藤伊知子先生率いるバレーボール部に入りたくて東北福祉大学に入学しました。

目標とする日本一になる事はできませんでしたが、チームメイトと同じアパートで共に生活し、同じ目標に向かってがむしゃらに練習していた事は私の財産です。

競技をする環境・先輩同期後輩にも恵まれ 4 年間を過ごしました。

入学当初は、卒業後には、バレーボール競技から離れようと思っていました。身長 165 cm で小柄ということもありスパイカーではチームに最大限貢献できないと感じました。得意としていたディグ（守備）でチームに貢献したいと思い、大学 3 年生の時にスパイカーからリベロにポジションを変更したことがきっかけで、33 歳まで現役としてプレーすることができました。この時ポジションを変更したことで全国レベルの選抜選手に選ばれるようになり、卒業後もバレーボールが続けることができ、2016 年リオ・デ・ジャネイロオリンピックの女子バレーボール日本代表としても選んでもらいました。

あの時ポジションを変えることができなかつたら、ここまで長くバレーボール選手として活躍できなかつたと思います。私にとって人生が大きく変化した学生生活でした。

私は、今でも大学時代を共にすごしたバレーボール部、他競技の友人、リエゾンゼミで同じクラスだった友人と濃く深い交流があります。これからも当時の楽しかったこと面白かったことなどの思い出話を一生出来たら嬉しいです。

経験したことが何か一つでも欠けていて、出会った人が一人でも欠けていたらと思うと、今の毎日充実している私はいなかったと思います。

感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

これからも後輩の皆さんの活躍を期待しています。



大学時代の思い出



平成 30 年度情報福祉マネジメント学科卒 硬式野球部 中野 拓夢

大学 4 年次の日本一は本当に最高の思い出です。

しかし、一番得たことは同じ目的（日本一）に向かって行ける先輩や後輩たちとの出会いでした。特に同級生の存在は野球以外のことを何でも言い合える仲間たちでした。

私が 4 年生になる年に、監督から「今年のスタメンは 3 年生以下が多いかも」と言われて 4 年生全員が「何苦楚」と思ったのは間違いなく、チーム全体の士気が上がりました。

それからは「どうしたら勝てるのか」を同級生や後輩たちと話し合い取り組んだ 1 年間は本当に充実し楽しかったです。

そんな仲間たちと出会い、共に戦えたから日本一になれたのだと思います。

私から在校生に向けてメッセージがあります。

【失敗は成功への近道】

野球は成功することより失敗することのほうが多いです。

私は、何度失敗し、叱責されることはあっても落ち込んだ記憶は 1 回もないです。

反省はしますけど（笑）

出来ないことを知り、出来なかったことは反省だけじゃなく、課題として、克服するために努力し出来た喜びが先につながると思います。例え、その時にできなくても、その「努力」がもっと先の成功につながると思います。



私は、大学卒業時にプロ野球選手になれませんが、社会人野球に進み、2 年後にプロ野球選手になりました。

今はプロ野球選手になったことに満足せず、チームやリーグを代表する選手だけでなく日本を代表する選手になるために頑張っています。

今後も、東北福祉大学の後輩の皆さんを応援しています。

【© スポーツニッポン新聞社】

特 集



体育会 50 周年に向けて



ゴルフ部 主将 蟬川 泰果

「4年間の思い出」

私は幼少より「プロゴルファー」を目指し本校の体育会に所属して、4年を過ごしました。おかげさまで、卒業を前に目標を成し遂げたのは「体育会」に携わる皆様のご支援とご指導のおかげです。

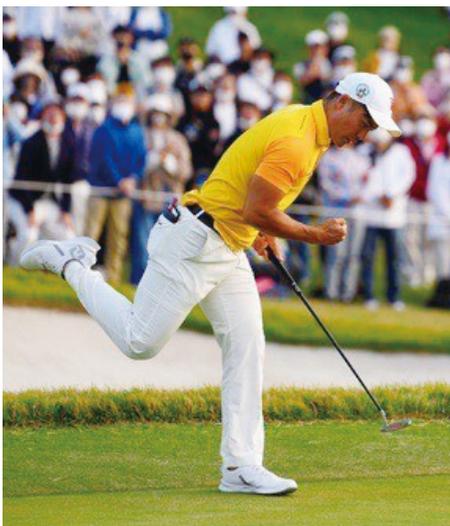
改めて御礼申し上げます。

さて、この4年を振り返ると「悩み」と「練習」と「挫折」と「自信」の繰り返しの4年間だったかと思えます。

最初の「悩み」は本校への入学でした。日本一の強豪校で自分はやっていけるのかどうか？と大いに悩みました。

練習して、レギュラーになってみせる。と入学の決意をしたにもかかわらず、入学前の合宿で最初の挫折がやってきました。初めて目にする先輩方は余りにもレベルが違い過ぎました。

今のままでは話にならん。悩んで練習して一年の初めからレギュラーに選ばれたことで。少し先輩方に追いつけたのでは、と大いに自信になりました。



しかしながら、「日本学生」「日本アマ」「関西オープン」「世界アマ」と最終日、最終組から崩れて、また挫折を味わいます。

朝から思うように手が動きません。こんなにプレッシャーに弱い自分がこの先やっていけるのかと、悩みの日が続きました。

団体戦で思うような働きができず、コーチから「情けないな！」とも言われてしまいました。

けれど、その言葉のおかげで、また練習して目標を一つ叶えることができました。

ずっと体育会の皆様に支え続けていただいた4年間でした。ありがとうございました。

監督とコーチには大変お世話になりました。この先もご指導くださいますようお願い申し上げます。

4年生のインカレを 振り返って



女子ソフトボール部 主将 門脇 杏実

新型コロナウイルスが各種大会に影響する中、私たちの最も大切な、インカレ予選、インカレ本戦が無事開催されました。

5月に開催された予選では、ライバル校である「富士大学」に6対0で勝利し、インカレの出場権を獲得しました。今年は、インカレ予選前のリーグ戦において富士大学に2試合連続失点0で勝利したこともあり、予選には自信を持って挑むことができました。

しかし9月の本戦に挑む前は、負けてばかりで雰囲気は最悪の状態でした。しかし、監督とのミーティングで、負けてはいるものの「ロースコア」であること、投手陣は調子が上がっていることをお話いただき、大会には耐え勝つという意味を込めて「耐勝」というテーマを掲げて挑みました。

本戦は、「準優勝」という結果に終わりました。ただ、決勝に行くまでに2回の延長戦を制し、「耐勝」を形にすることが出来ました。本当に、つらい試合ばかりでしたがみんなであきらめずに戦ったことが、今回の結果につながったと思っています。

今回の大会は、試合に出場していた選手はもちろんですが、チームを陰から支えるファインプレーがたくさんありました。相手チームのデータを取って、夜通し分析を続けてくれた部員、選手が活動しやすいように積極的に洗濯や道具整備にあたってくれた部員、チームの陰で「ファ

インプレー」をしてくれた選手がたくさんいました。また、ある選手が、もしこのチームが一回戦で負けていたとしても、「準優勝した今と同じ気持ちだった」と言ってくれました。私は、選手として心強い仲間、チームの為に一生懸命動いてくれた仲間、また、選手と共に闘ってくださったスタッフに恵まれ、本当に日本一恵まれたキャプテンだったと思っています。

日本一は、後輩たちに託したいと思います。ありがとうございました。



体育会 50 周年をむかえて



体育会常任理事会幹事長 富樫 翼

第 51 代体育会常任理事会幹事長の富樫翼です。まず初めにこれまで体育会に携わっていただいた全ての方々に御礼を申し上げます。今年で 50 周年という節目の年を迎えた体育会ですがこの体育会が現在まで継続できたことは数々の優秀な成績を収めてこられた先輩方のお陰だと感じています。私は軟式野球部に所属し、学生コーチを務めています。入学当初、コロナウイルスで入学式もできず不安がいっぱいの中、大学生活をスタートしました。私自身は寮生だった為、寮生の先輩方や同級生に恵まれ友達や仲間を作ることができました。この行動ができたのは体育会に所属する部活である特権だと思いました。その仲間と共に苦楽を共に過ごし 3 年目を迎えた今年度、体育会常任理事会の幹事長に任命して頂き新たな出会いに恵まれました。それは体育会に所属する他部活の学生と交流することができたことです。今まで硬式野球部やソフトボール部の数名の方としか接することがなかったのですがこの体育会常任理事会を通じたくさんの方と接することができています。また、体育会に携わっていただいている先生方や支援課をはじめとする職員の方々のお陰で体育会の交流ができています。

さて、2020 年度に入学した私たちですがこれまで先輩方に比べなかなか成績を残せていないことが現実です。コロナウイルスの影響もあり、なかなか思うように活動ができない時期もありました。年々、通常開催に向けて動いている競技がほとんどです。2023 年度は東北福祉大学体育会にとって盛り上げるべき年だと思っています。コロナウイルスから始まった年代だからこそ、東北福祉大学体育会というチームとして一致団結し、助け合いと感謝の気持ちを持ち、東北福祉大学を盛り上げていけたらと思いますので皆様これからもご指導、ご協力のほど宜しくお願い致します。

各部紹介



体育会常任幹事会

会 長	梶 原 洋	
副 会 長	阿 部 靖 彦	
副 会 長	佐 藤 伊知子	
幹 事 長	富 樫 翼	社会福祉学科 3年・軟式野球部
副幹事長	菊 池 瑠 梨	社会福祉学科 3年・女子陸上競技部
副幹事長	神 田 幸 聖	情報福祉マネジメント学科 3年・硬式野球部

活動報告

第51代体育会常任理事会です。

今年度は体育会50周年という節目の年を迎え、これまでの先輩方の功績に感謝と尊敬の1年間でした。活動は例年同様、日報月報の点検や2月に主将主務研修会の開催、各部への連絡です。また、今年度は体育会の仲間応援しようと宮城で開催される大会の応援活動も行いました。

昨年同様コロナウイルスの影響で思うように活動ができないことが多々あり活動開始時期が遅くなってしまいました。その影響もあり新入生の体育会入会式の開催ができていません。来年度は開催に向けて早期に会議などを行い、今後、継続的に毎年開催できるように努めてまいります。

常日頃から体育会常任理事会の為に協力して下さる体育会会長・副会長の先生方や学生支援センターの方々をはじめとする東北福祉大学職員の方々からのご指導いただきながら活動ができています。常に学生の為に協力して頂ける先生や職員の方々に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

幹事会活動を終えて

今年度体育会常任理事会の幹事長を務めさせて頂きました軟式野球部の富樫です。

1年間体育会常任理事会として活動して、数々の経験をさせて頂きました。

特にコロナウイルスの影響で体育会入会式などができていなかった為、体育会の他の部の人と関わるという機会がありませんでした。この体育会常任理事会に携わることとなり、他の部の人と関わる事ができたことが1番のメリットだと思っています。

今年度は体育会50周年として記念事業の開催に向けて動き出しましたがなかなかうまくいかず今年度の開催ができなくなってしまう

いました。活動開始時期が遅くなり活動回数も少なかったことが要因となってしまいました。入学式ができずに入学当初からコロナウイルスと共に生活してきた大学生活も残り1年となってしまいました。コロナウイルスの影響もあり、なかなか体育会を盛り上げることができていないのが現状です。このままでは何も残せず体育会を去ることになってしまいます。最後の1年間体育会として体育会常任理事会として一致団結し、東北福祉大学に少しでも貢献できるように努めてまいります。

(記 富樫 翼)

硬式野球部

部長 夫喜彦生 二三夢直
副部長 渡千部 純幸 靖哲 光公 大
副部長 阿山 大村 阿井 上
総監督 阿山 大村 阿井 上
監督 阿山 大村 阿井 上
助監督 阿山 大村 阿井 上
主将 阿井 上
主務 阿井 上

情報福祉マネジメント学科 4年
社会福祉学科 4年

大会結果報告

仙台六大学野球春季リーグ戦
4/9 - 5/24
優勝

第71回全日本大学野球選手権大会
一回戦敗退

仙台六大学野球秋季リーグ戦
9/3 - 10/11
準優勝

第53回明治神宮野球大会・第14回東北地区大学
野球代表決定戦
10/29 - 10/30
一回戦敗退

私たち、硬式野球部は現在、渡部部長をはじめとして大塚監督・村瀬助監督の下、4年生39名、3年生33名、2年生36名、1年生34名、計142名で日々練習に励んでいます。今年で、60年目を迎えますが、今年度までに全日本大学野球選手権では、優勝3回(91・04・18)、準優勝5回(87・88・90・95・00)、明治神宮大会では、準優勝5回(96・98・02・05・08)という成績と共に多くのプロ野球選手を輩出してきました。

今年1年を振り返り、昨年同様に新型コロナウイルスの影響を多く受け、コロナ前のいつもの生活の重要性を再確認できる年になりました。当たり前でできていたことが出来ず、外出や練習時間の制限があり、練習も思うようにできない時期が続きました。しかしこのような状況になったからこそ、限られた時間の中で効率と練習の質を見直すいい機会になったと感じました。

今年1年の大会結果としては満足のいく結果にはなりませんでしたが、4月9日に仙台六大学春季リーグ戦が開幕。第三節では東北大学に敗戦を喫し、苦しい状況の中迎えた仙台大学との試合。1勝1敗で迎えた最後の優勝決定戦が始まりました。先発の坂根が8回2/3を無失点に抑える快投を見せます。攻撃では初回から杉澤龍(4年生)の2ランホームランを放ち仙台大投手長久保から先制点をとります。4回に西村彰浩(2年生)のタイムリーヒットでリードを3点に広げます。9回途中には堀越啓太(1年生)が上がり、150キロを超える速球で相手を封じ込め3対0で勝利し、全日本大学野球選手権への出場を決めました。投手を中心とした守りの野球で勝ち切る事が出来ました。

全日本大学野球選手権では初戦九州共立大学との試合。先発細川拓哉(4年生)。3回に先制タイムリーを浴びると、5回途中から登板した坂根佑真(4年生)もタイムリーを浴び苦しいゲーム展開となります。7回からは堀越啓太(1年生)が登板し最速154キロを速球で球場を沸かせましたが、打線が九州共立大投手稲川を捉えられず0対2の完封負けとなり、初戦敗退となりました。

9月に入ると秋季リーグ戦が開幕。こちらも最終戦は仙台大学との試合となりました。第一戦でコールド負けを喫した後が無くなった第二戦。7回に相手エラーで先制するも直後に同点打を浴び試合は延長タイブレークに突入します。仙台大学の攻撃を1点に抑えた10回裏、一死満塁の場面で杉澤龍(4年生)が放った打球は仙台大学投手長久保の正面へ。本塁併殺打となりまさかの試合終了。2年連続で秋季リーグ優勝を逃しました。

明治神宮大会出場をかけた東北地区大学野球代表決定戦に主催連盟準優勝校として出場しました。相手は南東北大学野球連盟代表の東日本国際大学。

先発の後藤凌寿(3年生)は抜群の立ち上がりを見せます。打線は4回に大井光来(3年生)のタイムリーで先制します。しかし直後に同点に追い付かれると、試合終盤にも失点を重ねそのまま2対5で試合終了。明治神宮大会への道は絶たれました。

私たちの目標である「日本一」を達成する事は出来ませんでした。4年生を中心としたまとまりのあるチームができたと思います。このチームで何が足りなかったのか、これからどのような練習をしていけば「日本一」を達成できるのかを考えることが出来れば更なるチームのレベルアップに繋がると思いました。来年度、「日本一」を必ず取るべく、これからも練習に励んで参ります。

最後になりましたが、今年度中多大なるご支援、ご協力を賜りました関係各位の皆さまに厚く御礼申し上げますと共にご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

4年間の思い出

一つ上の先輩方が秋季リーグ戦で負けた日から私達が引退した日までの時間で多くの事を学び悩み、成長することがどれだけ難しいことか実感する1年になりました。2年連続全日本大学野球選手権大会初戦敗退、秋季も全国大会にすら出られず4年間が終わりました。東北福祉大学がどれだけ名門でどれだけ周りから優勝候補と言われようが結果で示せなかった私には多くの責任と不甲斐なさが残り、後輩達にも良い景色を見せることも出来ませんでした。個々の能力が一流でもチーム

が困った時に手を差し伸べられる、自己犠牲が出来る、誰かの為にとどれだけ歯を食い縛って走り切れるか、人の気持ちを考えて言動出来る人間が少なかったのもチーム力の無さに繋がっているのだと後悔しています。このような事がもう二度とないよう後輩達には躍進してもらい名門東北福祉大学をまた復活させてもらいたいです。大学生活を笑って充実した時間を過ごせるよう応援しています。

(記 阿部 大夢)



令和4年度仙台六大学野球春季リーグ戦にて

男子バレーボール部

部長	富田光一	
監督	山口春樹	
コーチ	安重司	
主将	嶋津陽斗	社会福祉学科 3年
主務	藤井 熙	社会福祉学科 3年

大会結果報告

第59回東北バレーボール大学男女リーグ戦
4位

第60回東北バレーボール大学男女リーグ戦
7位

今年は調子の波が激しい年でした。春リーグでは4位になったものの、秋リーグでは7位と、順位をかなり落としました。入れ替え戦も経験しました。そこでは勝つことができ、1部に残留をすることはできましたが、シーズンを終えて振り返ってみると自分たちの目標とはかけ離れた1年だったと思います。春リーグを振り返ってみると、チームとしても個人としても調子が良かったように思えます。個人賞も福祉大の選手が大半を占めていました。また、1年生の力も上手い具合に合わさって、チームとして機能していました。勝った試合はもちろん、負けた試合でも自分たちの良さは発揮できていたため、内容は前を向けるものでした。この調子で東日本インカレに臨みたいところでしたが、1回戦で惜しくも敗れてしまいました。接戦ではあったものの、春リーグとは違い、長所ではなく短所が目立った試合でした。ミスが少なければ、あの1点を取れていれば、といった悔やまれる内容でした。秋リーグに向けて、これまで見つかった課題を克服してチームを強化するため、夏の練習に力を入れたかったところですが、この夏にチームでコロナウイルスの感染が広がり、練習の機会はかなり少なくなってしまいました。練習不足も否めない中迎えた秋リーグでは、全日本インカレ出場を目指しましたが、結果は振るわず7位で終わりました。最終戦では自分たちの力を発揮して良い形で勝利をすることができましたが、それ以外の試合は春リーグ時のようなパフォーマンスには程遠く、どの試合でも流れを掴み切ることができていなかったと思います。残念な内容となってしまいました。結果的にチームは入れ替え戦を戦うことになり、負けたら2部に降格という状況に立たされました。辛い状況ではありましたが、入れ替え戦は勝つことができ、来年度も1部で戦う権利を守ることができました。今年度は入れ替え戦を戦うという苦い経験を味わったので、今後はこの悔しさを忘れずに、練習に取り組みたいです。また、普段の練習が試合に表れるということも今年度改めて学んだので、試合で良い状態を出せるような練習をしていくことも意識したいです。ここ数年、全日本インカレから遠のいているので、来年度こそは全日本インカレ出場を果たせるようにチーム一丸となって取り組んでいきます。

4年間の思い出

思い出は東日本インカレに出場したことです。4年生は1年生時以来、3年生以下は初めての東日本インカレとなりました。コロナウイルスで世の中が大変な中、開催して下さったことに感謝しています。特に3年生以下は、全日本インカレも経験していなかったため、東北地区を超えての規模となる試合はこの東日本インカレが初となりました。試合は惜しくも負けましたが、関東のチームと戦えて、レベルの高さを体感できたので良い経験になったと思います。逆に試合を通して通用する部分も見出せました。そういった意味では課題も見つかりましたが、自信を得

ることもできたと思います。また他の地区のチームの試合も観て、レベルの高さを目の当たりにしたので、とても刺激になりました。この大会を通しては、1点の重みを痛感しました。勝つか負けるかは目の前の1点を取れるかどうかにかかっているといっても過言ではないなと思いました。これらの自信、課題、学びを得られたので、東日本インカレが無事に開催されてそこに出場できたことは、チームにとってプラスになったと思っています。この経験を今後の練習に生かしていきたいです。

(記 藤井 熙)



女子バレーボール部

部長	佐藤伊知子	
副部長	鈴木久子	
監督	松田健太郎	
コーチ	江刺静恵	
コーチ	遠藤友枝	(外部コーチ)
主将	間野安里彩	社会福祉学科 4年
主務	磯前明日香	福祉行政学科 4年

大会結果報告

4/30～5/15

第59回東北バレーボール大学男女リーグ戦
準優勝

6/22～6/25

第41回東日本バレーボール大学選手権大会
二回戦敗退

6/26

第77回国民体育大会バレーボール競技宮城県予選
準優勝

9/10・11

令和4年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール
選手権大会東北ブロックラウンド
一回戦敗退

9/24～10/10

第60回東北バレーボール大学男女リーグ戦
優勝

11/28～12/4

第69回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学
女子選手権大会
一回戦敗退

東北福祉大学女子バレーボール部は東北大会 113 連覇という輝かしい歴史があります。この連覇記録を超えていけるよう、チーム一丸となって日々精進しています。過去には、東日本インカレ優勝3回(平成8年度、12年度、28年度)、準優勝6回(昭和60年度、平成9年度、11年度、15年度、16年度、27年度)、全日本インカレ優勝1回(平成8年度)、準優勝3回(昭和61年度、平成4年度、14年度)という成績を収めてきました。今年も佐藤伊知子部長をはじめ、松田健太郎監督、江刺静江コーチ、遠藤友恵コーチのご指導の下、4年生7名、3年生3名、2年生6名、1年生5名の合計21名で「大学日本一」を目標に掲げ活動してきました。今年度はサイドアタッカーとの絡みを用いた多彩な攻撃とセンターの高さを活かした攻撃を特長とするチームを目指してスタートしました。今年度も新型コロナウイルスの影響によりチームでの活動が制限されて思うような練習が出来ない時期もあり、チーム全体で協力し今までにない辛く苦しい経験もりましたが、その経験を踏まえてよりチームが団結し、勝ちたい上手くなりたいという思いが強くなったように感じました。

私たちはまず、自分達の特長を發揮するために1本目のパスの精度を高められるように練習しました。またそこからしっかり決められるようにテンポの速い攻撃など、攻撃の工夫を各々が行いどんな相手にも決めきることができる攻撃力を身につけられるように練習しました。大会結果としては、春季リーグ戦準優勝、秋季リーグ戦完全優勝、今年度最後の試合であった全日本インカレでは初戦で岐阜協立大学に敗れ、初戦敗退で終わりました。自分たちの目標としていたものに遠く及ばず、とても悔しい結果になりましたが4年生にはプレーだけでなく戦う姿で引っ張って頂きました。今年度の反省をもとに練習から全員で一本に対して本気で向き合い、3年生を中心にチーム内で切磋琢磨し合います。そして個人の技術を上げてチーム力を高め、来年は必ず日本一になります。最後になりますが、沢山のご支援・ご声援をいただきました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも東北福祉大学女子バレーボール部を宜しくお願い申し上げます。

4年間の思い出

今年は、目標としていた結果に大きく届かない大会が多く、チームとして強くなることの難しさを痛感した一年でした。

1人ひとりが意図を持って毎日質の高い練習に取り組むことが、強いチームづくりにつながると思います。ですが、練習の意図が全員に伝わらないと練習の質が下がってしまうということを沢山痛感してきました。また、最上級生になり、自分の事だけでなくチームの事を今まで以上に視野を広げて考えなければならぬ難しさを感じました。振り返ると主将として至らない点が多かったと思いますが、この1年間たくさんの人に支えられ東北福祉大学女子バレーボール部として活動することができました。支えてくださった方々に感謝の気持ちを結果で恩返しすることができ

なかったことが、悔しいです。後輩たちには、この悔しさをバネに新たに力をつけ、来年こそは日本一を目指して頑張って欲しいと思います。

最後に、4年間東北福祉大学女子バレーボール部で活動してきて、沢山の方々のご支援やご声援があって自分達が活動できていることを実感しました。4年間で経験したことは、他の人には経験できないようなことばかりで、多くのことを学ばせていただきました。満足できる結果を残すことは出来ませんでしたが、周りの方々には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。これからも東北福祉大学女子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

(記 間野安里彩)



男子卓球部

部長	大倉峰雄	
監督	須藤豊	
主将	熊谷悠誠	社会福祉学科 4年
主務	中村天音	社会福祉学科 3年

大会結果報告

5/14～5/15

令和4年度 東北学生卓球連盟春季リーグ戦 兼
第91回全日本大学総合卓球選手権大会
(団体の部) 予選大会
男子団体 準優勝

6/10～6/12

第74回東北学生卓球選手権大会
男子ダブルス 優勝
男子シングルス 3位

7/6～7/8

第91回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)
決勝トーナメント進出

8/22～8/24

令和4年度秋季卓球リーグ 兼 第88回全日本
大学総合卓球選手権大会(個人の部) 予選会
男子団体 優勝
ダブルス 5ペア
シングルス 7名
全国大会出場

第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)

男子ダブルス ベスト32
男子シングルス 一回戦 4名敗退
二回戦 4名敗退

私たち、男子卓球部は今年で創部60年目という節目を迎え現在、大倉先生、須藤監督をはじめ4年生10名、3年生5名、2年生11名、1年生5名、計31名で日々の練習に励んでいます。現在卓球部部長を務めてくださっている大倉先生は中国の選手代表として世界選手権に出場しており、男子ダブルスにおいて第三位という快挙を成し遂げています。その後卓球留学生として来日し、全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)において4年連続優勝という結果を残しています。今年は昨年に比べ、コロナ禍での制限が少なくなり、出場できる大会も増えました。春季リーグでは、最終戦八戸工業大学にあと一步のところまで負けてしまい、涙を吞みました。しかし、この悔しさをバネに練習に励み、秋季リーグではリーグ全勝で優勝を飾りました。また全日本学生選手権においても、団体では予選リーグの壁を乗り越えベスト32、ダブルスでもベスト32と、ランク入りは逃すものの全国の舞台で戦える実力をつけています。これも、大倉部長、須藤監督の日々のご指導により部員が成長し、チームで戦い抜いた証拠です。

来年度は、春秋ともに優勝を果たし、東北ではもちろん、全国の舞台でも輝ける卓球部になれるよう、日々精進して参ります。

最後になりましたが、コロナ禍においても大会を開催していただき、日頃から多大なるご支援、ご協力をしていただいた関係者各位の皆さまに厚く御礼申し上げます。これからの卓球部も目標に向かって邁進して参りますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしく御礼申し上げます。

4年間の思い出

私は、四年間体育会卓球部として活動を続けてきました。東北福祉大学の卓球部は、これまで全国大会での入賞などをしており、伝統ある部活動で私もその一員として部活動に励むことに非常に誇りをもって学生生活を過ごすことができました。また、大倉部長、須藤監督をはじめ多くの先輩方、同期、後輩達と卓球を通して出会うことができたことは、私の人生の一番の思い出あり一生の財産になっていくと思います。

四年間の部活動での思い出は数多くありますが、中でも印象に残っていることはやはり日々の練習時間です。大学一年生の頃は練習時間を多く確保することができ、大好きな卓球をいつでも行うことができる環境でしたが、大学二年生の頃になると新型コロナウイルス感染症の影響で練習時間が制限され思うように練習をすることができなくなりました。また、それに伴い年間試合も無くなってしまいました。四年間という短い期間しかない中、一年思うようにできなかったことは非常に残念でしたが、このような状況でも限られた時間の中でチームメイトや監督などと協力して練習に励むことができたことは非常に良い経験であったとともに、通常経験することができない貴重な経験であったなと思います。当たり前のことを当たり前に行けると

いうことの素晴らしさをこの経験から学ぶことができました。

もう一つ印象に残っていることは、大学生活最後の東北大会です。なぜこの大会が印象に残っているのかというと、チームメイトの試合を数多く応援することができたからです。私自身レギュラーとして大会にプレーすることが多かった中、この大会では四年生ということで応援の方に力を注いでいました。チームメイトの多くの試合を見ていく中で、皆、確実に力をつけており上達しているということを実感することができ、今まで行ってきた練習は無駄ではなかったのだと改めて認識することができました。さらに団体で東北の一位に後輩たちが返り咲いてくれたのは非常に嬉しかったです。後輩たちが今後二連覇、三連覇と連続して優勝し全国で活躍してくれることを期待しています。

最後に、私自身卓球を続けてくることができたのは卓球を通して携わってくださった多くの方々に支えていただいたおかげです。今まで支えていただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、恩返しをしていくために社会人生活を頑張っていきたいと思います。四年間、本当にありがとうございました。

(記 葛西 良偉)



女子卓球部

部長 本間 雅人
監督 岩周 宏展
主将 本間 柚衣 社会福祉学科 4年
主務 佐藤 理佳子 医療経営管理学科 2年

大会結果報告

5月14日(土)～5月15日(日)
2022年度東北学生卓球連盟春季リーグ戦
第91回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)
予選大会

6月10日(金)～6月12日(日)
第74回東北学生卓球選手権大会

7月6日(水)～7月9日(月)
第91回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)

8月22日(月)～8月24日(水)
2022(令和4)年度秋季リーグ戦
第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)
予選大会

10月20日(木)～23日(日)
第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)

11月26日(木)～11月27日(日)
第18回全日本学生選抜卓球選手権大会

私たち体育会女子卓球部は、本間部長をはじめ岩周監督のもと、4年生5名、3年生2名、2年生6名、1年生4名の計17名の選手で日々活動を行っています。今年は、コロナ禍以前のように制限なく活動することができました。久しぶりの有観客の試合を行うことができ、貴重な経験をすることができ、来年に向けての成長の一步となりました。

限られた中での活動ですが日頃の練習では、選手ひとりひとりが課題意識をもって練習に取り組んでいます。監督・コーチの方には、休日にもかかわらず熱心に指導をいただいています。女子卓球部では、「日本一を目標に単に卓球技術の向上だけでなく、人間としても向上していけるように努力を重ねる」というチームの目標のもと卓球技術はもちろん、社会に出たときに必要な礼儀作法も指導いただいています。これからも体育会女子卓球部の伝統ある歴史を受け継ぎ、全国大会での上進出を目指して練習に取り組んでいきます。

最後となりましたが、今年度中にも多大なるご支援・ご協力いただきました関係者の皆様、活動にご理解・ご支援いただきました保護者の皆様、OB・OGの皆様、ご指導いただきました、先生・監督・コーチの方々に厚く御礼申し上げますと共に、さらなるご指導の程よろしくお願い申し上げます。

4年間の思い出

私達4年生5名は4年間体育会女子卓球部で活動してきました。私達は楽しい大学生活と部活動でのインカレ入賞の目標を胸に入学しました。しかし、その大学生活は決して順風満帆なものではありませんでした。2年生の春からコロナウイルスの流行が始まり私達の大学生活が一変しました。部活動も出来ず、大会も全て中止になり、前例のない世の中の動きに右往左往しながら、自分にできることを考え、様々な規制を強いられた苦勞の大学生活となりました。ピンチはチャンスとプラスの考えを持ち、制限だらけの生活の中から、様々なことを学びました。体育館に行けばみんなで卓球ができることの幸せ、何気なく送っていた日常が本当は当たり前ではないこと、命を守るための行動の難しさなど、大学生として経験できたことは自分の人生の中で

貴重な時間となりました。また、この苦痛の日々を互いに励ましながら共に乗り越えた仲間是一生の宝物です。コロナ禍で十分な練習は出来ませんでした。4年間の卓球を通し、技術面の向上だけでなく、人として大きく成長することができたと感じています。

最後にいつも応援してくださった大学の先生方、4年間ご指導頂いた監督やコーチ、いつも一番近くで見守ってくれた保護者の方々、多くの方の支えがあったからこそ今の自分たちがいると実感しています。心から深く感謝しております。4月からは新社会人として、新しい環境に身を置きますが、大学生活で学んだことを活かし、立派な社会人になれるように精進して参ります。4年間本当にありがとうございました。

(記 本間 柚衣)



テニス部

監督 菅原隆志
主将 高橋俊貴 産業マネジメント学科 4年
主務 村田和馬 教育学科 2年
外部コーチ 今野優子 (学外)

大会結果報告

宮城野原テニスコート
第60回宮城学生ソフトテニス春季選手権大会
優勝 遠藤・西澤組

泉総合運動場テニスコート
第5回東北学連杯争奪東北学生ソフトテニス大会
団体 2位

第42回東北学生男子ソフトテニス春季選手権大会
ベスト8 島山・高橋俊組、遠藤・西澤組

第21回東北学生春季シングルス選手権大会
ベスト8 横山 豪人、廣谷 開人、西澤 風哉

新青森総合運動公園テニスコート
第5回東北学連杯争奪東北学生ソフトテニス大会
団体 2位

第70回東北学連杯争奪東北学生ソフトテニス選手権大会
準優勝 庄子・遠藤組
3位 島山・高橋俊組

第28回東北学連杯争奪東北学生ソフトテニスシングルス選手権大会
3位 横山 豪人

白子テニスコート
第72回東日本大学対抗ソフトテニス競技大会
団体 三回戦敗退
第77回東日本学生ソフトテニス選手権大会
ベスト64 小野・飯淵組、庄子・遠藤組

宇部市中央公園テニスコート、維新百年記念公園テニス場
第76回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会
団体 三回戦敗退

山形県総合運動公園テニスコート
第79回東北学生ソフトテニス競技大会
団体 準優勝
ダブルス 三位 小野・飯淵組、庄子・遠藤組
シングルス 三位 庄子 隼人

宮城野原テニスコート
第44回宮城学生ソフトテニス秋季リーグ
団体 優勝

第60回宮城学生ソフトテニス秋季選手権大会
準優勝 小野・飯淵組
3位 庄子・遠藤組、島山・飯田組

東北学院大学泉キャンパス
第45回宮城学生ソフトテニス新人選手権大会
3位 小野・廣谷組

第34回宮城学生ソフトテニスシングルス選手権大会
ベスト8 小野 智史、葛西 伶音、廣谷 開人

宮城野体育館
第53回東北学生選抜ソフトテニスインドア選手権大会
3位 島山・高橋俊組

私たちテニス部は、菅原隆志監督、今野優子コーチの下で活動しています。部員は全員で16名在籍しており、4年生3名、3年生7名、2年生5名、1年生1名となっています。

今年度は昨年新型コロナウイルス感染症の影響によって中止となった大会が開催されることとなり東北地区での優勝、全国大会での入賞を目標に、高橋主将を中心にチームをまとめあげ、個々の技術、体力の向上に努めてきました。東北地区の大会では、団体優勝には届きませんでしたが、個人戦で上位入賞を収めることができました。全国規模の大会では、初出場の選手も多く、思うような結果が残すことができませんでした。目標達成とはなりませんでしたが、チーム全体で課題を共有しながら練習に取り組み、技術だけでなく、考える力や、本番で力を発揮できる能力を高めることができ、どの部員にとっても有意義な1年となりました。

今年度は、大会や練習を通常通り行うことができましたが、部活動ができる環境にあること、試合が開催されることを当たり前思わず、感謝の気持ちをもって活動していきたいと思えます。新たな目標を設定し今後も練習に励み、結果を残せるように頑張ります。最後になりますが、今年度も多くの方々からご指導、多大なご支援を頂戴しました。皆様の手厚いサポートの下に、部が運営できること、感謝の念に堪えません。関係各位の皆様にも厚く御礼申し上げます。これから、チーム一丸となり、より一層の努力を積み重ね、一步一步、少しずつではありますが成長していけるよう精進して参ります。今後とも皆様の温かいご声援の程宜しくお願い申し上げます。

4年間の思い出

大学4年間の部活動を振り返り、新型コロナウイルスの影響により、東北大会をはじめとする主要な大会が中止となり残念に感じる時期もありました。今年度は全ての大会が通常通り開催され、非常に充実した部活動生活を送ることができ、悔いなく4年間の活動を終了することができました。また、今年度は主将を経験し、競技を行いながら部活動をまとめる難しさを痛感する一年でもありました。しかし、主将を経験したことにより、競

技者としてだけでなく、人間として大きく成長することができました。

充実した部活動生活を送ることができたのは、監督をはじめ、両親や多くの方々の支援があったからだと感じ、非常に感謝しております。今後も感謝の気持ちを忘れずに日々精進しながら生活していきたいです。また、今後の部活動の活躍わ心から期待しております。

(記 高橋 俊貴)



バドミントン部

部長	五十嵐	守	
男子主将	早川	凛	社会福祉学科 4年
男子主務	高谷	洸輔	社会福祉学科 3年
女子主将	開発	莉子	社会福祉学科 4年
女子主務	奥村	友梨	社会福祉学科 3年

大会結果報告

5月27日(金)～6月2日(木) 令和4年度
東北学生バドミントン春季リーグ戦
女子団体 一部リーグ 優勝
男子団体 一部リーグ 4位

令和4年度東北学生バドミントン全日本
インカレ選考会

女子シングルス

櫻庭ほのか 優勝

奥村 友梨 2位

熊谷 雅 ベスト8

樋口 恵 ベスト16

女子ダブルス

樋口 恵・奥村 友梨 3位

開発 莉子・志田 遥 ベスト8

男子シングルス

高谷 洸輔 ベスト16

松島 聖矢 ベスト16

男子ダブルス

八坂 教生・早川 凛 3位

庄司健太郎・高谷 洸輔 ベスト16

園部慎一郎・橋爪 良介 ベスト16

9月5日(月)～12日(月) 令和4年度
第65回東日本学生バドミントン選手権大会
令和4年度第65回東日本学生バドミントン
選手権大会

女子団体 二回戦敗退

男子団体 一回戦敗退

10月14日(金)～20日(木) 第73回全日本
学生バドミントン選手権大会

第73回全日本学生バドミントン選手権大会

女子団体 一回戦敗退

11月5日(土)～8日(火) 令和4年度

東北学生バドミントン秋季リーグ戦

令和4年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦

女子団体 一部リーグ 優勝

男子団体 一部リーグ 3位

12月4日(日)～8日(木) 令和4年度

東北新人学生バドミントン選手権大会

女子団体 優勝

女子シングルス

熊谷 雅 ベスト4

女子ダブルス

熊谷 雅・志田 遥 ベスト4

バドミントン部は男子9名、女子8名で毎日活動しています。春リーグでは女子団体優勝、ダブルス・シングルス優勝を勝ち取り、全日本インカレに出場することができました。

また、秋リーグでは女子団体優勝、男子団体3位の成績を得ることができました。次の春リーグに向けて、よい結果になったと思います。来年度はさらに上を目指し、精神面、身体面の強化、またチーム一丸となって目標に向かって頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、バドミントン部の活動を支えていただいた関係者の方々に厚く御礼申し上げますと共に、今後ご指導、ご声援の程よろしくお願ひします。

4年間の思い出

4年間の大学生活を終えようとしている今、思い返すと、部活動から多くのことを学び、とても濃い4年間を過ごすことができたと感じています。

今年は久しぶりにすべての大会が開催されました。二年前から大会の出場人数が制限されたり、大会自体が中止になってしまったりしたため、練習に取り組むモチベーションが落ちてしまったりすることもありました。また、大会が開催されても大会前の練習が思うようにできず、多くの不安を抱える中大会に挑んだこともありましたが、今年はすべての大会が出場人数の制限もなく、開催されました。チーム全員が体調管理を徹底し一人もかけることなく出場することができました。大会期間中には、コロナウイルスに感染したため、棄権せざるを得ない大学も出ましたが、そのようなこともなく無事に試合に専念することができました。このような状況の中でも、団体戦だけでなく、個人戦でも多く

のメンバーが全日本インカレに出場できたのは、本気で応援しあえる仲間であり、ライバルでもあるチームメイトがいたからだと思います。私は4年間東北福祉大学バドミントン部の一員として過ごせたことに喜びと誇りを感じます。

私たち4年生は卒業し、4月には新チームが結成されますが、指導者や主将、主務が引張るだけのチームではなく、全員が先陣を切って主役として輝き、全員で進み続けるチームであってほしいと願うとともに、これからはOBとして活躍を応援しています。

最後になりましたが、五十嵐部長、谷内監督をはじめ関係者各位の皆様、これまで熱くご指導、ご声援いただきありがとうございます。今後とも東北福祉大学バドミントン部をご声援いただきますよう、よろしくお願いたします。

(記 早川 凜)



剣道部

部長	金	義	信
総監督	太	田	久
監督	石	橋	力
監督	田	村	希
コーチ	伊	藤	介
コーチ	西	山	規
主将	大	平	也
主務	小野寺	智	蓮
		教育学科 3年	
		産業福祉マネジメント学科 2年	

大会結果報告

5/29

第56回東北女子学生剣道選手権大会

女子個人 1位

女子個人 2位

6/12

東北地区学生剣道大会

男子団体 予選敗退

女子団体 予選敗退

7/2

全日本女子学生剣道選手権大会・全日本女子学生
剣道東西対抗

女子個人 1回戦敗退

女子個人 1回戦敗退

10/30

第69回全日本学生剣道優勝大会

男子団体 決勝リーグ 1回戦敗退

女子団体 予選敗退

10/26~10/27

第1回東北学生剣道新人大会

男子団体 ベスト8

女子団体 予選敗退

12/10~12/11

第16回全日本学生剣道オープン大会

女子個人 ベスト8入賞

私たち剣道部は、4年生6名、3年生7名、2年生9名、1年生9名の計31名にて週6日、国見ヶ丘第1キャンパス「武徳館」一階(剣道場)において、本学剣道部の修行の精神「心法」の教えのもとに、「剣道の理念」である『剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である』を志し、日々稽古に励んでおります。

また、毎日の稽古は勿論「学業」と「地域貢献活動」にも積極的に取り組んでおり、部員1人ひとりが様々な活動を通して社会に必要な実践力を身に付け、4年間の大学生生活を充実させております。

今年度の大会結果としましては、第56回東北女子学生剣道選手権大会で女子個人優勝、準優勝その結果女子2名は全日本女子学生選手権大会に出場することができました。結果はどちらも1回戦敗退という悔しい結果になりました。大会を通じて全国の層の厚さを感じ、全国の中でも勝ち上がれる力をつけなければいけないと感じました。10月に入り新体制のチームで挑んだ東北学生新人大会では、男子団体ベスト8、女子団体予選敗退、個人では男女とも入賞する事が出来ずとても悔しい思いこの悔しさを忘れずに稽古を行い、他の大会に向け、部内全体の結束力を高め、切磋琢磨しながら、自分たちのマイナス部分をすべてプラスに変え、男女アベック全国で優勝を目指し精進して参ります。

最後になりますが、今年度多大なる御指導、御協力を賜りました先生、先輩方、関係各位の方々に厚く御礼を申し上げます共に、今後も変わらぬ御指導、御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

4年間の思い出

私たち剣道部4年生は男子2名、女子4名と人数の少ない中先生方や外部コーチの手厚いご指導の下部活動に励んできました。この4年間はとても充実した日々を送ることができあつという間に感じました。私たち1年時には先生方に見守られながらも尊敬する先輩方の背中を追いつけたただひたすらに練習に取り組んできました。2年時には初めての後輩を持ち見守られる側から見守る側になり先輩としての自覚を持つようになりました。しかし、コロナ禍の影響によりまともに練習することができず、チーム全体が大会で優勝することを目標に日々の練習に取り組んできましたが、次々と大会が中止していき日ごろの練習成果を発揮する機会がなくなっていきました。そして先輩方の引退試合とされていた「東北学生優勝大会」も行われず先輩方は引退してしまいました。練習ができないまま私たち

は3年時に上がり少しずつ練習できる環境が整っていきました。今度は私たちの学年が中心となり新たに気持ちを切り替えようと部員全体で心一つに切磋琢磨に練習してきました。時には練習するだけでなく部員全体でミーティングをする時間を設け、どのようにしていけばより良い部活動を築き上げていくのかを話し合いをしてきました。何度も部員と話し合い何度も挑戦してきたからこそ今の部活動が続けられているのだと思います。最後になりますが、ご指導して下さった先生方や外部コーチの方々、支えて下さった先輩後輩の皆様、本当にありがとうございました。今後社会人になっても努力していくことを忘れず日々精進してまいります。そして東北福祉大学剣道部の今後の活躍を願っています。

(記 周本 敬杜)



令和4年度 武徳杯

柔道部

部長	三浦友和	五戸芳
監督	三浦友和	
コーチ	樋山勝美	
コーチ	川畑雅孝	
主将	秋保丞志	福祉行政学科 3年
主務	蝦名琴音	社会福祉学科 2年
主務	西出寛吾	社会福祉学科 1年

大会結果報告

8/21

東北学生柔道体重別選手権大会
60kg級 高橋昇平 準優勝

私たち柔道部は、三浦部長をはじめ、五戸コーチ・樋山コーチ・川畑コーチのご指導の下、4年生5名、3年生3人、2年生9名、1年生12名の計29名で練習を行ってきました。今年は感染対策に気を使いながら大会や日々の稽古を行ってきました。男子は、秋田県で行われた東北学生柔道体重別選手権大会で高橋昇平が60kg級で準優勝となり全国大会へと出場しました。女子は、全日本学生柔道優勝大会で強豪早稲田大学と対戦しました。

今年は、行動制限が緩和され山梨学院への出稽古や受け入れを行い色々な形で練習に取り組んできました。コロナウイルスの影響で練習ができなかった期間も筋トレなどの個人の取り組みを行ってきました。練習を行う中で、効率の良い練習をできるよう五戸コーチのアドバイスの下、決まった時間の稽古にプラスしてトレーニングを加えた練習をしています。

これからは、現3年生にとって最後の大会となる春の大会を見据えて練習に取り組み、男子は、悔しくも今年度達成できなかった団体戦で全国大会に出場するという目標、女子は、全国大会で一勝するという目標を実現できるよう、また、個人戦では1試合でも多くの勝利をつかめるように頑張っていきます。選手・主務一丸となって努力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

4年間の思い出

入学前学生主体の部活であると聞いていたので、自分が積極的に活動し部を盛り上げるつもりで入学しました。しかし1年目の夏に怪我をしてしまい、目標にしていた大会へ出場することができませんでした。学生主体の部であるからこそ大会で結果を残し、盛り上げていきたいという気持ちが強かったので、怪我をした当時は活躍しているライバルたちに差をつけられてしまうのではないかと焦りを隠しきれませんでした。それでも2年目の大会に向けて再出発しましたがコロナウイルスの影響で大会がなくなり2年度も結果を残すことができませんでした。練習の成果を結果にすることができないまま2年がたち部活の活動自体も濃厚な練習ができないまま時間が過ぎてしまいました。自分が成長できているかわからない中で練習を続けるのはとても苦

しいものでした。そして3年時には部の主将を任せられ方向性が定まっていない部をまとめることができるか不安でしたが、同期やコーチ、監督とよく相談し活動方針などを決め練習に取り組んでいきました。そうやって仲間と先生方と時には衝突しながらより良い環境にしようと試行錯誤していました。そして3年時、個人で全国大会出場を果たし、やっと結果を残すことができたことと安堵しました。そこから4年時は団体での全国出場を目標に練習に取り組みましたが目標達成には至りませんでした。この4年間大変なことも多かったのですがチームをまとめることの難しさなど多くのことを学ぶことができました。団体出場はかないませんが、その夢は後輩に託し応援していきたいです。

(記 高橋 昇平)



スキー部

部長	平間正志	
コーチ	佐々木栄太郎	
コーチ	八嶋徹也	
主将	上山倅大	社会福祉学科 3年
主務	辻楓	福祉行政学科 3年

大会結果報告

第96回全日本学生スキー選手権大会

【クロスカントリー】

男子2部 15km

クラシカル 9位 上山 倅大

男子2部 10km

フリー 3位 上山 倅大

【アルペン】

女子2部 GS

8位 佐藤 亜純

男子2部 GS

5位 浅井 征人

女子2部 SL

3位 佐藤 亜純

今年度スキー部は、男子4名と女子3名（マネージャー1名）の計7名で活動してきました。そのうち、アルペンが4名、モーグルが1名、クロスカントリーが1名と個々が目標に向かい練習に励んできました。競技種目が違いながらも、全体練習では、ランニングやウエイトトレーニング、種別練習では、登山やトレイルランニング等を行い、それぞれの競技に合った方法で練習に取り組みました。

また、近年、新型コロナウイルスの影響で、全体で練習行うことが難しい状況にありましたが、今年度は行動制限等も徐々に緩和されたことから、オフシーズンの強化合宿や冬季の調整合宿などの機会も増え、全員が大会での優勝・入賞を目標にチーム一丸となって頑張ってきました。そして、先日行われた「秩父宮杯・秩父宮妃杯 第96回全日本学生スキー選手権大会」では、3名の選手が入賞することが出来ました。練習等のご指導をいただいた監督・コーチをはじめ、応援して頂いたOB、関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

今後も、更に競技力を向上させ、東北福祉大学体育会スキー部を盛り上げていけるよう、努力して参ります。チームでより一層練習に励んでいきますので、これからもご指導とご声援の程よろしくお願い致します。

4年間の思い出

私はフリースタイル競技のモーグルという種目を行っております。今までスキー部にはフリースタイル競技の前例が無く、全てが初めてで不安を覚えながら4年前入部しました。種目の違う私が活動しやすいよう様々なサポートをしてくださった部長、コーチには心より感謝しております。他の部員とシーズン中一緒に練習する事は叶いませんでしたが、オフシーズンは全員で活動する事ができ、先輩方が大切にしてきた「互いに支え合って競技力を向上させることができる練習環境」を受け継ぐことが出来たと自負しております。

昨年選手を退いて今年からサポートにまわり、学生運営委員として初めてインカレに参加しました。選手と役員を経験を通じて多く

の方のご協力の上で競技が出来ているということ。携わってくださった皆様への感謝の気持ちを改めて実感することができました。部活動を通して得た知識や経験をこれからの人生の糧として日々精進して参ります。

最後になりましたが、小山田会長、平間部長、佐々木コーチ、八嶋コーチをはじめ関係者各位の皆様、これまで多大なご支援、ご協力賜りました。部員を代表致しまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今後とも東北福祉大学体育会スキー部のご声援の方を宜しくお願い致します。

(記 大塚 早智)



男子陸上競技部

監督	永 浦 和 也	
駅伝監督	和 気 恭 平	
トラック・フィールド監督	永 浦 和 也	
主 将	大 内 奎 吾	社会福祉学科 4年
主 務	菊 池 拓 哉	福祉行政学科 3年

大会結果報告

6/3～6/5

第75回東北学生陸上競技対校選手権大会

男子 10,000 mW 第3位 大内奎吾

男子 4×400 mR 第2位

(工藤・菊池・山谷・佐藤)

男子走幅跳 優勝 小山哲哉

7/2～7/3

第44回北日本学生陸上競技対校選手権大会

男子 400 m 第2位 菊池拓哉

男子 5,000 m 第3位 齋藤陸杜

男子 4×400 mR 第2位

(佐藤・菊池・櫻庭・工藤)

9/9～9/11

第91回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子走幅跳 出場 小山哲哉

男子 4×400 mR 出場

(菊池拓哉・菊池悠平・工藤・櫻庭)

10/10

第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走

東北学連選抜 2区出場 齋藤陸杜

私たち男子陸上競技部は現在、4年生4名、3年生7名、2年生10名、1年生3名、計24人で日々の練習に励んでいます。

今年度の結果として、第91回日本学生陸上競技対校選手権大会に男子走幅跳と男子4×400mRに出場し、計5名の選手が出場しました。男子走幅跳に出場した小山哲哉(4)は初の全国大会ということでしたが、日々の練習の成果を十二分に発揮し、全国の強豪選手相手に健闘しました。また、男子4×400mRでは、昨年にも出場した選手もいましたが、惜しくも目標達成には届きませんでした。しかし、強豪校相手に怯むことなく健闘し、全国大会初出場の選手にとっては貴重な経験ができました。第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走に東北学連選抜として、齋藤陸杜(2)が2区で出場しました。初出場でしたが日々の練習の成果を十二分に発揮しました。全国の強豪選手には敵わなかったものの、貴重な経験をすることができました。

次年度は、より多くの選手が全国大会出場を成し遂げてほしいです。そのためにも、選手同士が切磋琢磨し合うと共に、個々の能力向上に努めます。また、チーム力の強化にも力を入れます。そして、私たちは強い選手になることはもちろんのこと、強い人間なることを目指していきます。そのために、周りの人の模範となる言動をし、社会でも通用する人間力も向上させていきます。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染が拡大しております社会情勢下におきまして、今年度中にも多大なるご支援・ご声援を賜りました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。来年度もご支援。ご声援の程宜しくお願い致します。

4年間の思い出

あとにも先にも、世界が感染症という脅威によって変化していく前と今をこの大学で過ごした最後の世代ではありましたが、数多の困難を乗り越え、競技力だけでなく人としても大きく成長できたと自負しています。

入学当初、私は慣れない環境に戸惑い、思うような結果を出せずにもがき苦しんでいました。しかし、一人一人の主体性を大切に、周囲の方々への感謝の気持ちを大切にする福祉大陸上競技部での活動の中で、常日頃から私たちの活動を支援してくださる方々の有難みを実感し、手厚く指導してくださる監督方や、どんな時も私を信じて応援してくれた両親の期待に応えるべく、必死に部の運営や競技に向き合うようになりました。

度重なる努力の結果、大学2年から花を咲かせることができ、毎年全国レベルの試合に出場し続け、微力ながらもチームに貢献することができました。部の運営という側面においても、2年生から財務主務系の役職、最後には主将といった大役まで任せていただけることになり、自身の成長を実感するとともに

身の引き締まる思いで部に向き合うようになりました。

4年間の思い返してみれば、自分を支えてくれた方々の顔ばかり浮かびます。人とのつながりが私を成長させてくれました。最後の年は、思うような結果を残すことができず志半ばでの引退になってしまいましたが、こんなにも競技に熱中できた環境にいられたこと、いつも傍にいて支えてくれた仲間や家族。そして関わってくださったすべてのの方々のおかげでここまで駆け抜けることができたのだと思います。感謝してもしきれません。

今後はOB・OGとして、後輩たちの応援やサポートをしていく立場となりますが、後輩たちには、支えてくださる方々や、応援してくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、陸上に向き合ってほしいです。

私たち4年生だけでなく、陸上競技部を応援してくださった皆様、4年間本当にありがとうございました。

(記 大内 奎吾)



女子陸上競技部

監督 冠 木 雅 守
主将 小 松 莉 菜 医療経営管理学科 4年
主務 粟 野 萌々香 社会福祉学科 1年

大会結果報告

東北インカレ

1,500m 4位入賞 梅村光理
5,000m 1位入賞 千葉未来

北日本インカレ

1,500m 2位入賞 平藤楠菜

全日本インカレ

1,500m 4位入賞 (東北・北日本学生新記録)
金澤佳子
3,000m 8位入賞 中根美咲

全日本大学女子駅伝 東北予選会 1位 (16連覇)
東北福祉大学

全日本大学女子駅伝
総合 13位

富士山女子駅伝
総合 11位 (過去最高)

私たち東北福祉大学女子陸上競技部は、全日本大学女子駅伝8位入賞を目指し1年間切磋琢磨してきました。陸上界の中で強い選手は関東の名門校に入るという風潮を私たちが打破し、東北の学生でも全国で戦えるという希望を東北の陸上界に届けるべく今年は多くの合宿や大会に参加しました。

5月に、チームづくりとして岩手県葛巻町にて約2週間合宿を行いました。新入生も加わり初めての合宿となった葛巻合宿では、主に集団走や補強をベースとしてチーム全体の結束感を高めました。集団でまとまって走ることで自分もチームの一員であることを意識させ、補強ではメディシンボールやケトルベルといった様々な器具を使い、上級生が下級生にアドバイスをしながら練習を行いました。こういった自分のみならず、他人のことを思いやり尽力するといったことは、本学が掲げる自利・他利円満の精神に通ずることであると感じます。

葛巻合宿が終了し、6月には東北インカレに出場し、5,000mと10,000mでは上位を東北福祉大学が独占することができました。全国の舞台だけをみるだけでなく、まずは東北の地を自分たちの走りで盛り上げたいという気持ちのもと、走ることができたと強く感じます。

7月に入ると上旬には北日本インカレ、下旬は福島県の西郷村にて走り込みの合宿を行いました。昨年に行った西郷村合宿では、クロスカンントリーコースの周回や坂道でのショート走を行い、走るという動作の基盤を固め全日本大学女子駅伝や富士山女子駅伝の坂道をどのように攻略すべきかといった、先を見据えた練習を行い、その成果をそのまま8月初旬の青森県で行われる十和田八幡平駅伝に繋げることができました。かなりの猛暑の中で行われた十和田八幡平駅伝ですが、誰ひとりとして体調不良者がでなかったことは、サポートに来て頂いたOB、OGの方、チームスタッフのおかげかと思えます。

また、下旬には北海道の函館で約3週間合宿を行いました。この合宿のテーマは「2割の余裕」です。夏になり全日本が近づいてくる中で生活面、学習面で余裕がなくなり雰囲気が落ちてしまうといったなかで2割の余裕を持ち、自分だけでなく周りに視野を広げて合宿を行うことができました。この合宿のおかげでチームの雰囲気も大きく変わり、10月の本戦に向けて勢いをつけることができました。

9月には全日本大学女子駅伝東北予選会が行われ、A、Bチームどちらもゴールまで気を抜かず走りきることができました。10月に入り、部の雰囲気も引き締まる頃に行われた宮城県東松島市での区間配置を決める調整合宿では、東松島のロードを全日本のコースに見立てての集団走やハイジヨグ、1,000mや10,000mのビルドアップを行いました。この合宿で大切にされたのは「自分がやってやる」という気持ちです。私たちの部活は他大学と比べてリハビリにまわる選手が多く、復帰も遅いため、少数精鋭での駅伝を余儀なくされます。その中で自分がチームを引っ張っていくという強い気持ちを育てるためにこの合宿を行いました。上級生のみにも頼るのではなく下級生も積極的に練習を行い、着々と自分で押せる力をつけていきました。

10月末の全日本大学女子駅伝はシード権に届かず13位という結果になってしまいましたが、この悔しい思いを年末に行われる富士山女子駅伝に全力でぶつけることができ過去最高の11位という結果でした。

この1年、多くの方に支えられたという感謝の気持ちを胸に、東北の底力を発揮できるようにこれからも頑張りたいと思います。

4年間の思い出

4年間の競技生活はたくさんの方々に支えられて陸上競技に没頭することができました。

1年時の冬からは新型コロナウイルス感染拡大により、今まででの生活が一変しました。学生生活では対面授業がなくなり、オンライン授業の実施に変わりました。課外活動も集合して練習ができず、今まで普通にできていたことが当たり前ではないことに気づかされ

ました。

感染症の影響で、思い描いていた学生生活とは少し違う形にはなりましたが、私が考えている以上に、たくさんの方が関わってくれているおかげで競技が行えていることを再確認することができ、置かれていた環境に感謝しています。恵まれた環境の中で大好きな陸上のできたこと、本当に幸せだと思いました。

(記 小松 莉菜)



サッカー部

部長	大野光吉	
監督	吉田繁喜	(学外)
監督	国井精一	
男子主将	鈴木悠生	社会福祉学科 2年
男子主務	金野太亮	産業マネジメント学科 1年
女子主将	福原亜美香	医療経営管理学科 2年
女子主務	須田千尋	医療経営管理学科 1年

大会結果報告

(男子成績)

東北大学サッカーリーグ2部
2位

東北地区総理大臣杯
3位

(女子成績)

東北地域大学女子サッカーリーグ
4位

(男子)

私たち男子サッカー部は、様々な学科の学生が混在しているため、基本的に平日の全体練習は朝の7時から、土日祝日は朝9時から練習、試合を行っています。男子サッカー部は、東北地区大学サッカーリーグ南2部に所属しており、最終的に1部昇格することを目標に日々練習しています。宮城県の選手を中心に、様々な地域から来た選手が人工芝という恵まれた環境で活動し、良い結果をだそうと日々の練習を意識高く行っています。今年のリーグ戦も昨年と同様新型コロナウイルスの影響もあり試合数が少なく、1位のみが昇格に向けた入れ替え戦にいける形でした。得失点差の関係で2位となり目標だった1部昇格という目標は達成することができませんでした。来シーズンも東北地区大学2部リーグでの戦いになってしまいましたが、今季リーグで出た課題を修正し、試合や練習を重ねながらチームとして成長し来シーズンは1部昇格に向けて頑張ろうと思います。来年こそは、1部昇格を目指し一つ一つの練習の意匠をくみとりチーム内で切磋琢磨しあいながら頑張っていきたいと思います。今年度中に多大なるご支援ご協力賜りました関係者各位の皆様へ厚く御礼申し上げます。来年度は、全ての大会で今年以上の成績を残し、1部昇格できるようにチーム全体のレベルアップに力を入れていきます。いい結果、質の高いサッカーを目指していきますので、応援やご指導のほどよろしく願い申し上げます。

(女子)

私たち体育会サッカー部女子は、3年生6名、2年生7名、1年生1名の計14名で日々活動しています。平日は7時から、土曜祝日は9時から活動を行なっています。全日本大学女子サッカー選手権大会出場を目標として日々練習を重ねています。部員は多くはありませんが、人工芝のグラウンドというとても良い環境で活動しています。今シーズンは東北地域大学女子サッカーリーグ4位という成績でした。来シーズンはこの成績を上回れるように日々努力していきたいと思います。今年度中に多大なるご支援ご協力賜りました関係者各位の皆様へ熱く御礼申し上げます。結果を残せるようチーム一丸となって頑張りますので、これからも応援やご指導の程、よろしく願いいたします。

4年間の思い出

(男子)

私はサッカー部に入り、チームメイトにも恵まれ、かけがえのない時間を過ごすことが出来ました。

1、2年生の頃は監督が不在だったため学生主体で部活動を活動してきました。学生主体という事もあり、モチベーションの維持やメンバー選考、高い練習強度の継続など意識はしているものの、やはり難しくどこかで甘えを感じる場所がありました。個々の選手能力は高いものの戦術となると他のチームに劣る為、3部の1位にはなるものの入れ替え戦や昇格戦で2部のチームには勝てる事ができず苦しい時期を過ごしてきました。

しかし新たに3年生から指導者をお迎えしてサッカー部が変わりました。

コロナウイルスの影響もあり試合が中々出来ない時期もありましたが、練習の強度や質が上がり、選手の能力はもちろん、戦術やチームとしての完成度が高くなりました。

コロナウイルスの影響で2部に昇格し、4年生では1部昇格に向けて活動に取り組みました。

3部でもがいていたチームが、2部では首位争いをし、1、2年で負けていた大学にも勝つことが出来るようになりました。しかし結果は、得失点差の差で2位となり1部昇格する事が出来ず悔しい結果となりました。

惜しいでは通用しない勝負の世界だからこそ、2位という結果に誰も満足していませんでした。来年はこの悔しさを糧に、後輩が東北福祉大学サッカー部を1部に昇格を果たしてくれると信じています。

最後になりますが、大野部長を始めとする指導者の方々、ここまでサッカー部を繋いでくれた先輩方、プレーできる環境を整えてくれた大学、そしてなにより両親やチームメイト、このサッカー部に携わったすべての人に感謝申し上げます。

各々部活動で得た経験を社会で活かし、東北福祉大学サッカー部の名に恥じない社会人になりたいと思います。4年間ありがとうございました。

(記 芳野 海龍)

(女子)

1年間を振り返って、私たち体育会サッカー部女子はこの1年で大きく成長できたと感じています。目標である全日本大学女子サッカー選手権大会の予選では、得失点差で4位という結果になってしまいました。この大会を通じて一戦一戦の大切さ、失点の重みを身に染みて感じさせられました。良い結果を残すことはできませんでしたが、この経験を糧に来シーズンに臨みたいと思います。

(記 福原亜実香)



躰道部

部長	武田圭矢	
監督	青木寛敏	
主将	森真機	社会福祉学科 4年
主務	越戸あかり	社会福祉学科 4年

大会結果報告

宮城県体育大会躰道競技会
出場

東北地区躰道優勝大会
出場

北日本地区学生大会
出場

私たち躰道部は、武田部長をはじめ、青木監督のご指導の下、男子2名、女子2名の計2名が部活動に取り組んでおります。少人数ではありますが、各種大会の出場や他大学との交流を図りながら活動を行っております。

また、今年度は、県大会、東北大会、北日本地区大会の大会に出場してきました。その際に感じたのは他大学や道場生との力の差でした。しかし、人数や環境も違う多くの他大学と試合を通して触れられたのは貴重な経験となりました。

コロナ禍での活動では、今までのように日々の練習を行い、大会に参加し、様々な方と交流を図ることがどれだけ恵まれている環境だったのか、当たり前の日常の有難みを感じる1年間となりました。

4年間の思い出

4年間の中で様々な経験をしました。楽しかったこと辛かったこと思い起こせば、すべてが最近のことのように思われます。その中でも特に印象に残っているのは、コロナ禍において部活動を継続することの難しさと創意工夫の大切さです。剣道の理念の一つに「我動く故に我あり」という言葉があります。この言葉は、どの様な状況においても、自分から相手に意志を伝え、主体的な行動を起こし

ていくことにより環境を変化させていくという考え方です。この考え方を活かし、現状において出来ないことを考えるのではなく、どの様にしたら行動を継続することが出来るのかを考え、活動を継続することができました。これらの剣道部で経験した様々なことを、今後の人生においても必ず活かしていきたいと考えています。

(記 森 真機)



東北地区大会にて

弓道部

部長	松本祥子
監督	佐藤真幸
コーチ	佐藤明
主将	大友駿輔 教育学科初等教育専攻 3年
主務	中塩永貴 産業福祉マネジメント学科 3年

大会結果報告

4/9

第61回東北学生弓道大会 男子の部
団体 準優勝
個人 3位

4/16

第61回東北学生弓道大会 女子の部
団体 準優勝
個人 優勝、3位

5/28

第48回東北地区記録会
入賞者なし

6/25~26

第34回全国学生弓道選抜大会
男子 予選敗退
女子 決勝トーナメント第1回戦敗退

7/2~3

第70回全日本学生弓道選手権大会 個人予選
男子 3名決勝進出
女子 進出者なし

8/10~12

第70回全日本学生弓道選手権大会
男子団体 予選敗退
女子団体 決勝トーナメント1回戦敗退
男子個人 1名射詰め1本目敗退
1名射詰め3本目敗退
1名入賞決定遠近競射敗退

10/8~9

第62回東北地区秋季学生弓道大会 I部リーグ戦
団体 第4位 II部リーグ降格
個人 入賞者なし

10/15~16

第52回東北地区秋季女子学生弓道大会 I部リーグ戦
団体 第3位
個人 入賞者なし

12/3

第26回東北学生弓道新人戦
団体 決勝トーナメント1回戦敗退
個人 2名個人決勝射詰め1本目敗退

私たち東北福祉大学体育会弓道部は、部長の松本祥子先生をはじめ、佐藤真幸監督、岡田清一師範先生、佐藤明コーチのご指導の下、現在4年生7名、3年生6名、2年生3名、1年生3名の計19名で活動しています。

現在男子が東北地区II部リーグ、女子が東北地区I部リーグ所属しており、第三校地にある弓道場で王座決定戦をはじめとする各全国大会及び上位大会への出場・入賞を目標に掲げ、日々精神面・技術面で上達できるように練習に励んでおります。

令和3年度は男子が念願のI部リーグ昇格、女子が秋季I部リーグ戦連覇及び全国王座決定戦出場という華々しい結果で幕を閉じ、東北地区において最も勢いのある大学としてシーズンを終え現4年生の引退に花をそえることができました。

念願の男女共に東北地区I部リーグ所属校として望んだ令和4年度シーズン、序盤はとても輝かしい成績で始まりまして。ルール変更に伴い本学が元々持っていた全国選抜大会の出場権を手放し、再びその権利を得るために望んだ東北地区春季大会では男女共に準優勝となり正式に全国選抜大会への出場権を得ることができました。しかし今の主力である代が入部してから対面での試合は1~2回しか経験が無く、その場慣れ不足により全国選抜大会本番では1本の重さに涙をのみました。元々現4年生が引退してからは人数がとても少なく、日々の練習においても緩みが出てしまい、ズルズルと時間が流れていった結果として夏に行われたインカレや秋季リーグでは情けない姿を見せてしまいました。結果としては男子II部リーグ降格、女子秋季リーグ3位という例年に比べてとても情けないシーズンの締めとなってしまいました。

現3年生が現役を引退し主力として活動していく人数は1・2年生合わせて6名となってしまい今後の活動についてはとても不透明な状態にあります。しかし我々は「東北福祉大学体育会」の一員であるという自負と誇りを持って日々生活していくと共に、またいつか人数もたくさんいる強豪としての東北福祉大学体育会弓道部が復活することを心から信じています。

最後になりますが、今年度中も関係各位の方々から多大なご支援、ご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。今後とも東北福祉大学体育会弓道部へのお導きのほどよろしくお願い申し上げます。

4年間の思い出

高校時代最後の大会での悔いを晴らすべく東北福祉大学体育会弓道部に所属し、気がつくと4年という月日が流れました。

部活をしてきた4年間は本当に一瞬で時間が過ぎていきました。4年間で振り返ると、一年次は、高校最後の試合での悔しさを晴らし、全国で活躍することを目標に入部してきました。初めて会う人たちと上手くやって行けるのか不安もありました。しかし、同期と協力し支え合いながら多くのことを先輩方から学びました。それを元に試合に向けて努力しましたが、活躍することが出来ませんでした。

2年次は、副将を任せて頂きました。一年次に学んだ技術や知識を活かし、今年こそはと思っていると、新型コロナウイルスが大流行してしまいました。開催予定の試合、行事は全て中止、練習自体も中止とどこにもやれない遣る瀬無い気持ちでいっぱいでした。

3年次は、主将を任せて頂きました。しかし、練習の日数は減少、時間も少なくなってしまう日々が続きました。少しずつ新型コロナウイルスが落ち着いてきた時期から大会がリモートでの開催が始まりました。今までの形式とは異なるため難しいこともありましたが、

勝つため練習を頑張ることで目標にしていた1部リーグ復帰を達成することが出来ました。

新型コロナウイルスなど多くの辛く、苦しい思い出もありましたが、それ以上に大会での優勝や1部リーグ復帰など嬉しい思い出や楽しい思い出でも多くあります。これらはこの部活に所属していなければ感じる事がなかったものだと思います。先生方、先輩方、同期、後輩たちと過ごした4年という時間は宝物であり、これから先ずっと覚えている思い出です。また、4年間部活を続けて来られたのは同期や家族の支えがとても大きかったと感じており、とても感謝しています。

後輩たちへ、これから大きな苦難にぶつかる時もあると思いますが、同期や周りの人たちと協力して支え合っていけば乗り越えることが必ず出来るので周りとの関係を大切に頑張ってください。

最後になりますが、先生方からの多大なるご支援、ご協力賜りました。部員を代表致しまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(記 川上 雄飛)



男子ハンドボール部

部長	千葉伸彦	
監督	影山陽大	
コーチ	山田隼也	
主将	岡部 駈	社会福祉学科 3年
主務	坪谷 光	社会福祉学科 2年

大会結果報告

4/13～15、5/21～22

第57回令和4年度東北学生ハンドボール
春季リーグ戦選
準優勝

9/17～19、10/1～2

第67回令和4年度東北学生ハンドボール
秋季リーグ戦
準優勝

11/2～7

高松宮記念杯男子
第65回令和4年度(2022年度)全日本学生
ハンドボール選手権大会
初戦敗退・ベスト32

私たち、男子ハンドボール部は今年度で38年目を迎えますが、これまでに東北の大会では何度も優勝し、東北では強豪として知られており、全日本インカレには毎年出場していました。現在は、千葉部長をはじめとして影山監督、山田コーチのもと、3年生2名、2年生8名、1年生5名、計15名で、東北学生リーグ全勝優勝・東日本インカレブロック優勝、インカレベスト8を目標に活動し、「自立・自律」した人間になれるように学生が主体となって日々の練習に取り組んでいます。今年度は秋季リーグで準優勝を果たし、見事全日本インカレに2年連続で出場することが出来ました。全日本インカレでは緊張の中、対戦相手とのフィジカルの面で格の差を見せつけられ、初戦敗退と悔しい結果になってしまいました。この悔しさを今後の練習で力に変え、一人ひとりが意識を高めて自分を磨き、チーム全体で成長していきたいと思います。

今年のチームは体力面やフィジカルといったところが劣っていたように感じていました。そのことから、シーズン期間は週5日のボールトレーニングと週1回のウエイトトレーニングを行い、オフシーズンは週3回のボール練習と週2回のウエイトトレーニングで体力強化を行っています。また、授業等で大学体育館が使用できない場合などは、外部体育館での練習、大学周辺で体力トレーニングなどを行っています。

私たちは、目標を達成するためにチーム全体で欠点をメンバー同士で模索し合いながら練習に励んできました。試合本番になると練習通りにいかないことが多くあり、特に緊張によってプレイに支障がでてしまう人もいました。そういった部分は練習でどれほど緊張感をもってプレイし、本番を想定できるかが改善につながると考えました。私たちは、ゲーム形式で負けチームに罰を与えることで、少しでも負けたくないという気持ちから、一人ひとりの緊張感を高め練習でも本番を想定した練習が出来たのではないかと思います。また、技術面だけでなく試合で走り負けない、当たり負けない体づくりに関しても自分たちで目標を立て、一人ひとりが強くなろうとする努力をしてきたと思います。そして、これに加えて、部の道具を大事に使用し、整理整頓をすることによりチーム全体の士気が高まり、練習や試合でのコンディションが良い状態で活動できるのではないかと思います。4年生が抜け、新チームとなり、新1年生が入ってくるまで人数が少ない状況ではありますが、やることは変わることなく、一人ひとりが目標に向かって勝つために何をすべきなのかを考えていきたいと思います。そして勝ちにこだわり、普段の練習から争い互いに成長していきたいです。

最後になりましたが、今年度中にも多大なるご支援、ご協力を賜りました関係各位の皆様へ厚く御礼申し上げます。そして今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

4年間の思い出

初めに、目標であるインカレベスト8には届きませんでしたが、出ている選手も出てない選手も心一つにして戦うことが出来ました。最後になりますが、今年度中も多大なるご支援とご協力をして頂いた家族、関係者の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

この4年間で振り返ると新型コロナウイルスの影響で活動が制限され練習が出来なくなることや大会中止になることが多々ありました。令和2年度はすべて中止になりましたが、令和3年度は様々な大会に出場する事が出来ました。その結果、全日本選手権大会の出場

権を手にすることが出来ました。その時の喜びは忘れられません。自分たちの目標である「インカレベスト8」を達成するため、試合で出た課題や反省点をもとに、全員で練習メニューを考え、コミュニケーションを取りながら活動してきました。最終的には目標達成することは出来ませんでしたが、4年間の部活動を通して様々な事を学び、得たものが沢山ありました。支えてくれた沢山の方々、本当に感謝しております。ありがとうございました。

(記 立花 佑太)



高松宮記念杯男子第65回令和4年度(2022年度)全日本学生ハンドボール選手権大会にて

女子ハンドボール部

部長 齋藤昌宏
監督 千葉伸彦
主将 加藤杏菜 福祉行政学科 4年
主務 柿崎花純 医療経営管理学科 4年

大会結果報告

5/20～5/22

第57回東北学生春季リーグ
優勝

8/11～8/13

第44回東日本学生選手権大会
優勝

9/30～10/2

第67回東北学生秋季リーグ
準優勝

11/3～11/7

高松宮記念杯男子第65回女子第58回全日本
学生選手権大会
1回戦敗退

私たち女子ハンドボール部は齋藤部長、千葉監督のご指導の下、4年生3名、3年生2名、2年生6名、1年生8名の計19名で活動しています。チーム目標では「全国大会でベスト8」を掲げ、日々練習に励んでいます。昨年には新型コロナウイルスの影響で開催されなかった大会がいくつかありましたが、今年度は東北リーグの大会を始め、全国大会まで全ての大会が開催され、出場することができました。今年度最初の大会となった春季リーグでは、昨年度からコートに立つ選手が多く、その経験もあり東北内では点差をつけ勝ち切ることができ、東日本学生選手権への出場を手にすることができました。この大会の勝利でチームとしても良いスタートを切ることができました。8月に行われた東日本学生選手権では、リーグ戦を1位で突破できれば全国大会への出場が決まるという場面で全員が諦めず、戦い続けたことで試合中に怪我人が出てしまうアクシデントにも全員で対応し、残り5分まで同点という状況から3連続得点で優勝という結果を残すことができました。この接戦で勝ち切れたということが私たちにとっても大きな自信になり、全国大会へ弾みをつけることができた試合となりました。10月に行われた秋季リーグでは攻守でミスが多く出てしまい、決勝の富士大学戦ではリードされる展開が続き、最後まで追いつけず準優勝となりました。自分たちの弱い部分を修正しながら練習を重ねてきましたが、試合中での修正ができなかったことが敗因の一つでした。ですが、この敗戦が1か月後の全日本学生選手権までにどうしていかなければいけないのかを改めて考え、練習に活かしていける財産となりました。

11月には全日本学生選手権が行われ、1回戦は関西福祉科学大学と対戦しました。序盤はリードできる展開がありましたが、中盤から終盤にかけ徐々に離され敗戦となりました。目標としていた「全国ベスト8」には届きませんでしたが、下級生が多くコートに立ち、この大会を経験できたことは4年生が引退後の新チームにとっても大きな力になると思います。次年度は全国大会で一つでも多く勝利し、「ベスト8」という目標を達成できるよう日々努力し、全員で一つになり練習に励んでいきます。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染が拡大しております社会情勢下におきまして、多大なるご支援、ご声援を賜りました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。次年度も引き続き女子ハンドボール部へのご支援、ご声援のほど宜しくお願い致します。

4年間の思い出

私は四年間のハンドボール部での活動を通して、様々な経験をさせていただきました。中高生時代は先生や監督から言われたことをやるだけで精一杯で、自分たちで一から考えてメニューを作ることや弱い部分を自分で理解することはあまりできませんでした。ですが、大学入学後は学生たちで自分たちの強みや弱み、チーム全体としての課題を理解し、それを改善するにはどうしたらよいかというところまでを考え、メニューに組み込むことで短い時間でも効率良く、充実した練習にすることができました。競技に対しても自分に対しても考えられる時間が増えたことで、大学生になってから新しく自分の競技力やできるプレーの幅を広げることもできました。

4年生になってからの一年は主将として自分のこと以上にチームを考える時間が増え、どうしたら部員全員の良さを引き出せるのか、どうしたら皆のモチベーションを保てるのか色んなことを考えながらの一年でした。自分が先頭に立って引っ張れているのか、一つ一つの試合が終わる度、本当にこれで良かったのかと思うこともありましたが、最後の大会

が終わったとき後輩や先生方に「ここまでやってくれてありがとう」と言われたときにここまでやってきたことは間違っていなかったと、やってきて良かったと感じました。入学した時からの目標であった「全日本インカレでベスト8」という目標はやはり遠く、手は届きませんでしたがここまで四年間どんな時も一緒に駆け抜けてきた同期、私たち四年生を最後まで信じてついてきてくれた後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。またここまでたくさんの経験と多くの技術を落とし込んでくださった先生方にもこの場をお借りし、感謝申し上げます。ここでの経験を活かしながら、新たな場所でも臆することなく挑戦し続けていきます。また競技からは離れますが、今後も一人の人間として後輩たちの前を走っていけるよう努力したいと思います。

最後になりますが、齋藤部長、千葉監督をはじめ関係者各位の皆様、これまで厚くご指導、ご声援を頂きありがとうございます。今後も女子ハンドボール部のご声援を宜しくお願い申し上げます。

(記 加藤 杏菜)



水泳部

部長	幕内	孝
コーチ	清水石	寛
主将	今	黎 矢 福祉行政学科 4年
主務	中村	柚 希 社会福祉学科 1年

大会結果報告

第18回宮城県FGST四大学春季公認記録

女子団体 3位
男子団体 4位

第15回北部学生選手権水泳競技大会

女子団体 3位
男子団体 4位
水澤圭篤 (3年) 200m背泳ぎ 2位
100m背泳ぎ 3位
坂本愛佳 (3年) 200m自由形 2位
200m個人メドレー 3位
高橋奈央 (3年) 200m背泳ぎ 1位
100m背泳ぎ 2位
庄司桜花 (1年) 50m自由形 3位
女子4×100mメドレーリレー 2位
(高橋奈央、桜井梨乃、大村心優、坂本愛佳)

第98回日本学生選手権水泳競技大会

水澤圭篤 (3年) 200m背泳ぎ
坂本愛佳 (3年) 200m自由形
200m個人メドレー
高橋奈央 (3年) 200m背泳ぎ
100m背泳ぎ
女子400mメドレーリレー
(高橋奈央、坂本愛佳、大村心優、庄司桜花)
女子400mフリーリレー
(庄司桜花、高橋奈央、大村心優、坂本愛佳)
女子800mフリーリレー
(坂本愛佳、庄司桜花、大村心優、齋藤遥華)

第73回東北地区大学体育大会

近藤 司 (3年) 100m自由形 7位
宮輪太郎 (3年) 200m自由形 8位
水澤圭篤 (3年) 200m背泳ぎ 3位
100m背泳ぎ 優勝
小堀虎太郎 (2年) 200m平泳ぎ 5位
大矢溪心 (1年) 200m自由形 7位
男子400mフリーリレー 5位
(近藤 司、小堀虎太郎、大矢溪心、宮輪太郎)
坂本愛佳 (3年) 50m自由形 3位
100m自由形 3位
高橋奈央 (3年) 100m背泳ぎ 2位
200m背泳ぎ 優勝
齋藤遥華 (3年) 400m自由形 6位
桜井梨乃 (2年) 200m背泳ぎ 4位
400m自由形 5位
庄司桜花 (1年) 50m自由形 4位
100m自由形 6位
女子200mフリーリレー 3位
(齋藤小梅、齋藤遥華、庄司桜花、坂本愛佳)
女子400mフリーリレー 2位
(齋藤遥華、高橋奈央、庄司桜花、坂本愛佳)
女子400mメドレーリレー 3位
(庄司桜花、坂本愛佳、齋藤遥華、桜井梨乃)

私たち水泳部は幕内部長、清水石コーチ指導の下、4年生7名、3年生8名、2年生3名、1年生6名の計24名で活動をしています。月曜日から土曜日まで週6日間、朝7時から9時まで、国見キャンパス近くの国見スイミングクラブで日々練習しています。日々、ミーティングを行い、メニューを選手たちで考えて決めます。お互いが意見を出し合い、個々の目標に向かって練習を積み重ねています。

ようやく今年度から新型コロナウイルスで中止になっていたほとんどの大会が開催されるようになり、多くの大会に参加することができました。中でも北部学生選手権では全国大会の切符を手にした選手が6名になりました。学生の大会の中でも大きい日本学生選手権に参加したことにより、オリンピック選手の泳ぎを見ることができ、普段できない経験をさせてもらいました。

冬の四大大会では主幹校として大会に出場しました。四年生を含め年内最後の大会に臨みました。結果はそれぞれでしたが、全員が翌年につながるレースができていたと思います。そしてより一層、部員全員がお互いを高め合えたように感じました。

今後の大会も、積み重ねてきた努力を十分に発揮できるように期待しています。また、来年度は新入部員を迎え、新たな刺激をもらい、今年度よりもさらに活気があふれることを心から願っています。東北福祉大学水泳部の1つのチームとして、選手一人ひとりとの絆とチームワークを大切にしていけるような部活動を行えたらと思います。練習をさせてもらっているこの環境に感謝し、今後もさらに精進して参ります。

最後になりますが、今年度も多大なるご支援、ご協力を賜りました関係各位の皆さまに厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

4年間の思い出

この記事を書くにあたって、主将を務めることになった当時の記憶を振り返ってみました。

我々の部活動はまず目標を掲げ、自分たちで計画を立て、そして、結果を出すといった流れです。大学での部活動は結果が求められるため、責任を感じながら運営に励みました。

しかし、私の中では思い通りにいかないことの方が多かったと反省しています。自分の努力が足りていないから結果がついて来ないのかと何度も考えました。チームメイトや先輩にもたくさん相談に乗って頂いたのも懐かしい思い出です。何もかも上手くいくことなど無いと学びました。今まで数多くの失敗をしてきていても、また失敗を繰り返します。「人間、そんなもんです」。生意気かもしれ

ませんが、上手くいっている時が楽しいのではなく、今まで出来なかったことが出来るようになった時が楽しいということを後輩には伝えたいです。

4年間を振り返ってみて思うことは、たくさんの仲間に支えられ、たくさん協力をして頂いたなど本当に感謝をしています。同期には助けられてばかりですし、不甲斐ない主将に付いてきてくれた後輩には頭が上がりません。直接は恥ずかしくて言えませんが、本当にありがとう。

あっという間にOBになってしまいますが、水泳部の皆さんのこれからの活躍を大いに期待しています。頑張ってください！

(記 今 黎矢)



ゴルフ部

総監督	阿部靖彦		
コーチ	梶井亮介		
コーチ	樋口璃乃		
男子主将	岡田晃平	社会福祉学科	3年
女子主将	佐藤美優	社会福祉学科	3年
主務	倉林太聖	社会福祉学科	3年
主務	内田夢乃	社会福祉学科	3年

大会結果報告

関東学生春季 A ブロック対抗戦
優勝

関東女子学生春季 A ブロック対抗戦
優勝

全国ゴルフ対抗戦（男女）
優勝

関東秋季 A ブロック対抗戦
優勝

関東女子秋季 A ブロック対抗戦
優勝

令和4年度は、春先から団体戦3勝することができ、個人では3年の岡田が日本アマチュアゴルフ選手権競技優勝、4年の蝉川が日本オープンゴルフ選手権競技優勝することが出来ました。チームとしては最終戦で男女とも2位という結果に終わってしまいましたが、チーム一丸となり戦えた1年でした。これまでに沢山の偉大な先輩方が東北福祉大学ゴルフ部の伝統や歴史を作っていたいただき、素晴らしい練習環境で練習することができ、沢山の方々からサポートしていただき、関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。来年度も東北福祉大学ゴルフ部として、男女四冠達成をするために、チーム一丸となって切磋琢磨しあっていきます。

4年間の思い出

私は、この一年間東北福祉大ゴルフ部の主将として、とてもいい経験が出来ました。最後の団体戦で優勝する事が出来ませんでした。このチームで戦えて事を誇りに思っています。家族や日ごろからサポート、応援して下さるコーチ陣、関係者の方々、日ごろか

ら切磋琢磨しながら練習を共にしている部員、歴代の先輩方のおかげでこの四年間は私たちが大きく成長させてくれた貴重な時間となりました。ありがとうございました。

(記 蟬川 泰果)



軟式野球部

部長 阿部 靖彦
監督 阿部 靖彦
コーチ 小野 昌彦
主将 小野寺 広夢 産業福祉マネジメント学科 3年
主務 山本 彩乃 福祉心理学科 2年

大会結果報告

令和4年度大学軟式野球東北地区春季リーグ
優勝

令和4年度大学軟式野球東北王座決定戦兼
全日本選抜大会ブロック大会
準優勝

第2回全日本大学軟式野球選抜大会
SUMMER CUP 2022
ベスト16

第44回全日本大学軟式野球選手権大会
東北地区予選 第3位

今年1年を振り返って春季キャンプからチーム全体の意識が高く、チームとしてのまとまりもあり、各々が各自の持ち場で力を発揮することができました。特に、投手陣が奮闘し、投手中心とした守りを鍛え上げ、リーグ戦優勝、選抜大会出場を勝ち取ることができました。秋の大会では、この現状に満足してしまい、春のような状態で臨むことができず、制球に苦しむ投手もいれば、打者陣も投手を助けるような活躍ができず、チームとして上手く回っていませんでした。そのため、秋の大会では納得のいく結果を出すことができなかったです。1年間通して、安定した成績、結果を出すためのチーム作りに取り組んでいきたいと思いました。

4年間の思い出

新型コロナウイルスの影響もあり、様々な大会や試合などが中止、又は延期となることが多く、思うような活動ができていなかったチームが多くあったと思います。その中で私たちは、たくさんの人たちに支えられて様々な活動に取り組みました。軟式野球部に携わってくださった皆様に感謝の気持ちを伝えたいです。また、主将として頑張ることができたのは、仲間がいたからです。この仲間と

ともに、苦楽を共にしてきました。これは、私の大学生活の中でも大切な経験になり、思い出にもなりました。部活動を通しての出会いと経験、仲間と指導者の方に感謝をし、これからの人生も頑張っていきたいと思います。今年の悔しさを後輩たちには全国の舞台で晴らすために一生懸命練習を頑張っています。今後とも、東北福祉大学軟式野球部のご声援をよろしくお願いいたします。

(記 小野寺 広夢)



アイスホッケー部

部	長	門馬利光	
総	監	渡辺伸彦	
監	督	今村雄太郎	
コ	チ	早坂康汰	
コ	チ	瀬野尾尚大	
主	将	那須野留唯	産業福祉マネジメント学科 4年
主	務	宮腰真里江	福祉心理学科 2年

大会結果報告

第2回盛岡市アイスリンクカップ
アイスホッケー大会
6位

令和4年度東北地区学生アイスホッケー
秋季大会
4位

第26回宮城県アイスホッケー連盟会長杯
5位

第54回宮城県アイスホッケーリーグ戦
4位

令和4年度東北地区学生アイスホッケー大会兼
第95回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選
4位

今年度は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことにより、昨年度中止になっていた大会の開催や、有観客の試合が多くなるなどより一層充実した1年間になりました。

基本となる氷上練習や陸上トレーニングに加え、精神を強化するためのメンタルトレーニングやスポーツをするうえで大切な栄養学についても教わりながら、今年度の我が部のスローガンである「Hot limit ～限界まで熱く～」のもと、自分たちができる最大限の努力を積み重ねてきました。

そして11月、目標としていたインカレ本戦への出場を懸けたインカレ予選が開催されました。結果は4位となり目標としていた本戦出場を果たすことは出来ませんでした。試合期間はもちろん、この結果に至るまでの過程はスローガンの通り最後まで熱意に溢れるものであり、一人一人が闘志を燃やしてお互いを高め合い、確実にチームが成長していく様子が見られた素晴らしいものでした。

様々な刺激を受け、部員それぞれが課題を見つけたこの経験をもとに、来年度も一回一回の練習を積み重ね、ミーティングなど話し合いの場も大切にしながら、今年度以上にチームで一致団結して、次こそ目標とするインカレ本戦に出場できるよう一層精進してまいります。

最後になりますが、日頃よりご支援いただいております保護者の皆様、卒業生の皆様、そして大学関係者の皆様に対しまして厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

4年間の思い出

これから私自身の4年間の部活動の振り返りについて述べさせていただきます。

私が部活動を通して学んだ事、そして後輩たちに対して伝えたいことの2つに分けて綴らせていただきます。

まず、部活動から学んだ事として、最も大きいものは、部活動全体の意識や人を束ねる難しさを痛感しました。アイスホッケーというスポーツは個人スポーツと違って、団体競技となり、チーム力が勝敗を分けるといっても過言ではありません。私は、これまでに小学生、中学生と主将を経験しており、チームをまとめる力には自信がありました。しかし、実際に大学の部活動で主将になり、それぞれ学業やアルバイト、勝利に対する意識や練習に対する意欲など、部員同士の考えにすれ違いがあり、これまで私が経験してきた主将とは違うものでした。また、育った環境や学年の違い、個々のスキルなど、コミュニケーションをとるのも難しく、4年生が私一人だったため、後輩たちに対しての接し方に苦慮しました。気がつくとも、一人で考えることが多く、スタッフや後輩たちにサポートしてもらっていることもありました。最後の大会で、後輩たちが頑張っている姿を見て、私がチームをまとめていたのではなく、後輩たち

にサポートしてもらっていたのだと感じ、主将ながら、後輩たちの気持ちに涙を浮かべました。勝利に導くことができなかった点につきましては、最高学年であり、ひいては主将である私の力不足だと思います。沢山ぶつかり合った、スタッフや先輩方、後輩たちに感謝の気持ちを送りたいと思います。ありがとうございました。

1年時から様々な経験をさせていただき、沢山の思い出を作ることができました。スタッフや先輩方、そして後輩たちに恵まれた4年間でした。最後に後輩たちに伝えたいことを述べ、締めくくらせていただきます。これからたくさん大きな壁に直面する時があると思います。一人で乗り越えなければいけないこともあると思います。一つ一つゆっくりでいいので乗り越えてほしいと思います。ただし、人は時には逃げることも必要です。その逃げた先においても、挑戦する気持ちを持つような人になってほしいです。私は、一つ後悔したことがあります。焦らず・怒らず・威張らず・腐らず・負けない、「あおいくま」のような、4年間にしてください。4年間支えてくださったスタッフの方々、大学職員の皆様、本当にお世話になりました。

(記 那須野留唯)



女子ソフトボール部

部長 千葉 幸喜

監督 舟山 健一

主将 門脇 杏実 教育学科 4年

主務 岩松 真白 医療経営管理学科 4年

大会結果報告

4月29・30日

北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会
優勝

5月21・22日

北海道・東北地区女子ソフトボール選手権大会
優勝

7月8日～7月11日

東日本大学女子ソフトボール選手権大会
初戦敗退

7月16・17日

全日本総合選手権大会東北地区予選
優勝

9月16日～9月19日

全日本大学女子ソフトボール選手権大会
準優勝

9月23日～9月25日

全日本総合選手権大会
初戦敗退

10月22・23日

北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会
優勝

女子ソフトボール部は、今年で22年目を迎えました。創部からの理念として「自立」と「自律」、目標は「日本一」を掲げている部です。「自立」は、自分で考え行動し、それを積み重ねて目標を達成できる人材になることを意味します。「自律」は、競技力を上げることだけに偏らないように、挨拶や礼儀、掃除といった生活態度を中心に、「正しく生きていく」ということを4年間で考え培っていくことを意味しています。自分からソフトボールがなくなったときに「何が残るか」を考え活動しています。

私たちは、今年「ともに」というテーマを掲げて活動しました。乗り越えなければならない「壁」を「ともに乗り越える」という想いが込められています。このテーマがあったとこで、厳しい練習・試合を戦い抜くことが出来ました。

女子ソフトボール部は、これまで3度「日本一」になっています。今年は前述したテーマのもとインカレでは、13年ぶりに決勝まで勝ち上がることが出来ましたが、あと一步のところまで敗れてしまいました。嬉しさと、悔しさの気持ちが残る大会となりましたが、間違いなく今後の女子ソフトボール部が飛躍するきっかけとなる大会になったと思います。

新型コロナウイルスの影響により、まだまだ思うような活動は出来ておりませんが、しっかりと感染対策を行いながら「日本一」に向けて精進していきたいと思っています。

4年間の思い出

私の四年間の思い出は、嬉しかったことも苦しかったことも全てが思い出です。そして、引退した今感じていることは、みんなとソフトボールをしていた毎日がどれほど大切な時間であったかという事です。

現役時代の特に四年目は、主将の重圧もあり辛くて、苦しくて逃げ出したくなることの方が多いい毎日でした。でも、今となって思い出すのは、同期と過ごした楽しかった日々です。ソフトボールをしている時は楽しいと思えることがほとんどありませんでしたが、同期との何気ない会話で笑い合えたこと、悔しくて泣いたこと、喧嘩したこと、みんなと過ごした毎日が大切な思い出です。ソフトボールが上手いわけでもなく、人をまとめるのが得意なわけでもない、泣き虫で弱虫な私を勇気づけてくれたのが同期でした。この同期だったから、四年間最後までやり切ることが

出来ました。

また、卒業した先輩方や後輩たちにも沢山の力を貰いました。沢山の支えを自分の力に変えて、主将としてチームを引っ張っていくことが出来たと思います。そして、東北福祉大学に入学し、この仲間たちに出会えたことが、私が四年間頑張ってくることができた一番の理由であり、これは生涯の財産になるのだと思っています。

最後に、私たちはインカレで準優勝という結果を残すことが出来ました。チーム内での役割はそれぞれ違っても、チーム全員の“勝ちたい”という思いが一つになったからこそ、決勝という舞台に立ち、全員“ともに”戦い抜くことが出来ました。後輩たちには、私たちが叶えることが出来なかった「日本一」を勝ち取ってほしいと思います。

(記 門脇 杏実)



空手道部

部長	石澤優紀	
監督	阿部晋二	
コーチ	瀬谷龍介	
コーチ	笠原理子	
主将	千葉輝	福祉行政学科 4年
主務	渡邊美咲	社会福祉学科 4年

大会結果報告

第58回東日本大学空手道選手権大会

男子団体組手 1回戦敗退
女子団体組手 1回戦敗退

第20回東北学生空手道選手権大会

女子個人形 優勝 浅野 ひまり
準優勝 高橋 菜里
第3位 佐藤 澄奈
男子個人組手 優勝 阿久津 龍司
準優勝 山下 廉
第3位 相澤 烈夏
女子個人組手 優勝 高橋 瑠風

第66回全日本大学空手道選手権大会

女子個人形 1回戦敗退 浅野ひまり
高橋 菜里
男子個人組手 1回戦敗退 阿久津龍司
本間 海斗
山下 廉
鎌本圭史郎
2回戦敗退 武山 怜雅
相澤 烈夏
女子個人組手 1回戦敗退 辺見萌乃佳
高瀬 結衣
2回戦敗退 児玉 真衣

第21回東北大学空手道選手権大会並びに新人戦

女子個人形 優勝 高橋 菜里
準優勝 浅野ひまり
男子個人組手 優勝 鎌本圭史郎
準優勝 相澤 烈夏
第3位 岩間 雄史
藤原 爽太
女子個人組手 優勝 児玉 真衣
準優勝 高瀬 結衣
第3位 高橋 菜里
浅野ひまり
男子団体組手 準優勝
女子団体組手 優勝

第66回全日本大学空手道選手権大会

男子団体組手 1回戦敗退
女子団体組手 2回戦敗退

私たち空手道部は、石澤部長をはじめ、阿部監督、瀬谷コーチ、笠原コーチのご指導の下、4年生6名、3年生6名、2年生6名、1年生6名、計24名で練習に励んできました。

今年は去年よりも新型コロナウイルスによる制限が緩和され、3年ぶりの東日本大学空手道選手権大会開催や、全日本の舞台でマスクを着用せずに試合をする事ができ、少しずつですが大会本来の姿を取り戻せた年でした。

練習では同じメニューをこなしていても、1人1人向き合う課題は異なる為、分からない事や躓くことはたくさんありますが、先輩後輩関係なく聞き合い、教え合う事ができるのが私たち空手道部の強みだと思います。また、どんなに辛くて心が折れそうになる練習やトレーニングでも声を掛け合い、笑顔で乗り越えてきました。これから全国の舞台で1つでも勝つために何をすれば良いのか、練習中や相手と向き合っている際に何を意識して何を考えるのか試行錯誤していき、今後とも成長を遂げられるように日々精進して参ります。

最後になりますが、今年度も多大なるご支援、ご協力をくださりました関係各位の皆様には厚く御礼申し上げますと共に、今後ともご支援、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

4年間の思い出

私が4年間の空手道部の活動を通して1番思い出に残った事は、4年生での全日本団体です。3年ぶりに部員全員で挑み、選手として選ばれた人、選ばれなかった人、選手のサポートや応援に徹した人、それぞれが勝つという同じ思いで大会に臨みました。私は4年間で初めての全日本団体に選手として選ばれ、結果は不甲斐ない結果に終わってしまいました。とても悔しかったですが、試合結果だけに目を向けるのではなく、ここまでついてくれた後輩、相談やサポートしてくれた同期、また間違った道に進みそうになった時に指導して下さった指導陣の方々が居てくださって、約1年間主将としてチームを自分なりに引っ張る事が出来ました。思い返すと後悔や課題ばかり思い浮びますが、その反省点に気づけた事がとても大切な事だったと感じています。そして、学年が上がる事で先輩

方が居なくなり勢いのある後輩が入ってくるたびに、プレッシャー、責任感、焦りを感じるようになりましたが、「楽しむ事」を忘れないように稽古に励んできました。後輩も同じ思いを学年が上がるたびに感じると思いますが、「楽しむ」という事だけは忘れてほしくないです。そして、このチームで楽しく空手をさせてもらった周りの方々への感謝は忘れません。

空手だけでなく人間として成長できた4年間でした。この経験は間違いなく東北福祉大学空手道部であるからこそ学べた事です。この経験を社会人になってから自信を持ち、胸を張って精進してまいります。末筆になりますが、4年間私たちを支え、指導して下さった皆様、本当にお世話になりました。

(記 千葉 輝)



24部の歴史



体育会（現常任幹事会）

西暦	元号	年数	歴代会長	歴代副会長	歴代幹事長	歴代副幹事長	卒業人数
1972年	昭和47年	1年目	細井 計		牛山 俊夫		0
73年	48年	2年目	細井 計		牛山 俊夫		0
74年	49年	3年目	岡本 正平		平石 和一		2
75年	50年	4年目	岡本 正平	大和田直樹	伊藤 弘晴		0
76年	51年	5年目	中西 武雄	大和田直樹	佐藤 聖也		1
77年	52年	6年目	中西 武雄	大和田直樹	近藤 亨	小野 哲夫	2
78年	53年	7年目	中西 武雄	大和田直樹	阿部 一哉		1
79年	54年	8年目	中西 武雄	大和田直樹	鈴木 誠	上野 幸志	4
80年	55年	9年目	山木 勝夫		赤川 義雄	三浦 進治	5
81年	56年	10年目	山木 勝夫		前田 尚彦	小川 英	3
82年	57年	11年目	山木 勝夫		小川 英	佐藤 仁志	1
83年	58年	12年目	山木 勝夫	柴田 幸男	木幡 藤夫	五味田 寿	1
84年	59年	13年目	山木 勝夫	柴田 幸男	松浦 正男	川村 直基	3
85年	60年	14年目	石澤 志郎	柴田 幸男	村上 英男	村松 徹	4
86年	61年	15年目	石澤 志郎	柴田 幸男	加藤 裕	岡本信太郎	2
87年	62年	16年目	石澤 志郎	柴田 幸男	小笠原 卓	秋山 清文	3
88年	63年	17年目	石澤 志郎	柴田 幸男	秋山 清文	村田 幸彦	4
89年	平成元年	18年目	石澤 志郎	柴田 幸男	村田 幸彦	森本 晃司	4
90年	2年	19年目	小松 紘	柴田 幸男	森本 晃司	志水 明恵	4
91年	3年	20年目	小松 紘	柴田 幸男	志水 明恵	斗ヶ澤秀弥	4
92年	4年	21年目	小松 紘	柴田 幸男	斗ヶ澤秀弥	白川 恵	4
93年	5年	22年目	小松 紘	柴田 幸男	白川 恵	近藤美和子	1
94年	6年	23年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	甲山 睦美	千葉 幸子	3
95年	7年	24年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	千葉 幸子	伊部菜穂子	5
96年	8年	25年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	伊部菜穂子	吉田 卓	2
97年	9年	26年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	吉田 卓	厚海 仁志	7
98年	10年	27年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	厚海 仁志	菊池幸太郎	4
99年	11年	28年目	高橋 俊郎	柴田 幸男	菊池幸太郎	村上 章子	3
2000年	12年	29年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	熊谷 圭介	村上 章子	1
01年	13年	30年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	熊田 大輔	清水 泰之	3
02年	14年	31年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	清水 泰之	小南 久俊	2
03年	15年	32年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	渥美 京子	猪狩 宏恵	2

体育会（現常任幹事会）

西暦	元号	年数	歴代会長	歴代副会長	歴代幹事長	歴代副幹事長	卒業人数
04年	16年	33年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	加藤 真浪	高野 智子	2
05年	17年	34年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	樋口謙太郎	松本 千鶴	1
06年	18年	35年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・鈴木 智彦	松本 千鶴	佐藤 佑美	2
07年	19年	36年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・阿部 靖彦	新明 優子	大金 亨	2
08年	20年	37年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・阿部 靖彦	田崎麻由実	伊東 峻	5
09年	21年	38年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・阿部 靖彦	寒河江里奈	藤原 梓	2
10年	22年	39年目	高橋 俊郎	佐藤伊知子・阿部 靖彦	伊藤 早紀	板垣 恵美	3
11年	23年	40年目	大和田直樹	佐藤伊知子・阿部 靖彦	千田 和	三浦 千緩	5
12年	24年	41年目	大和田直樹	佐藤伊知子・阿部 靖彦	千田 和	三浦 千緩	7
13年	25年	42年目	代行 福富哲也	佐藤伊知子・阿部 靖彦	村上 千尋	石田 健人	9
14年	26年	43年目	松江 克彦	佐藤伊知子・阿部 靖彦	石田 健人	里見 昌則・青沼枝里香	5
15年	27年	44年目	松江 克彦	佐藤伊知子・阿部 靖彦	八重樫真優子	安島 宏尚	2
16年	28年	45年目	松江 克彦	佐藤伊知子・阿部 靖彦	伊藤 駿	水田 沙知	0
17年	29年	46年目	松江 克彦	佐藤伊知子・阿部 靖彦	堀 武尊	堀井美沙子	2
18年	30年	47年目	梶原 洋	佐藤伊知子・阿部 靖彦	尾形 昇平	佐藤 由菜	3
19年	令和元年	48年目	梶原 洋	佐藤伊知子・阿部 靖彦	尾形 昇平	橋本 泰洋	4
20年	2年	49年目	梶原 洋	佐藤伊知子・阿部 靖彦	橋本 泰洋	細越 康太	1
21年	3年	50年目	梶原 洋	佐藤伊知子・阿部 靖彦	早川 凜	園部慎一郎	1
22年	4年	51年目	梶原 洋	佐藤伊知子・阿部 靖彦	富樫 翼	神田 幸聖・菊池 留梨	0
							計 141

硬式野球部 (設立と同時に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本学生	明治神宮
1962年	昭和37年	1年目	上村 学	井上 隆雄	井上 隆雄	井上 隆雄	4				
63年	38年	2年目	上村 学	照井 昭	照井 昭	後藤 弘子	1				
64年	39年	3年目	大森 純夫	永井 義人	永井 義人	後藤 弘子	7				
65年	40年	4年目	大森 純夫	菅本 昭夫	菅本 昭夫	後藤 弘子	6				
66年	41年	5年目	上村 学	菅本 昭夫	白石 忠信	後藤 弘子	10				
67年	42年	6年目	上村 学	菅本 昭夫	市ノ渡康勝	伊藤 充子	2				
68年	43年	7年目	渡辺 信英	菅本 昭夫	石母田英武	伊藤 充子	4				
69年	44年	8年目	渡辺 信英	菅本 昭夫	切金 一夫	加藤 和彦	6	リーグ戦は昭和45年開始			
70年	45年	9年目	渡辺 信英	菅本 昭夫	加藤 和彦	加藤 和彦	3	6位	6位		
71年	46年	10年目	渡辺 信英	菅本 昭夫	大村田紀代輝	大村田紀代輝	5	6位	6位		
72年	47年	11年目	大竹 榮	菅本 昭夫	菅家 正	高階 秀知	4	6位	6位		
73年	48年	12年目	大竹 榮	菅本 昭夫	川村 静雄	高階 秀知	4	5位	2位タイ		
74年	49年	13年目	大竹 榮	菅本 昭夫	藤田富士夫	高階 秀知	2	6位	3位		
75年	50年	14年目	大竹 榮	菅本 昭夫	阿部 光徳	渡辺 秀彦	5	5位	2位タイ		
76年	51年	15年目	大竹 榮	菅本 昭夫	山崎 安則	渡辺 秀彦	5	3位	3位		
77年	52年	16年目	大竹 榮	菅本 昭夫	佐々木尚文	藤田 直巳	13	4位	4位		
78年	53年	17年目	大竹 榮	菅本 昭夫	千葉 満男	八木 久寿	9	5位	2位		
79年	54年	18年目	大竹 榮	菅本 昭夫	千葉 幸喜	品川 清美	12	優勝	優勝		
80年	55年	19年目	大竹 榮	菅本 昭夫	古俣 義幸	五十嵐 功	6	3位	2位		
81年	56年	20年目	大竹 榮	菅本 昭夫	岩渕 一昌	高橋十四三	19	優勝	優勝		
82年	57年	21年目	大竹 榮	菅本 昭夫	大竹 松男	倉田 義孝	11	2位	優勝		
83年	58年	22年目	大竹 榮	菅本 昭夫	野田 譲	倉田 義孝	16	優勝	優勝	1回戦敗退	
84年	59年	23年目	大竹 榮	菅本 昭夫	中条 誠治	川上 純孝	24	優勝	優勝	1回戦敗退	
85年	60年	24年目	大竹 榮	伊藤 義博	田川 力徒	川上 純孝	16	優勝	優勝	ベスト8	
86年	61年	25年目	大竹 榮	伊藤 義博	津屋 晃	長崎 郁雄	18	優勝	優勝	ベスト8	
87年	62年	26年目	大竹 榮	伊藤 義博	藤木 豊	小川 隆	19	優勝	優勝	準優勝	ベスト8
88年	63年	27年目	大竹 榮	伊藤 義博	福田 英彦	長島 光春	23	優勝	2位	準優勝	
89年	平成元年	28年目	大竹 榮	伊藤 義博	大塚 孝二	山本 将道	41	優勝	優勝	ベスト8	ベスト4
90年	2年	29年目	大竹 榮	伊藤 義博	矢野 輝弘	丸山 泰弘	26	優勝	優勝	準優勝	ベスト4
91年	3年	30年目	大竹 榮	伊藤 義博	伊藤 博康	林 香弘	38	優勝	優勝	優勝	ベスト4
92年	4年	31年目	大竹 榮	伊藤 義博	河内 浩二	大坪 拓也	23	優勝	優勝	ベスト8	ベスト8

硬式野球部 (設立と同時に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本学生	明治神宮
93年	5年	32年目	大竹 榮	伊藤 義博	野島 正弘	佐野 秀聡	30	優勝	優勝	ベスト4	ベスト8
94年	6年	33年目	大竹 榮	伊藤 義博	和田 一浩	堀 真人	22	優勝	優勝	ベスト8	1回戦敗退
95年	7年	34年目	大竹 榮	伊藤 義博	仲村 史彦	堀 真人	30	優勝	優勝	準優勝	
96年	8年	35年目	大竹 榮	伊藤 義博	美甘 将弘	大竹 浩二	39	優勝	優勝	ベスト4	準優勝
97年	9年	36年目	大竹 榮	伊藤 義博	鈴木 郁洋	萩巣 高英	23	優勝	優勝	ベスト8	ベスト8
98年	10年	37年目	大竹 榮	伊藤 義博	魚住 俊文	和田 正史	37	優勝	優勝	ベスト8	準優勝
99年	11年	38年目	大竹 榮	伊藤 義博	星川 学	永井 秀司	25	優勝	優勝	2回戦敗退	ベスト8
2000年	12年	39年目	大竹 榮	伊藤 義博	結城 充弘	雨宮 理之	40	優勝	優勝	準優勝	1回戦敗退
01年	13年	40年目	大竹 榮	伊藤 義博	石原 慶幸	柳沼 純宏	34	優勝	優勝	ベスト8	ベスト4
02年	14年	41年目	大竹 榮	伊藤 義博	堂前 篤史	後藤 一成	29	優勝	優勝	2回戦敗退	準優勝
03年	15年	42年目	大竹 榮	山路 哲生	中村 公治	佐藤 雅大	35	優勝	優勝	ベスト4	2回戦負け
04年	16年	43年目	大竹 榮	山路 哲生	塩川 達也	有田 健一	35	優勝	優勝	優勝	出場なし
05年	17年	44年目	大竹 榮	山路 哲生	薄井 康博	榑田 茂薫	40	優勝	優勝	ベスト8	準優勝
06年	18年	45年目	大竹 榮	山路 哲生	中矢 浩次	桑原 勇人	26	2位	優勝	出場なし	1回戦敗退
07年	19年	46年目	大竹 榮	山路 哲生	井戸 順平	鈴木 悠介	36	優勝	優勝	ベスト8	なし
08年	20年	47年目	大竹 榮	山路 哲生	神戸 宏基	岡野 義昭	25	優勝	優勝	ベスト8	準優勝
09年	21年	48年目	大竹 榮	山路 哲生	伊佐山和輝	天野 新	31	優勝	優勝	1回戦敗退	ベスト8
10年	22年	49年目	大竹 榮	山路 哲生	阿部 俊人	吉見 崇	34	優勝	優勝	1回戦敗退	出場なし
11年	23年	50年目	大竹 榮	山路 哲生	生多 良介	箱田 祥希	32	優勝	優勝	1回戦敗退	ベスト4
12年	24年	51年目	大竹 榮	山路 哲生	岸田 健人	上原子祐樹	31	優勝	準優勝	2回戦敗退	出場なし
13年	25年	52年目	大竹 榮	山路 哲生	伊藤 直輝	阿部功太郎	30	優勝	優勝	ベスト8	出場なし
14年	26年	53年目	大竹 榮	山路 哲生	佐藤 卓也	井上 陽平	26	3位	優勝	出場なし	出場なし
15年	27年	54年目	大竹 榮	大塚 光二	泉 裕斗	辻 拓実	21	2位	優勝	出場なし	1回戦敗退
16年	28年	55年目	大竹 榮	大塚 光二	長坂 拳弥	辻 拓実	27	優勝	準優勝	ベスト8	出場なし
17年	29年	56年目	大竹 榮	大塚 光二	菊名 裕貴	堀 武尊	23	優勝	3位	1回戦敗退	出場なし
18年	30年	57年目	大竹 榮	大塚 光二	古川 澄也	重富 良佑	31	優勝	優勝	優勝	出場なし
19年	令和元年	58年目	大竹 榮	大塚 光二	岩崎 魁人	田尻 亮平	29	優勝	優勝	ベスト8	1回戦敗退
20年	2年	59年目	寺下 明	大塚 光二	元山 飛優	田尻 亮平	32	中止	優勝	中止	中止
21年	3年	60年目	寺下 明	大塚 光二	上林 昌義	永井 涼太	31	優勝	準優勝	1回戦敗退	出場なし
22年	4年	61年目	渡部 純夫	大塚 光二	阿部 大夢	井上 直	39	優勝	準優勝	1回戦敗退	出場なし

計1,305

男子バレーボール部（設立と同時に加盟。名称はバレーボール部。昭和35年短大時の卒業生もいたが、4年制になった同37年から掲載）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東日本インカレ	東北総体	全日本インカレ
1962年	昭和37年	1年目			金子 拓男		1					
63年	38年	2年目			佐藤 和彦		2					
64年	39年	3年目			高橋 輝夫		2					
65年	40年	4年目			原田 道芳		4					
66年	41年	5年目			高橋 紘一		3					
67年	42年	6年目	青木 博		梶原 宗通		1					
68年	43年	7年目	細井 計		柏倉 啓二	佐藤 吉邦	3					
69年	44年	8年目	細井 計		鈴木 哲	沢口 允	4					
70年	45年	9年目	細井 計		森口 正道		1					
71年	46年	10年目	細井 計		金谷 博孝		3					
72年	47年	11年目	細井 計		熊谷 啓己		0					
73年	48年	12年目	細井 計		熊谷 啓己	熊谷 啓己	5					
74年	49年	13年目	大和田直樹		伊藤 範行		0					
75年	50年	14年目	大和田直樹		佐藤 吉夫		5					
76年	51年	15年目	大和田直樹		坂田 健次	後藤 義典	4					
77年	52年	16年目	大和田直樹		麻場 広高	後藤 義典	1					
78年	53年	17年目	大和田直樹		麻場 広高	後藤 義典	1					
79年	54年	18年目	大和田直樹		古川 正博	前田 邦昭	4	2位	2位	2回戦敗退	優勝	
80年	55年	19年目	大和田直樹		村越 克敏	伊藤 寿見	1					
81年	56年	20年目	大和田直樹		坪 昭博	小形 進	1		4位			2回戦敗退
82年	57年	21年目	大和田直樹		高橋 寛之	笠原 昭紀	1	5位	4位			
83年	58年	22年目	大和田直樹		清野 邦則	笠原 昭紀	2		6位			
84年	59年	23年目	大和田直樹		加藤 智	笠原 昭紀	3	5位	6位		2位	
85年	60年	24年目	大和田直樹		吉田 修	今泉 善夫	2	5位	6位		3位	
86年	61年	25年目	大和田直樹		板橋 宏司	笠原 丈彦	2	6位	5位			
87年	62年	26年目	大和田直樹		五十嵐一雄	笠原 丈彦	2	6位	5位		3位	
88年	63年	27年目	大和田直樹		佐藤 洋幸	笠原 丈彦	7	5位	4位			
89年	平成元年	28年目	大和田直樹		今野 明寛	山崎 紀明	6	3位	5位		3回戦敗退	
90年	2年	29年目	大和田直樹		浜上 真一	山崎 紀明	8	4位	3位		3位	
91年	3年	30年目	富田 光一		西沢 進	武井 真	8	3位	3位	2回戦敗退	優勝	
92年	4年	31年目	富田 光一		古沢 晃一	内海 真昌	5	3位	4位	ベスト16	優勝	
93年	5年	32年目	富田 光一		浜山 桂次	佐々木一仁	5	4位	4位		3位	
94年	6年	33年目	富田 光一	今野 英雄	木村 健司	小野寺康隆	5	4位	3位		優勝	

男子バレーボール部 (設立と同時に加盟。名称はバレーボール部。昭和35年短大時の卒業生もいたが、4年制になった同37年から掲載)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東日本インカレ	東北総体	全日本インカレ
95年	7年	34年目	富田 光一	今野 英雄	福田 大祐	小野寺康隆	4	3位	4位			
96年	8年	35年目	富田 光一	今野 英雄	堀内 琢也	小野寺康隆	7	4位	3位	3回戦敗退	優勝	
97年	9年	36年目	富田 光一	鳥野 拓実	安倍 勉	加藤 誠	2	6位	4位	1回戦敗退	優勝	
98年	10年	37年目	富田 光一	鳥野 拓実	伊藤 嘉一	加藤 誠	3	準優勝	準優勝	ベスト16	優勝	
99年	11年	38年目	富田 光一	鳥野 拓実	下野 崇	熱海 大輔	3	準優勝	優勝	ベスト16	優勝	
2000年	12年	39年目	富田 光一	鳥野 拓実	金田 崇生	熱海 大輔	5	優勝	準優勝	ベスト16	優勝	
01年	13年	40年目	富田 光一	鳥野 拓実	高橋 健一	熱海 大輔	6	優勝	優勝	ベスト16	優勝	
02年	14年	41年目	富田 光一	鳥野 拓実	高橋 直人	小坂 健児	6	優勝	準優勝	ベスト16	優勝	
03年	15年	42年目	富田 光一	鳥野 拓実	安重 司	小坂 健児	4	優勝	優勝	ベスト16		
04年	16年	43年目	富田 光一	鳥野 拓実	福島慎太郎	小坂 健児	6	優勝	優勝	ベスト16	3位	
05年	17年	44年目	富田 光一	鳥野 拓実	山口 春樹	高橋 幹央	5	準優勝	準優勝	2回戦敗退	3位	
06年	18年	45年目	富田 光一	鳥野 拓実	穴戸 伸行	及川 潤也	9	準優勝	準優勝	ベスト16	準優勝	
07年	19年	46年目	富田 光一	鳥野 拓実	杉本 裕介	及川 潤也	9	優勝	優勝	ベスト16	優勝	
08年	20年	47年目	富田 光一	鳥野 拓実	河合 裕也	越田 大	5	3位	3位	ベスト16	優勝	
09年	21年	48年目	富田 光一	鳥野 拓実	伊達 雄太	越田 大	9	3位	4位	ベスト16	3位	
10年	22年	49年目	富田 光一	鳥野 拓実	大日向祐樹	村山 光	7	4位	4位	2回戦敗退	準優勝	
11年	23年	50年目	富田 光一	鳥野 拓実	横山 貴史	村山 光	8	中止	6位	2回戦敗退	中止	
12年	24年	51年目	富田 光一	金子 剛	荒川 洋介	三浦 洋誉	5	4位	4位	初戦敗退	3位	
13年	25年	52年目	富田 光一	金子 剛	村岡 恵太	洞口 雅人	3	5位	3位	初戦敗退	3位	
14年	26年	53年目	富田 光一	金子 剛	高橋 正樹	堀米 俊樹	7	4位	3位	2回戦敗退	3位	1回戦敗退
15年	27年	54年目	富田 光一	金子 剛	太野 祐介	佐藤 朋哉	0	5位	6位	1回戦敗退	3位	予選敗退
16年	28年	55年目	富田 光一	山口 春樹	太野 祐介	佐藤 朋哉	1	5位	6位	2回戦敗退	3位	不出場
17年	29年	56年目	富田 光一	山口 春樹	辻 駿介	佐藤 朋哉	2	3位	6位	1回戦敗退	3位	不出場
18年	30年	57年目	富田 光一	山口 春樹	岩崎 翔太	富田 功貴	4	5位	4位	1回戦敗退	2回戦敗退	1回戦敗退
19年	令和元年	58年目	富田 光一	山口 春樹	荒井 武志	富田 功貴	5	4位	5位	1回戦敗退	3位	1回戦敗退
20年	2年	59年目	富田 光一	山口 春樹	友部 光貴	富田 功貴	0	中止	5位	中止	中止	不出場
21年	3年	60年目	富田 光一	安重 司	友部 光貴	富田 功貴	4	5位	6位	中止	中止	不出場
22年	4年	61年目	富田 光一	山口 春樹	山口 春樹	藤井 熙	2	5位	7位	中止	中止	不出場

計 233

女子バレーボール部（設立と同時に加盟。男女分離は昭和44年、同43年に卒業生1人あり）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本	東北選手権	東日本	東北総体
1969年	昭和44年	1年目	大和田直樹	大和田直樹	荒井 明子		1	2部	2部				
70年	45年	2年目	大和田直樹	大和田直樹	赤間 淑子		1	2部	2部				
71年	46年	3年目	大和田直樹	大和田直樹	佐久間みち		0	2部	2部				
72年	47年	4年目	大和田直樹	大和田直樹	佐久間みち		3	1部5位	1部4位				
73年	48年	5年目	大和田直樹	大和田直樹	佐藤 和子		1	2部	2部				
74年	49年	6年目	大和田直樹	大和田直樹	高橋真知子	高橋 昌子	3	2部	2部				
75年	50年	7年目	大和田直樹	大和田直樹	高藤 裕子	皆川 嘉子	2	1部5位	1部3位		3位		2位
76年	51年	8年目	大和田直樹	大和田直樹	渡辺 孝子	渡辺 久子	2	1部2位	優勝		2位		2位
77年	52年	9年目	大和田直樹	大和田直樹	佐々木佐恵子	瀬戸 礼子	3	1部2位	優勝		2位		優勝
78年	53年	10年目	大和田直樹	大和田直樹	柴崎 京子	高橋 淳子	2	優勝	優勝	ベスト16	優勝	ベスト8	優勝
79年	54年	11年目	大和田直樹	大和田直樹	松屋 妙子	鈴木 節子	3	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト8	優勝
80年	55年	12年目	大和田直樹	大和田直樹	河村 久子	星野 文子	4	優勝	優勝	ベスト16	優勝	ベスト8	優勝
81年	56年	13年目	大和田直樹	大和田直樹	河村 久子	柴田 昌子	6	優勝	優勝	ベスト16	優勝	ベスト8	優勝
82年	57年	14年目	大和田直樹	大和田直樹	首藤まゆみ	木村 史子	3	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト8	優勝
83年	58年	15年目	大和田直樹	大和田直樹	鈴木みち枝	藤田 玲子	2	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト16	優勝
84年	59年	16年目	大和田直樹	大和田直樹	桜井 美紀	後藤千鶴子	2	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト16	優勝
85年	60年	17年目	大和田直樹	大和田直樹	桜井 美紀	堀口 素子	4	優勝	優勝	ベスト8	優勝	準優勝	優勝
86年	61年	18年目	大和田直樹	大和田直樹	佐藤伊知子	堀口 素子	3	優勝	優勝	準優勝	優勝	ベスト4	優勝
87年	62年	19年目	大和田直樹	大和田直樹	江刺 静恵	松本 国江	4	優勝	優勝	ベスト4	優勝	ベスト8	優勝
88年	63年	20年目	大和田直樹	大和田直樹	佐藤 潤子	門間 明子	6	優勝	優勝	3回戦敗退	優勝	ベスト4	優勝
89年	平成元年	21年目	大和田直樹	大和田直樹	菊地原晶子	荒井 美香	2	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト4	優勝
90年	2年	22年目	大和田直樹	大和田直樹	菊地原晶子	石川 春美	7	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト4	優勝
91年	3年	23年目	大和田直樹	大和田直樹	遠藤たかね	菅原さち子	6	優勝	優勝	ベスト4	優勝	ベスト4	優勝
92年	4年	24年目	大和田直樹	大和田直樹	高橋由紀子	西郷由紀江	11	優勝	優勝	準優勝	優勝	ベスト4	優勝
93年	5年	25年目	大和田直樹	大和田直樹	高橋由紀子	西郷由紀江	1	優勝	優勝	3位	優勝	ベスト4	優勝
94年	6年	26年目	大和田直樹	佐藤伊知子	沼里かおる	角田由美子	8	優勝	優勝	ベスト8	優勝	ベスト4	優勝
95年	7年	27年目	大和田直樹	佐藤伊知子	板橋 恵	斎藤 倫恵	6	優勝	優勝	ベスト8	優勝	3位	優勝
96年	8年	28年目	大和田直樹	佐藤伊知子	尾形かつえ	川口さゆり	7	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝
97年	9年	29年目	大和田直樹	佐藤伊知子	椎尾 紫乃	山島 祝子	7	優勝	優勝	ベスト4	優勝	準優勝	優勝
98年	10年	30年目	大和田直樹	佐藤伊知子	福田まどか	大友美香子	3	優勝	優勝	予選敗退	優勝	ベスト8	優勝
99年	11年	31年目	大和田直樹	佐藤伊知子	旭 範子	大友美香子	8	優勝	優勝	ベスト16	優勝	準優勝	優勝
2000年	12年	32年目	大和田直樹	佐藤伊知子	白土 智子	石井 勝子	4	優勝	優勝	ベスト8	優勝	優勝	優勝
01年	13年	33年目	大和田直樹	佐藤伊知子	佐々々々木由香	佐々々々木礼弥	5	優勝	優勝	ベスト4		ベスト4	優勝

女子バレーボール部（設立と同時に加盟。男女分離は昭和44年、同43年に卒業生1人あり）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦	同 秋	全日本	東北選手権	東日本	東北総体
02年	14年	34年目	大和田直樹	佐藤伊知子	吉田 あい	佐々木礼弥	6	優勝	優勝	準優勝		ベスト 8	優勝
03年	15年	35年目	大和田直樹	佐藤伊知子	上松 沙織	船橋 茜	10	優勝	優勝	ベスト 8		準優勝	
04年	16年	36年目	大和田直樹	佐藤伊知子	黒羽 桂子	成井 里穂	6	優勝	優勝	ベスト 8		準優勝	優勝
05年	17年	37年目	大和田直樹	佐藤伊知子	中谷 琴恵	成井 里穂	5	優勝	優勝	ベスト 8	優勝	ベスト 8	優勝
06年	18年	38年目	大和田直樹	佐藤伊知子	小田切桂子	須藤 香織	2	優勝	優勝	ベスト 8	優勝	ベスト 8	優勝
07年	19年	39年目	大和田直樹	佐藤伊知子	末永 理恵	須藤 香織	8	優勝	優勝	ベスト 16	なし	ベスト 8	優勝
08年	20年	40年目	大和田直樹	大和田直樹	酒井 亜准	佐藤 春奈	2	優勝	優勝	ベスト 8	なし	ベスト 8	優勝
09年	21年	41年目	大和田直樹	佐藤伊知子	川本 歩実	佐藤 春奈	9	優勝	優勝	ベスト 16	なし	ベスト 8	優勝
10年	22年	42年目	大和田直樹	佐藤伊知子	佐藤絵理香	黒澤友紀子	6	1部2位	1部2位	初戦敗退	なし	ベスト 16	優勝
11年	23年	43年目	大和田直樹	佐藤伊知子	入口 菜緒	皆川 郁	8	中止	優勝	ベスト 8	なし	ベスト 16	中止
12年	24年	44年目	大和田直樹	佐藤伊知子	今井 千裕	山田 千鶴	5	優勝	1部2位	2回戦敗退	なし	ベスト 8	2位
13年	25年	45年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	吉田 有里	濱地 翔子	7	優勝	1部2位	ベスト 32	なし	ベスト 8	2位
14年	26年	46年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	渡邊 久恵	佐藤 加菜	3	優勝	1部2位	ベスト 16	なし	ベスト 8	2位
15年	27年	47年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	齋藤加奈子	市川 愛理	2	優勝	優勝	ベスト 8	なし	準優勝	優勝
16年	28年	48年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	齋藤加奈子	市川 愛理	5	優勝	優勝	ベスト 8	なし	優勝	優勝
17年	29年	49年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	柳下 夏苗	猪股 琴音	6	優勝	優勝	ベスト 16	なし	ベスト 4	優勝
18年	30年	50年目	鈴木 久子	佐藤伊知子	澤田 由佳	福井 美紗	3	優勝	1部2位	ベスト 16	なし	ベスト 8	優勝
19年	令和元年	51年目	佐藤伊知子	松田健太郎	境 紗里奈	福井 美紗	10	優勝	優勝	ベスト 16	なし	ベスト 8	優勝
20年	2年	52年目	佐藤伊知子	松田健太郎	高石 明美	前田 萌木	5	中止	優勝	ベスト 8	中止	中止	中止
21年	3年	53年目	佐藤伊知子	松田健太郎	中村 桃子	野原 彩衣	9	優勝	1部2位	初戦敗退	中止	中止	中止
22年	3年	53年目	佐藤伊知子	松田健太郎	間野安里彩	磯前明日香	7	1部2位	優勝	初戦敗退		2回戦敗退	

計 254

男子卓球部 (設立と同時に加盟。女子加入は昭和39年、男女分離は同62年)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リ-グ戦春	同 秋	全日本大学対抗	全日本学生	東北総体
1961年	昭和36年	1年目	細谷 昂	細谷 昂	佐藤 進一	佐藤 進一	0					
62年	37年	2年目	細谷 昂	細谷 昂	佐藤 進一	佐藤 進一	0					
63年	38年	3年目	細谷 昂	細谷 昂	佐藤 進一	佐藤 進一	0					
64年	39年	4年目	栗原 万修	栗原 万修	佐藤 進一	佐藤 進一	1					
65年	40年	5年目	栗原 万修	栗原 万修	小原 茂明	石川 信光	1					
66年	41年	6年目			佐藤 明彦	若山 忍	2					
67年	42年	7年目			若山 忍	若山 静子	1					
68年	43年	8年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	佐藤 淑郎	佐々木憲子	2					
69年	44年	9年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	吉野 一之	皆川 透	4					
70年	45年	10年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	横田 慎夫	千葉 幸喜	3					
71年	46年	11年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	宮田 英夫	猪狩 寿夫	1					
72年	47年	12年目	坂本 孝温	坂本 孝温	猪狩 寿夫	福田 洋志	2					
73年	48年	13年目	坂本 孝温	坂本 孝温	村田 博之	板垣 平次	2					
74年	49年	14年目	坂本 孝温	坂本 孝温	吉田 勝彦	牛山 俊夫	1					
75年	50年	15年目	坂本 孝温	坂本 孝温	丸山 昭	島津 愛郎	1		II部4位			
76年	51年	16年目	坂本 孝温	坂本 孝温	丸山 昭	島津 愛郎	5		II部3位			
77年	52年	17年目	坂本 孝温	坂本 孝温	小関 正男	松田 長悦	3	II部4位	II部2位			ベスト16
78年	53年	18年目	坂本 孝温	坂本 孝温	佐藤 明彦	村山 秀雄	3	II部1位	I部5位			
79年	54年	19年目	坂本 孝温	坂本 孝温	竹中 弘光	小泉 富男	4	I部3位	I部3位	初出場		準優勝
80年	55年	20年目	坂本 孝温	坂本 孝温	中野 敏	相沢 正	5	I部3位	I部3位	ベスト32		優勝
81年	56年	21年目	坂本 孝温	坂本 孝温	秋葉 正昭	芳賀 浩平	5	I部1位	I部1位			優勝
82年	57年	22年目	坂本 孝温	坂本 孝温	本間 雅人	大滝 勤	3	I部1位	I部2位	ベスト32		優勝
83年	58年	23年目	坂本 孝温	坂本 孝温	三浦 高広	大滝 勤	7	I部2位	I部2位	ベスト32		準優勝
84年	59年	24年目	坂本 孝温	坂本 孝温	杉木 祥八	佐藤 英之	4	I部3位	I部1位	ベスト32		優勝
85年	60年	25年目	坂本 孝温	坂本 孝温	橘田 勝	佐藤 英之	8	I部1位	I部2位	ベスト32		優勝
86年	61年	26年目	坂本 孝温	坂本 孝温	岡山 光昭	横山 直哉	7	I部1位	I部1位	ベスト32	楊玉華 優勝	優勝
87年	62年	27年目	坂本 孝温	坂本 孝温	渡辺 家伸	横山 直哉	6	I部1位	I部1位	ベスト32	楊玉華 優勝	優勝
88年	63年	28年目	坂本 孝温	坂本 孝温	一毛 正典	岩瀬 潔	4	I部1位	I部1位	ベスト32	楊玉華 優勝	
89年	平成元年	29年目	坂本 孝温	坂本 孝温	渡部 俊介	鈴木 博	12	I部1位	I部1位	ベスト8	楊玉華 優勝	優勝
90年	2年	30年目	坂本 孝温	坂本 孝温	山崎 卓己	柴原 優	9	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
91年	3年	31年目	坂本 孝温	坂本 孝温	沢島 春徳	後藤信太郎	7	I部1位	I部1位	ベスト32		準優勝
92年	4年	32年目	坂本 孝温	坂本 孝温	蛭田 伸達	大澤 敏行	5	I部1位	I部1位	ベスト32		準優勝

男子卓球部 (設立と同時に加盟。女子加入は昭和39年、男女分離は同62年)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本大学対抗	全日本学生	東北総体
93年	5年	33年目	坂本 孝温	楊 玉華	城丸 哲宏	高橋 俊行	3	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
94年	6年	34年目	坂本 孝温	本間 雅人	佐藤 智明	高橋 俊行	6	I部1位	I部1位	ベスト16		準優勝
95年	7年	35年目	坂本 孝温	本間 雅人	竹内 伸一	栗崎 正勝	7	I部2位	I部1位	ベスト16		優勝
96年	8年	36年目	坂本 孝温	本間 雅人	中村 賢治	三浦 浩治	2	I部2位	I部2位	ベスト16		優勝
97年	9年	37年目	坂本 孝温	楊 玉華	横山 公治	三浦 浩治	4	I部2位	I部1位	ベスト32		準優勝
98年	10年	38年目	坂本 孝温	楊 玉華	佐藤 修一	小林 道生	5	I部1位	I部2位	ベスト32		優勝
99年	11年	39年目	坂本 孝温	楊 玉華	木下 雅晴	大柳 徳寿	5	I部1位	I部1位	ベスト16	木下雅晴15位	優勝
2000年	12年	40年目	坂本 孝温	楊 玉華	菊地 琢也	岩橋 聖高	3	I部2位	I部3位	ベスト16		3位
01年	13年	41年目	坂本 孝温	楊 玉華	木下 順晴	岩橋 聖高	4	I部3位	I部2位	ベスト16		3位
02年	14年	42年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	中村 稔	高橋 康晃	5	I部3位	I部3位	ベスト32		準優勝
03年	15年	43年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	小塚 利典	野村 智宏	6	I部2位	I部2位	ベスト32		ベスト8
04年	16年	44年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	藤平 泰宏	平岩 徹	6	I部2位	I部2位	ベスト32		3位
05年	17年	45年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	出村 祐二	西澤 尚輝	4	I部2位	I部2位	ベスト32		3位
06年	18年	46年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	上原 幸貴	西澤 尚輝	6	I部2位	I部2位	ベスト32		優勝
07年	19年	47年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	茂木 啓介	仲田 貴保	7	I部2位	I部2位	ベスト32		3位
08年	20年	48年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	掛水 康平	矢野 達也	7	I部3位	I部3位	ベスト32		優勝
09年	21年	49年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	土井 孝洋	刑部 貴明	5	I部1位	I部1位	ベスト32		3位
10年	22年	50年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	得能 将平	刑部 貴明	8	I部3位	I部1位	ベスト32		2位
11年	23年	51年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	田中 慎也	永澤 潤	7	I部2位	I部1位	ベスト32		2位
12年	24年	52年目	坂本 孝温	大倉 峰雄	才田 康久	菅野 智史	4	I部3位	I部3位	ベスト32		
13年	25年	53年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	齋藤 直道	寺田 健太	8	I部3位	I部2位	ベスト32		
14年	26年	54年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	佐々 翼	森田 浩之	7	I部2位	I部2位	ベスト32		
15年	27年	55年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	今野 文陽	小山 郷	3	I部1位	I部1位	ベスト32		
16年	28年	56年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	安藤 博貴	小山 郷	7	I部1位	I部1位	ベスト32		
17年	29年	57年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	須藤 豊	小山 郷	7	I部1位	I部1位	ベスト32		
18年	30年	58年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	相原 和幸	岩剝 晟	3	I部1位	I部1位	ベスト32		
19年	令和元年	59年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	加藤 大明	岩剝 晟	7	I部1位	I部1位	予選敗退		
20年	2年	60年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	今井 洸気	吉澤 寅泰	4	(すべて辞退)				
21年	3年	61年目	大倉 峰雄	大倉 峰雄	佐藤 汰一	吉澤 寅泰	9	I部2位	中止	予選敗退		
22年	4年	62年目	大倉 峰雄	須藤 豊	熊谷 悠誠	飯澤 大河	11	2位	1位	ベスト32		

計 288

女子卓球部（設立と同時に加盟。女子加入は昭和39年、男女分離は同62年）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本大学対抗	全日本学生	東北総体
1964年	昭和39年	1年目	栗原 万修	栗原 万修	若山 静子	若山 静子	0					
65年	40年	2年目	栗原 万修	栗原 万修	若山 静子	若々木憲子	0					
66年	41年	3年目			若山 静子	若々木憲子	0					
67年	42年	4年目			若山 静子	若々木憲子	1					
68年	43年	5年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	佐々木憲子	今 芳子	2					
69年	44年	6年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	今 芳子	小椋三栄子	3					
70年	45年	7年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	小椋三栄子	佐々木恭子	0					
71年	46年	8年目	渡辺 勝人	渡辺 勝人	斎藤ソノ子	富樫富貴子	0					
72年	47年	9年目	坂本 孝温	坂本 孝温	横山 泰子	宍戸久美子	4					
73年	48年	10年目	坂本 孝温	坂本 孝温	菊地 裕子	川口三枝子	5					
74年	49年	11年目	坂本 孝温	坂本 孝温	氏田青津子	工藤 明子	2					
75年	50年	12年目	坂本 孝温	坂本 孝温	木内千恵子	北村 智子	5		I部3位			3位
76年	51年	13年目	坂本 孝温	坂本 孝温	佐瀬 裕子	狩野 孝江	1		I部3位			
77年	52年	14年目	坂本 孝温	坂本 孝温	狩野 孝江	佐久間若子	2	I部2位	I部4位			
78年	53年	15年目	坂本 孝温	坂本 孝温	石橋久美子	千葉 優子	5	I部4位	I部4位			
79年	54年	16年目	坂本 孝温	坂本 孝温	大町 直子	佐藤 由美	4	I部3位	I部2位	ベスト32		ベスト8
80年	55年	17年目	坂本 孝温	柴田 幸男	松尾 敏恵	太田 文子	2	I部1位	I部1位			優勝
81年	56年	18年目	坂本 孝温	柴田 幸男	鶴田 美穂	大谷 富江	1	I部1位	I部1位			優勝
82年	57年	19年目	坂本 孝温	柴田 幸男	小瀬川真帆	大谷 富江	4	I部1位	I部2位	ベスト32		優勝
83年	58年	20年目	坂本 孝温	柴田 幸男	押野 恵美	大滝 勤	2	I部1位	I部1位	ベスト16		準優勝
84年	59年	21年目	坂本 孝温	柴田 幸男	大森由起子	小菅けい子	5	I部1位	I部1位			優勝
85年	60年	22年目	坂本 孝温	柴田 幸男	多田真江子	小野 正文	3	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
86年	61年	23年目	坂本 孝温	柴田 幸男	信楽ゆたか	横山 直哉	1	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
87年	62年	24年目	柴田 幸男	柴田 幸男	蜂谷 瑞枝	岩瀬 潔	1	I部2位	I部1位	ベスト16		3位
88年	63年	25年目	柴田 幸男	柴田 幸男	高橋 寿子	岩瀬 潔	3	I部1位	I部1位	7位		
89年	平成元年	26年目	柴田 幸男	柴田 幸男	中村はるみ	鈴木 博	4	I部1位	I部1位	ベスト16	伊藤利恵子 15位	優勝
90年	2年	27年目	柴田 幸男	柴田 幸男	佐々木美加子	柴原 優	4	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
91年	3年	28年目	柴田 幸男	柴田 幸男	田宮千代美	後藤信太郎	4	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
92年	4年	29年目	柴田 幸男	柴田 幸男	山本みゆき	大澤 敏行	1	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
93年	5年	30年目	柴田 幸男	柴田 幸男	斉藤 靖子	高橋 俊行	5	I部1位	I部1位	6位	胡敏 11位	優勝
94年	6年	31年目	柴田 幸男	柴田 幸男	長谷川恵理子	栗崎 正勝	3	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
95年	7年	32年目	柴田 幸男	柴田 幸男	山本 真弓	三浦 浩治	4	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
96年	8年	33年目	柴田 幸男	柴田 幸男	白滝 裕子	三浦 浩治	5	I部1位	I部1位	3位		優勝

女子卓球部（設立と同時に加盟。女子加入は昭和39年、男女分離は同62年）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	全日本大学対抗	全日本学生	東北総体
97年	9年	34年目	柴田 幸男	柴田 幸男	寒河江美輝	小林 道生	5	I部1位	I部2位	3位	金京 優勝	優勝
98年	10年	35年目	柴田 幸男	柴田 幸男	木下 晴子	大柳 徳寿	4	I部1位	I部1位	ベスト16	劉2位 金京3位	優勝
99年	11年	36年目	柴田 幸男	柴田 幸男	小田亜朱香	岩橋 聖高	3	I部1位	I部1位	ベスト32		優勝
2000年	12年	37年目	柴田 幸男	柴田 幸男	佐々木亜由美	高橋 康晃	5	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
01年	13年	38年目	柴田 幸男	柴田 幸男	蜂谷 祥子	高橋 康晃	5	I部1位	I部1位	3位	劉 優勝	優勝
02年	14年	39年目	柴田 幸男	柴田 幸男	春木 美鈴	今井 智子	5	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
03年	15年	40年目	柴田 幸男	柴田 幸男	武井亜沙子	野村 智宏	5	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
04年	16年	41年目	柴田 幸男	柴田 幸男	赤川 佳	平岩 徹	5	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
05年	17年	42年目	柴田 幸男	柴田 幸男	三原 沙織	西澤 尚輝	5	I部1位	I部1位	ベスト16		優勝
06年	18年	43年目	柴田 幸男	柴田 幸男	玉木 杏子	西澤 尚輝	4	I部1位	I部1位	ベスト16	玉木杏子ベスト8	
07年	19年	44年目	柴田 幸男	柴田 幸男	小泉 裕子	仲田 貴保	2	I部1位	I部1位	ベスト32		
08年	20年	45年目	柴田 幸男	柴田 幸男	島津 美紀	矢野 達也	2	I部1位	I部1位	ベスト32		
09年	21年	46年目	柴田 幸男	柴田 幸男	曹 嘉	刑部 貴明	7	I部1位	I部1位	ベスト32		
10年	22年	47年目	柴田 幸男	柴田 幸男	橋本 斐	刑部 貴明	3	I部2位	I部1位	ベスト32		
11年	23年	48年目	柴田 幸男	柴田 幸男	須藤真紀子	永澤 潤	6	I部1位	I部1位	ベスト32		
12年	24年	49年目	柴田 幸男	柴田 幸男	五十嵐真美	菅野 智史	4	I部2位	I部1位	ベスト32		
13年	25年	50年目	柴田 幸男	柴田 幸男	松田亜由美	寺田 健太	5	I部1位	I部1位	ベスト32		
14年	26年	51年目	柴田 幸男	柴田 幸男	山岸央里恵	森田 浩之	6	I部1位	I部1位	ベスト32		
15年	27年	52年目	柴田 幸男	柴田 幸男	大滝 幹実	小山 郷	4	I部1位	I部1位	ベスト32		
16年	28年	53年目	柴田 幸男	柴田 幸男	米倉 希	小山 郷	3	I部1位	I部1位	ベスト32		
17年	29年	54年目	柴田 幸男	柴田 幸男	貝塚 杏香	小山 郷	3	I部1位	I部1位	ベスト32		
18年	30年	55年目	柴田 幸男	本間 雅人	山崎 麗奈	遠藤 大丘	5	I部1位	I部1位	ベスト32		
19年	令和元年	56年目	本間 雅人	岩周 宏展	山崎 麗奈	遠藤 大丘	4	I部1位	I部1位	ベスト32		
20年	2年	57年目	本間 雅人	岩周 宏展	柳田 桜子	阿部美紗希	4	(すべて中止)				
21年	3年	58年目	本間 雅人	岩周 宏展	松田 涼花	阿部美紗希	4					I部1位
22年	4年	59年目	本間 雅人	岩周 宏展	本間 袖衣	長岩 楓子	5	I部1位	I部2位	予選敗退		

計 113

テニス部 (設立と同時に加盟、平成16年にソフトテニス部から名称変更)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	男	歴代主将	女	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	全日本王座	女
1960年	昭和35年	1年目							0						
61年	36年	2年目							4						
62年	37年	3年目							1						
63年	38年	4年目							0						
64年	39年	5年目			百瀬	俊風			1						
65年	40年	6年目			西	孝彰			3						
66年	41年	7年目			樋沢	晃			1						
67年	42年	8年目			尾上	公敏			3						
68年	43年	9年目			吉田	明洋			0						
69年	44年	10年目			吉田	明洋			6						
70年	45年	11年目	渡辺 勝人		松本	賢二			4						
71年	46年	12年目	渡辺 勝人		松本	賢二			3						
72年	47年	13年目	高橋 俊郎		太田	有時			6						
73年	48年	14年目	高橋 俊郎		若林	清			3						
74年	49年	15年目	今泉 芳邦		菅野	悦雄			6						
75年	50年	16年目	今泉 芳邦		高橋	保行			3						
76年	51年	17年目	今泉 芳邦		大野	定利			2						
77年	52年	18年目	小松 紘		野田	伊津岐			7						
78年	53年	19年目	小松 紘		春橋	暢仁		渋井	智子						
79年	54年	20年目	小松 紘		兼子	直美		中山	玲子						
80年	55年	21年目	小松 紘		永山	晋		佐藤	和子						
81年	56年	22年目	小松 紘		森田	仁司		庄司	晴美						
82年	57年	23年目	小松 紘	菊池 正孝	志賀	裕		岡本	和宏						
83年	58年	24年目	小松 紘	菊池 正孝	北野	誠		高橋	直人						
84年	59年	25年目	小松 紘	菊池 正孝	門間	巧		高橋	光治						
85年	60年	26年目	谷藤 悦史	菊池 正孝	小野	哲		熊谷	新二						
86年	61年	27年目	谷藤 悦史	菊池 正孝	荒井	謙二		小松	龍哉						
87年	62年	28年目	谷藤 悦史	菊池 正孝	岸	貴晴		鈴木	要						
88年	63年	29年目	谷藤 悦史	菊池 正孝	千葉	高		伊藤	哲也						
89年	平成元年	30年目	寺下 明	菊池 正孝	加藤	慎一		和田	瑞弘						優勝
90年	2年	31年目	寺下 明	菊池 正孝	高橋	孝信		夏堀	一彦						優勝
91年	3年	32年目	藤井 浩司	菊池 正孝	伊藤	隆一		石井	宏行						優勝

テニス部 (設立と同時に加盟、平成16年にソフトテニス部から名称変更)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	男 歴代主将	女 歴代主将	歴代主務	卒業人数	男 東北総体	女 東北総体	男 全日本王座	女 全日本王座
92年	4年	33年	藤井 浩司	菊池 正孝	佐久間正和	佐藤 淳子	北林 真	15		優勝		
93年	5年	34年	藤井 浩司	菊池 優子	米川 健	須藤 陽子	小山 浩美	9	2位	優勝	予選敗退	
94年	6年	35年	梶原 洋	菊池 優子	藤沢 健吾	千葉 清美	小山 浩美	9		優勝	予選敗退	予選敗退
95年	7年	36年	梶原 洋	菊池 優子	伊藤 秀之	藤原 由佳	小松 泉	6		優勝		
96年	8年	37年	梶原 洋	菊池 優子	加藤 雅哉	吉田 昌世	小松 泉	2		優勝		
97年	9年	38年	小野寺五典	菊池 優子	佐藤 慎一	鎌水 幸恵	田部 桂	6		優勝		予選敗退
98年	10年	39年	江尻 行男	菊池 優子	富樫 仁	北林芽久美	田部 桂	3	2位	優勝		予選敗退
99年	11年	40年	江尻 行男	菊池 優子	熊谷 祐介	平野 恭子	奥山 豪	10	ベスト8	優勝	予選敗退	
2000年	12年	41年	江尻 行男	菊池 優子	佐藤 圭一	山崎 良子	佐渡 悠記	9	ベスト8	優勝	予選敗退	予選敗退
01年	13年	42年	江尻 行男	今野 優子	吉田 和正	工藤 史恵	木村 文恵	7	優勝	優勝	予選敗退	
02年	14年	43年	江尻 行男	今野 優子	川原 大樹	山本さと美	白石 賢三	1	優勝	準優勝	予選敗退	
03年	15年	44年	江尻 行男	今野 優子	佐藤 俊一	山本さと美	白石 賢三	10	優勝	準優勝	予選敗退	
04年	16年	45年	江尻 行男	今野 優子	安藤 寛	猪瀬 直美	藤林 卓也	10	優勝	準優勝	準優勝	
05年	17年	46年	江尻 行男	今野 優子	佐々木洋介	藤瀬 美帆	中野目貴士	10	優勝	優勝	3位	
06年	18年	47年	江尻 行男	今野 優子	高見 史朗	丸井総美子	中野目貴士	16	優勝	優勝	予選敗退	4位
07年	19年	48年	江尻 行男	今野 優子	柳沼 拓弥	北田 美穂	佐藤 大和	10	優勝	優勝	4位	予選敗退
08年	20年	49年	江尻 行男	今野 優子	高橋 洗希	大宮 美咲	佐藤 大和	18	優勝	優勝	準優勝	予選敗退
09年	21年	50年	江尻 行男	今野 優子	森田 祐哉	大山 祐奈	斎藤 達也	17	優勝	優勝	予選敗退	予選敗退
10年	22年	51年	江尻 行男	今野 優子	若梅 弘敏	河瀬 有貴	高山 昌樹	9	準優勝	準優勝	予選敗退	予選敗退
11年	23年	52年	江尻 行男	今野 優子	林 瑞樹	堤 竜理	横山 栄人	9	中止	中止	予選敗退	予選敗退
12年	24年	53年	江尻 行男	今野 優子	野崎 諒	小瀬村淳美	岡田 健斗	6	優勝	優勝	予選敗退	予選敗退
13年	25年	54年	江尻 行男	石森 慶哉 今野 優子	岩城 剛	小瀬村淳美	男子 白石 愛美 女子 小山 考基	6	優勝	優勝	予選敗退	予選敗退
14年	26年	55年	菅原 好秀	菅原 隆志 今野 優子	田中 健	沼尻 裕美	男子 江刺 金内みさき 女子 富塚 経平	11	優勝	準優勝	予選敗退	予選敗退
15年	27年	56年	菅原 好秀	菅原 隆志 今野 優子	佐藤 孝一	成田 紬子	男子 富塚 経平 女子 高橋 経平	5	準優勝	準優勝	予選敗退	
16年	28年	57年	菅原 好秀	菅原 隆志 今野 優子	前田 恭輔	木谷 優美	男子 富塚 経平 女子 高崎 里歩	6	優勝	優勝	リーグ敗退	準優勝
17年	29年	58年	菅原 好秀	菅原 隆志 今野 優子	阿部 智貴	小野寺 萌	男子 藤原 隆志 女子 高崎 里歩	6	優勝	ベスト8	4位	リーグ敗退
18年	30年	59年	菅原 好秀	菅原 隆志 今野 優子	吉川 智朗	久保 智子	男子 菅原 隆志 女子 上村 優江	5	優勝	優勝	リーグ敗退	リーグ敗退
19年	令和元年	60年		菅原 隆志 今野 優子	玉澤 直人	小松田茉優	男子 工藤 可雅 女子 上村 琴江	10	優勝	優勝	リーグ敗退	
20年	2年	61年		菅原 隆志 今野 優子	早坂隆之介	小林 萌	男子 工藤 可雅 女子 戸来 文音	5		(すべて中止)		
21年	3年	62年		菅原 隆志 今野 優子	松田 直大	戸来 文音	男子 山口 順寛 女子 戸来 文音	6	準優勝			中止
22年	4年	63年		菅原 隆志 今野 優子	高橋 俊貴		男子 村田 和馬 女子	3	準優勝			中止

計394

バドミントン部（前身は昭和41年にさかのぼる。卒業生も同44年までに7人がいた。設立と同時に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦				東北総体		東日本		全日本	
								男子 春	男子 秋	女子 春	女子 秋	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1970年	昭和45年	1年目	須田 勝弥				1										
71年	46年	2年目	武田 忠				0										
72年	47年	3年目	武田 忠				1										
73年	48年	4年目	内海 正				2										
74年	49年	5年目	内海 正				1										
75年	50年	6年目	内海 正				7										
76年	51年	7年目	横田 信義				5										
77年	52年	8年目	横田 信義				5										
78年	53年	9年目	横田 信義				1										
79年	54年	10年目	横田 信義		阿部 義明	越野 之博	2										
80年	55年	11年目	横田 信義		木立 三男	佐藤 誠一	6		4位								
81年	56年	12年目	横田 信義		矢口 但	鈴木美恵子	1			優勝							
82年	57年	13年目	横田 信義		佐藤 光一	浅石 優子	3			優勝							
83年	58年	14年目	横田 信義		駒井 雅康	大條 淳子	2			優勝							
84年	59年	15年目	横田 信義		駒井 雅康	久保上 滋	5										
85年	60年	16年目	横田 信義		佐藤 勝彦	久保上 滋	5		3位								
86年	61年	17年目	横田 信義		阿部 久	横田なおみ	7		優勝								
87年	62年	18年目	横田 信義		早坂 信幸	横田なおみ	5			準優勝							
88年	63年	19年目	横田 信義		小針 功	寛野 裕恵	2			準優勝							
89年	平成元年	20年目	横田 信義		菅原 資浩	寛野 裕恵	7			優勝							
90年	2年	21年目	横田 信義		鈴木 理之	佐藤 秋二	7			優勝							
91年	3年	22年目	横田 信義		片桐 英二	黒須 由佳	8			優勝							
92年	4年	23年目	横田 信義		佐藤 純一	保志 和裕	12			優勝							
93年	5年	24年目	横田 信義		飯泉 哲也	相澤 美佐	7			準優勝							
94年	6年	25年目	小玉 一彦	大場 信悦	馬場 貴人	遠藤 庸子	7			準優勝							
95年	7年	26年目	横田 信義	田所 光男	福田 学	中島 誠	7			準優勝							
96年	8年	27年目	横田 信義	保志 和裕	石橋 孝之	竹本 妙子	5			準優勝							
97年	9年	28年目	横田 信義	保志 和裕	小柳 一広	竹本 妙子	7			4位							
98年	10年	29年目	横田 信義	保志 和裕	深井 祐介	板橋 雅子	7			準優勝							
99年	11年	30年目	横田 信義	保志 和裕	石田 博光	板橋 雅子	7			II部優勝							ベスト16

バドミントン部 (前身は昭和41年にさかのぼる。卒業生も同44年までに7人がいた。設立と同時に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦						東北総体		東日本		全日本			
								男子			女子			男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
								春	秋	昇格	春	秋	昇格	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
2000年	12年	31年目	横田 信義	保志 和裕	加藤 隆弘	佐藤 寛美	5	準優勝	準優勝	優勝	優勝	準優勝	準優勝	優勝	優勝	ベスト16	ベスト16	出場	出場		
01年	13年	32年目	横田 信義	保志 和裕	高橋伸太郎	木村佳奈子	9	3位	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	ベスト16	ベスト16	ベスト16	ベスト16	ベスト16		
02年	14年	33年目	横田 信義	保志 和裕	関根 正浩	須永祐未子	4	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝							
03年	15年	34年目	横田 信義	保志 和裕	千葉健太郎	石川 ゆか	8	準優勝	準優勝	準優勝	準優勝	準優勝	3位	優勝							
04年	16年	35年目	横田 信義		別井 一彦	石川 ゆか	8	優勝	優勝	3位	3位	3位	3位	準優勝							
05年	17年	36年目	横田 信義		関谷 聖	理恵	9	準優勝	優勝	準優勝	準優勝	優勝	優勝	準優勝	ベスト16	ベスト16					
06年	18年	37年目	横田 信義		宮川 真	麻綾	9	準優勝	優勝	優勝	準優勝	優勝	優勝	優勝	ベスト16	ベスト16					
07年	19年	38年目	横田 信義		阿部 亮介	村上和加奈	10	3位	3位	3位	3位	優勝	優勝	準優勝	ベスト16	ベスト16					
08年	20年	39年目	横田 信義	早坂 信幸	根本 克俊	武内 美菜	4	優勝	4位	優勝	2位	優勝	3位	優勝							
09年	21年	40年目	横田 信義	早坂 信幸	斎藤 司	武内 美菜	8	優勝	2位	3位	優勝	3位	3位	3位							
10年	22年	41年目	横田 信義	五十嵐 守	山口 大貴	佐藤 有梨	6	3位	3位	3位	優勝	3位	3位	3位							
11年	23年	42年目	横田 信義	五十嵐 守	今野 裕基	伊深 顕絵	7	準優勝	準優勝	5位	準優勝	中止	中止	中止							
12年	24年	43年目	横田 信義	五十嵐 守	小池 毅	伊深 顕絵	9	3位	準優勝	準優勝	準優勝	優勝	優勝	優勝							
13年	25年	44年目	五十嵐 守	田原 洋幸	伊深 顕絵	齋藤 千愛	6	2部昇格	1部昇格	2部昇格	1部昇格	4位	2位	2位	一回戦	一回戦	出場	出場	出場		
14年	26年	45年目	五十嵐 守	田原 洋幸	小原 優美	齋藤 千愛	2	2位	2位	2位	2位	優勝	優勝	優勝	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退		
15年	27年	46年目	五十嵐 守	田原 洋幸	齋藤 千愛	小原 水月	5	4位	3位	2位	2位	優勝	優勝	優勝	優勝	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退		
16年	28年	47年目	五十嵐 守	田原 洋幸	吉田 知世	伊藤 祐実	10	4位	優勝	3位	準優勝	準優勝	準優勝	優勝	2回戦敗退	1回戦敗退	不出場	不出場	不出場		
17年	29年	48年目	田原 洋幸	谷内 貴昭	伊藤 祐実	小沼 琴	7	3位	3位	3位	4位	4位	4位	2位	1回戦敗退	1回戦敗退	不出場	不出場	不出場		
18年	30年	49年目	田原 洋幸	谷内 貴昭	青木 望	高橋 芽衣	8	3位	1部4位	3位	優勝	優勝	1回戦敗退	優勝	2回戦敗退	1回戦敗退	不出場	不出場	個人ダブルス出場		
19年	令和元年	50年目	田原 洋幸	谷内 貴昭	高橋 芽衣	原田 淑麗	6	2部1位	2部1位	優勝	2位	2回戦敗退	優勝	1回戦敗退	2回戦敗退	2回戦敗退	2回戦敗退	不出場	不出場		
20年	2年	51年目	田原 洋幸	谷内 貴昭	村山 可純	山崎 風	5	中止	2部1位	中止	1位									(中止)	
21年	3年	52年目	五十嵐 守	谷内 貴昭	山崎 風	開発 莉子	7	中止	1部3位	優勝	優勝	2位	2位	2回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	不出場	不出場	1回戦敗退	
22年	4年	53年目	五十嵐 守	谷内 貴昭	早川 凜	奥村 友梨	6	1部4位	1部3位	優勝	優勝	2位	2位	2回戦敗退	1回戦敗退	1回戦敗退	ベスト16	ベスト16	不出場	1回戦敗退	
							計 300														

剣道部（前身は昭和46年の同好会。設立と同時に部になり加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	東北学生	女
1972年	昭和47年	1年目	前田 正徳				1						
73年	48年	2年目	越智 猛夫	千葉 春治	神本 和明		1						
74年	49年	3年目	越智 猛夫	千葉 春治	木村 講二	永崎 靖彦	1						
75年	50年	4年目	越智 猛夫	千葉 春治	関 浩爾	平石 和一	5						
76年	51年	5年目	越智 猛夫	千葉 春治	谷口 豊治	石橋 昭夫	3						
77年	52年	6年目	越智 猛夫	千葉 春治	桜井 工	渡辺 敏彦	3						
78年	53年	7年目	越智 猛夫	千葉 春治	結城 輝夫	田村 正行	8						
79年	54年	8年目	越智 猛夫	千葉 春治	柿崎 慎一	伊藤 さき	5						
80年	55年	9年目	越智 猛夫	千葉 春治	立田 鉄雄	阿部 正彦	3						
81年	56年	10年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	古村 靖尚	遅沢 宏人	5	2位				3位	
82年	57年	11年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	長田 弘幸	丹野 國広	10						
83年	58年	12年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	本村 誠	矢野 誠	11						
84年	59年	13年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	川上 浩嗣	岡本 憲次	6						
85年	60年	14年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	会津 和夫	榊 聡	4	3位					
86年	61年	15年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	三浦 一純	榊 聡	6	1位					
87年	62年	16年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	渡辺 智久	犬養浩一郎	9				3位	1位	
88年	63年	17年目	越智 猛夫	佐藤 正敏	前田 博敏	高山 芳文	7						
89年	平成元年	18年目	辻 義人	佐藤 正敏	太田 善久	石川 友康	6					3位	
90年	2年	19年目	辻 義人	佐藤 正敏	加藤 真人	鈴木 政徳	12					2位	
91年	3年	20年目	辻 義人	佐藤 正敏	斉藤 幸信	伊藤 浩二	6						
92年	4年	21年目	寺下 明	佐藤 正敏	窪内 隆善	安斎 郁子	6						
93年	5年	22年目	寺下 明	佐藤 正敏	小野 能久	蜂谷 佳尚	7						
94年	6年	23年目	寺下 明	加藤 明彦	坪井 亨	富岡 玲治	12						
95年	7年	24年目	寺下 明	加藤 明彦	伊藤 雄介	関内 秀博	14				2位		
96年	8年	25年目	寺下 明	加藤 明彦	鈴木 和人	小林美也子	7						
97年	9年	26年目	寺下 明	加藤 明彦	加藤 淳	齋藤 憲樹	8						
98年	10年	27年目	寺下 明	加藤 明彦	川島 寿美	周藤美由紀	5	3位			2位	2位	
99年	11年	28年目	寺下 明	加藤 明彦	結城 卓	我妻 一茂	7	ベスト8		ベスト4	3位	3位	
2000年	12年	29年目	寺下 明	加藤 明彦	結城 卓	我妻 一茂	5	2位		3位		3位	

剣道部（前身は昭和46年の同好会。設立と同時に部になり加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男 東北総体	女	男 東北学生	女
01年	13年	30年目	明 寺下	加藤 明彦	伊藤 貴之	土田 育代	11	予選敗退	ベスト8		1位
02年	14年	31年目	明 寺下	加藤 明彦	今野 実	高橋 真澄	4	予選敗退	ベスト8	3位	3位
03年	15年	32年目	明 寺下	加藤 明彦	藤嶋 高史	菅野 元清	5	予選敗退	ベスト8	3位	2位
04年	16年	33年目	明 寺下	加藤 明彦	沼田 長浩	滝沢 憲弘	5	2位	ベスト8	ベスト8	3位
05年	17年	34年目	明 寺下	千葉 春秀	水澤 起弥	滝沢 憲弘	6	2位	優勝	予選敗退	3位
06年	18年	35年目	金 義信	千葉 春秀	石川 祐	小林 初美	9	2回戦敗退	3位	予選敗退	3位
07年	19年	36年目	金 義信	千葉 春秀	長谷川隆雄	高橋 和	6	2位	優勝	予選敗退	ベスト8
08年	20年	37年目	金 義信	千葉 春秀	庄司 康浩	宇賀神 歩	9	3位	ベスト8	予選敗退	優勝
09年	21年	38年目	金 義信	千葉 春秀	黒木 理広	池田健太郎	8	1回戦敗退	優勝	3位	ベスト8
10年	22年	39年目	金 義信	千葉 春秀	石原 尚生	小澤 直輝	8	1回戦敗退	1回戦敗退	2位予選敗退	準優勝
11年	23年	40年目	金 義信	千葉 春秀	伊東 海	廣田 貴紀	7	中止	中止	予選敗退	3位
12年	24年	41年目	金 義信	千葉 春秀	小林 史明	藤枝 誠	14	1回戦敗退	準優勝	ベスト8	ベスト8
13年	25年	42年目	金 義信	金 義信	今野 祐希	武藤 照宣	7	3位	準優勝	予選敗退	3位
14年	26年	43年目	金 義信	金 義信	宍戸 雅弥	青沼枝里香	13	2回戦敗退	2回戦敗退	予選敗退	ベスト8
15年	27年	44年目	金 義信	金 義信	長谷部 亨	青沼枝里香	5	2回戦敗退	2回戦敗退	ベスト8	3位
16年	28年	45年目	金 義信	金 義信	小林 信眼	齋藤 邑海	10	1回戦敗退	準優勝	予選敗退	ベスト8
17年	29年	46年目	金 義信	金 義信	井上 敦生	齋藤 邑海	8	1回戦敗退	第3位	予選敗退	ベスト8
18年	30年	47年目	金 義信	金 義信	金 信太郎	鈴木 貴臣	5	ベスト8	3位	ベスト8	予選敗退
19年	令和元年	48年目	金 義信	金 義信	鈴木 貴臣	永井 一成	6	1回戦敗退	1回戦敗退	予選敗退	ベスト8
20年	2年	49年目	金 義信	金 義信	鈴木 貴臣	永井 一成	7	(すべて中止)			
21年	3年	50年目	金 義信		山尾 宗平	大平 智也	7				
22年	4年	51年目	金 義信	太田 善久	岡本 敬杜	伊藤 安理	6	予選敗退	予選敗退	3位	3位

計 349

柔道部（前身は愛好会を経て同好会。昭和49年に加盟。卒業生の記載は同52年から）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	東北学生	女	全日本学生	体重大別
1970年	昭和45年	1年目	高橋 俊郎				0								
71年	46年	2年目	高橋 俊郎				0								
72年	47年	3年目	小野寺浩三	小野寺浩三			0								
73年	48年	4年目	小野寺浩三	小野寺浩三			0								
74年	49年	5年目	小野寺浩三	小野寺浩三			0								
75年	50年	6年目	小野寺浩三	小野寺浩三			0								
76年	51年	7年目	小野寺浩三	小野寺浩三			0								
77年	52年	8年目	小野寺浩三	小野寺浩三	柿木 尚登	川島 和雄	4								
78年	53年	9年目	小野寺浩三	小野寺浩三	細谷 晋	庄田 太一	2								
79年	54年	10年目	小野寺浩三	小野寺浩三	野崎 治幸	加藤 善光	5				2位				
80年	55年	11年目	小野寺浩三	小野寺浩三	小野寺一史	桂島 良一	2								
81年	56年	12年目	小野寺浩三	小野寺浩三	坂野 寿	恵比根 実	5								
82年	57年	13年目	小野寺浩三	小野寺浩三	高橋 保浩	柏木 智弘	8								
83年	58年	14年目	小野寺浩三	小野寺浩三	渡部 康光	葛岡 浩二	1								
84年	59年	15年目	小野寺浩三	小野寺浩三	葛岡 浩二	久田 友昭	4								
85年	60年	16年目	小野寺浩三	小野寺浩三	館野 宗男	久田 友昭	6							95 ^{kg} バースト8	樋山勝美
86年	61年	17年目	小野寺浩三	小野寺浩三	浄土 洋	伊藤 広也	4								
87年	62年	18年目	小野寺浩三	小野寺浩三	内村 秀樹	勝田 好宣	8							95 ^{kg} バースト8	朝比奈敏夫
88年	63年	19年目	小野寺浩三	小野寺浩三	朝比奈敏夫	久保田一正	4								
89年	平成元年	20年目	小野寺浩三	小野寺浩三	佐藤 公則	松本 忠明	7	3位							
90年	2年	21年目	小野寺浩三	小野寺浩三	石田 雄光	鈴木 和仁	8	3位							
91年	3年	22年目	小野寺浩三	小野寺浩三	吉田 秀幸	大木 宏樹	2	3位			3位				
92年	4年	23年目	小野寺浩三	小野寺浩三	鈴木 宏明	下条 弘文	6	3位							
93年	5年	24年目	小野寺浩三	小野寺浩三	佐藤 篤史	飯塚 雄之	4	3位							
94年	6年	25年目	小野寺浩三	小野寺浩三	伊勢 ごう	三浦 康宏	4	3位							
95年	7年	26年目	高橋 俊郎	吉川 修	矢吹 健大	原 一宣	9	3位							
96年	8年	27年目	高橋 俊郎	吉川 修	遠藤 武将	石川 忍	8	3位							
97年	9年	28年目	小松 洋吉	吉川 修	畑中 正文	高梨 智美	9	3位							
98年	10年	29年目	小松 洋吉	吉川 修	荒井 大輔	三浦 繁晴	0	バースト8			5位				
99年	11年	30年目	小松 洋吉	吉川 修	荒井 大輔	三浦 繁晴	3	3位	バースト8		二部1位				
2000年	12年	31年目	小松 洋吉	吉川 修	松山 剛	福高富士子	1	3位	2位		二部1位				
01年	13年	32年目	小松 洋吉	吉川 修	岩松 晋	福高富士子	4	3位	2位		3位			3位	
02年	14年	33年目	小松 洋吉	吉川 修	日渡 大輔	鈴木 祐二	4	3位	優勝		優勝			優勝	

柔道部（前身は愛好会を経て同好会。昭和49年に加盟。卒業生の記載は同52年から）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男 東北総体	女	男 東北学生	女	全日本学生体	重別
03年	15年	34年目	小松 洋吉	吉川 修	渡部 裕仁	宮木 政範	4	2位		4位	優勝		
04年	16年	35年目	小松 洋吉	吉川 修	長谷川智宏	結城 未来	6	ベスト8			2位		
05年	17年	36年目	小松 洋吉	渡部 康光	菅 貴志	結城 未来	6	ベスト8			2位		
06年	18年	37年目	小松 洋吉	村上 綾	菅原 泰樹	結城 未来	8	ベスト8			優勝		
07年	19年	38年目	小松 洋吉	村上 綾	鳥 一貴	結城 未来	15				優勝		
08年	20年	39年目	小松 洋吉	小松 洋吉	笹沼 孝壮	吉野 将太	4				優勝		
09年	21年	40年目	小松 洋吉	小松 洋吉	高嶋 晃	飯塚 綾希	9	ベスト8			4位		
10年	22年	41年目	小松 洋吉	小松 洋吉	金田 知大	桑島 優悟	15	ベスト8			優勝		-60kg級 佐藤恵太出場
11年	23年	42年目	小松 洋吉	小松 洋吉	横山 智樹	武田 雅行	9	中止	中止				
12年	24年	43年目	小松 洋吉	小松 洋吉	廣野 新也	武田 雅行	8			5位	優勝		100kg級 浅井大祐出場
13年	25年	44年目	小松 洋吉	小松 洋吉	遠藤 敬太	塚田 尚基	5	3位		5位	準優勝		
14年	26年	45年目	小野寺浩三	渡部 康光	佐藤 快	福土 実紀	4	中止	中止	5位	優勝		
15年	27年	46年目	小野寺浩三	渡部 康光	小針 翔太	田村 泰裕 高橋美祐紀	5			7位	準優勝		
16年	28年	47年目	小野寺浩三	渡部 康光	新田 和希	阿部 敏也	1						
17年	29年	48年目	三浦 友和	三浦 友和	田中 悠将	鈴木 若菜	1		2位	2位			66kg級 山田日南人出場
18年	30年	49年目	三浦 友和	三浦 友和	宮澤 陸	鈴木 若菜 香純	1		2位	1位			66kg級 山田日南人出場
19年	令和元年	50年目	三浦 友和	三浦 友和	宮澤 陸	鈴木 若菜 佐藤 香純	1		2位				
20年	2年	51年目	三浦 友和	三浦 友和	小林 真士	佐藤 香純	7			(すべて中止)			
21年	3年	52年目	三浦 友和	三浦 友和	小林 真士	佐藤 蝦名	14		2位	1位			60kg級 高橋昇平出場
22年	4年	53年目	三浦 友和	三浦 友和	高橋 昇平	蝦名 西出	6		3位	2位			60kg級 高橋昇平出場
							計 251						

スキ一部 (前身は同好会。昭和52年に部になり加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北地区大学	女	男	全日本学生選手権	女
1975年	昭和50年	1年目	平野 恵弘		中島 真二		0						
76年	51年	2年目	平野 恵弘		中島 真二		0						
77年	52年	3年目	平野 恵弘		石崎 道憲	石上 雅幸	2						
78年	53年	4年目	平野 恵弘		谷 秀史	石上 雅幸	6						
79年	54年	5年目	平野 恵弘		豊村 聡	高梨 順子	3						
80年	55年	6年目	平野 恵弘		塚本 英典	佐々木美保	6						
81年	56年	7年目	平野 恵弘		塚本 英典	佐々木美保	0						
82年	57年	8年目	平野 恵弘		武田 圭史	工藤 薫	3				4部33位		
83年	58年	9年目	平野 恵弘		笠原 正浩	工藤 薫	1				4部39位		
84年	59年	10年目	平野 恵弘		川端 直道	大西 秀徳	4				4部39位		
85年	60年	11年目	平野 恵弘		高橋 泰徳	大西 秀徳	4				4部52位		
86年	61年	12年目	平野 恵弘		小笠原恒典	木戸 久美	5				4部7位		
87年	62年	13年目	平野 恵弘		田鎖 利明	木戸 久美	2				3部26位		
88年	63年	14年目	平野 恵弘		川俣 安行	木戸 久美	4	優勝			3部7位		
89年	平成元年	15年目	平野 恵弘		小野寺彦吾	中村 友香	6				3部11位		
90年	2年	16年目	平野 恵弘		安孫子幸弘	三浦 香織	3				3部6位		
91年	3年	17年目	平野 恵弘		遠藤 和久	高木真理子	6				3部3位	2部30位	
92年	4年	18年目	平野 恵弘		斉藤 知道	高田 和美	6	優勝			2部4位	2部11位	
93年	5年	19年目	平野 恵弘		高橋 理	伊藤真希子	6	優勝			2部12位	2部12位	
94年	6年	20年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	下山 穰	伊藤真希子	7	優勝			2部24位	2部9位	
95年	7年	21年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	中村 巖	小山田園子	8	優勝			2部14位	2部13位	
96年	8年	22年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	及川 盛貴	小山田園子	6	優勝			2部8位	2部8位	
97年	9年	23年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	金田 範	小山田詩子	5	3位			2部16位	2部1位	
98年	10年	24年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	清野 一基	小山田詩子	5	優勝			2部11位	1部9位	
99年	11年	25年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	鳥山 真也	下山 沙知	8	優勝			2部11位	1部9位	
2000年	12年	26年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	益子 曉式	下山 沙知	6	優勝			2部4位	1部5位	
01年	13年	27年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	伊藤 崇	宮川 善弘	9	優勝			2部3位	1部8位	
02年	14年	28年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	三上 雄太	宮川 善弘	7	優勝			2部5位	1部9位	
03年	15年	29年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	竹林 洋	宮川 善弘	7	優勝			2部12位	1部10位	
04年	16年	30年目	平野 恵弘	塚本 英典・三浦 澄男	梶内 徳仁	小池 康彰	7	優勝			2部16位	1部13位	
05年	17年	31年目	平間 正志	塚本 英典・三浦 澄男	八島 徹也	小池 康彰	4	優勝			2部14位	1部13位	
06年	18年	32年目	平間 正志	塚本 英典・三浦 澄男	宮田 広大	佐藤 友理	9						

スキ一部 (前身は同好会。昭和52年に部により加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北地区大学	女	男	全日本学生選手権	女
07年	19年	33年目	平間 正志	塚本 英典・三浦 澄男	及川 郭	佐藤 友理	8						
08年	20年	34年目	平間 正志	塚本 英典・三浦 澄男	大宮隆太郎	柳本 えみ	1	優勝	優勝		2部 11位	1部 15位	
09年	21年	35年目	平間 正志	三浦 澄男	佐藤 勇太	柳本 えみ	9	優勝	3位		2部 15位	2部 18位	
10年	22年	36年目	平間 正志	三浦 澄男	帷子 千仁	柳本 えみ	0	—	—		2部 9位	2部 13位	
11年	23年	37年目	平間 正志	三浦 澄男	佐々木栄太郎	松澤 聖雪	5	—	—		2部 16位	2部 1位	
12年	24年	38年目	平間 正志	三浦 澄男	大宮大次郎	松澤 聖雪	5	—	—		2部 23位	1部 13位	
13年	25年	39年目	平間 正志	三浦 澄男	大津 将達	矢島 花恵	3	—	—		3部 1位	1部 11位	
14年	26年	40年目	平間 正志	平間 正志	奥山 達哉	加藤 美希	1				2部 12位	1部 13位	
15年	27年	41年目	平間 正志	平間 正志	高橋 岳	鳥居 駆	1	—	—		2部 11位	1部 14位	
16年	28年	42年目	平間 正志	平間 正志	高橋 岳	鳥居 駆	4	—	—		2部 8位	2部 4位	
17年	29年	43年目	平間 正志	平間 正志	五十嵐達徳	鳥居 駆	3	—	—		2部 14位	2部 2位	
18年	30年	44年目	平間 正志	平間 正志	大森 裕介	亀田 純礼	5	—	—		2部 14位	1部 14位	
19年	令和元年	45年目	平間 正志	平間 正志	工藤なつみ	亀田 純礼	3	—	—		2部 21位	2部 11位	
20年	2年	46年目	平間 正志	平間 正志	阿部 健	亀田 純礼	6	—	—		2部 2位	2部 8位	
21年	3年	47年目	平間 正志	平間 正志	秋葉 幸穂	辻 楓	1	—	—				
22年	4年	48年目	平間 正志	佐々木栄太郎	上山 偉大	辻 楓	1	—	—		2部 15位	2部 30位	
							計211						

陸上競技部 (前身は同好会であり、昭和52年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北インカレ	女	男	東北総体	女
1977年	昭和52年	1年目	久保 健	久保 健			0						
78年	53年	2年目	久保 健	久保 健			0						
79年	54年	3年目	小松 洋吉	小松 洋吉	小松 寛	小林由紀乃	0		総合 3位				
80年	55年	4年目	小松 洋吉	小松 洋吉	木幡 雅喜	塩井 春代	5						
81年	56年	5年目	小松 洋吉	小松 洋吉	横田 聡	渋谷恵理子	7		総合 4位				
82年	57年	6年目	小松 洋吉	小松 洋吉	横田 聡	渋谷恵理子	7						
83年	58年	7年目	小松 洋吉	小松 洋吉	久住 薫	古沢 直子	5						
84年	59年	8年目	恵美 敦子	恵美 敦子	高橋 喜彦	清水 靖久	4						
85年	60年	9年目	恵美 敦子	恵美 敦子	加藤 克臣	清水 靖久	10						
86年	61年	10年目	恵美 敦子	恵美 敦子	矢口 功	熊谷 雅子	10						
87年	62年	11年目	恵美 敦子	恵美 敦子	林 幸喜	尾田 秀樹	9						
88年	63年	12年目	恵美 敦子	恵美 敦子	今村 勤	本間 真	12	総合 5位	総合 4位				
89年	平成元年	13年目	恵美 敦子	恵美 敦子	本田 誠	武田 浩明	16		総合 3位				
90年	2年	14年目	恵美 敦子	恵美 敦子	八木 和芳	佐々木修二	16	総合 4位	総合 3位	総合 4位		総合 2位	
91年	3年	15年目	恵美 敦子	恵美 敦子	大崎 貞志	増子 雅義	16	総合 4位	総合 3位	総合 3位		総合 2位	
92年	4年	16年目	恵美 敦子	恵美 敦子	小崎 浩信	佐藤 一美	10						
93年	5年	17年目	恵美 敦子	恵美 敦子	富樫 和人	神戸 俊一	9	総合 6位	総合 3位	総合 9位		総合 3位	
94年	6年	18年目	恵美 敦子	恵美 敦子	加藤 仁敏	荒木 志保	10	総合 6位	総合 4位	総合 6位		総合 7位	
95年	7年	19年目	恵美 敦子	恵美 敦子	山田 宗伸	休石路美子	10	総合 6位	総合 4位	総合 5位		総合 6位	
96年	8年	20年目	恵美 敦子	恵美 敦子	角田 俊哉	山家 淳子	6	総合 8位		総合 6位		総合 9位	
97年	9年	21年目	恵美 敦子	小崎 浩信	富樫 和茂	佐野 朝子	5		総合 6位				
98年	10年	22年目	柴田 幸男	小崎 浩信	千葉 浩典	佐藤 彩	8						
99年	11年	23年目	柴田 幸男	小崎 浩信	大原 寛和	吹田 耕子	4	総合 11位	総合 5位				
2000年	12年	24年目	小玉 一彦	小崎 浩信	近藤 誉之	堀 文	4	総合 9位	総合 11位				
01年	13年	25年目	小玉 一彦	小崎 浩信	石川 正洋	平山 五月	6	総合 4位	総合 8位	総合 3位		総合 4位	
02年	14年	26年目	小玉 一彦	小崎 浩信	星 智	小山 貴司	3	総合 5位	総合 4位	総合 5位		総合 6位	
03年	15年	27年目	小玉 一彦	小崎 浩信	岩崎 宏司	小山 貴司	8	総合 8位	総合 4位	総合 2位		総合 4位	
04年	16年	28年目	小玉 一彦	小崎 浩信	村井 直人	綿引 正夫	8	総合 4位	総合 4位	総合 4位		総合 3位	
05年	17年	29年目	小玉 一彦	小崎 浩信	齋藤 靖之	綿引 正夫	13	総合 4位	総合 3位	総合 6位		総合 6位	
06年	18年	30年目	広浦 幸一	小崎 浩信・千葉 英俊	遠藤 俊一	中村 友紀	12	総合 4位	総合 3位	総合 3位		総合 3位	
07年	19年	31年目	広浦 幸一	小崎 浩信・千葉 英俊	相澤 賢	馬宮 沙織	12	総合 2位	総合 4位	総合 3位		総合 4位	
08年	20年	32年目	広浦 幸一	小崎 浩信・千葉 英俊	児玉 悠史	矢野亜佑実	13	総合 4位	総合 4位	総合 3位		総合 4位	
09年	21年	33年目	広浦 幸一	小崎 浩信・千葉 英俊	森 克紀	矢野亜佑実	19	総合 2位	総合 3位	総合 3位		総合 3位	

陸上競技部 (前身は同好会であり、昭和52年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男 東北インカレ	女	男 東北総体	女	
10年	22年	34年目	広浦 幸一	小崎 浩信	嶋貫 大地	武田 香織	18	総合 1位	総合 3位	総合 2位	総合 3位	
11年	23年	35年目	広浦 幸一	小崎 浩信・千葉 英俊	川村 元気	武田 香織	20	総合 1位	総合 3位			
12年	24年	36年目	広浦 幸一	小崎 浩信	高橋 拓也	越村 亮太	18	総合 2位	総合 2位	総合 2位	総合 2位	
13年	25年	37年目	広浦 幸一	小崎 浩信	赤津 邦紀	大崎 里歩	17	総合 3位	総合 2位	総合 3位	総合 2位	
14年	26年	38年目	広浦 幸一	広浦 幸一	里見 昌則	大波 淳宏	12	7位	2位	2位	優勝	
15年	27年	39年目	広浦 幸一	冠木 雅守	佐藤 慶太	大家 聡	19	総合 6位	総合 2位	総合 5位	総合 3位	
16年	28年	40年目	広浦 幸一	冠木 雅守	大波 淳宏	石川 史也	14	総合 4位	総合 3位	総合 2位	総合 2位	
17年	29年	41年目	広浦 幸一	冠木 雅守・永浦 和也	石川 史也	鈴木 菜未	10	総合 7位	総合 2位	総合 6位	総合 9位	
18年	30年	42年目	広浦 幸一	冠木 雅守・永浦 和也	菊池 樹	川上 雄人	9	総合 7位	総合 4位	総合 5位	総合 8位	
19年	令和元年	43年目	広浦 幸一	冠木 雅守・永浦 和也	川上 雄人	原田 悠平	10	総合 5位	総合 5位	総合 3位	総合 9位	
20年	2年	44年目	広浦 幸一	冠木 雅守・永浦 和也	佐藤耕太郎	鈴木 海	19	総合 10位	総合 10位	(中止)		
21年	3年	45年目	広浦 幸一	冠木 雅守・永浦 和也	野田 大聖	大内 奎吾	12	総合 6位	総合 4位	(中止)		
22年	4年	46年目	広浦 幸一	永浦 和也	大内 奎吾	菊池 拓哉	2	総合 8位		総合 5位		
							計 457					

女子陸上競技部 (陸上競技部としては1972年に体育会加盟、女子陸上競技部は2022年創部)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	全日本大学女子駅伝	富士山女子駅伝
2022年	元年	1年目	冠木 雅守	冠木 雅守	小松 莉菜	栗野萌々香	4	13位	11位
							計 4		

サッカー一部（前身は同好会。昭和52年に部にとなり、同53年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	東北総体	東北リーグ
1977年	昭和52年	1年目	福富 哲也	福富 哲也	高野 智広	江川千栄子	1		
78年	53年	2年目	福富 哲也	福富 哲也	高野 智広	江川千栄子	3		
79年	54年	3年目	福富 哲也	福富 哲也	大塚 昌之	大竹 雅夫	3	2回戦敗退	
80年	55年	4年目	福富 哲也	福富 哲也	高橋 忠明	大竹 雅夫	8	2部準優勝	
81年	56年	5年目	福富 哲也	福富 哲也	岡田 稔	進藤 和美	6	2部優勝	
82年	57年	6年目	小玉 一彦	小玉 一彦	速水 克敏	閑念 利寿	6	2部準優勝	7位
83年	58年	7年目	小玉 一彦	小玉 一彦	斉藤 浩	閑念 利寿	6	2部優勝	7位
84年	59年	8年目	小玉 一彦	小玉 一彦	神村 恭弘	門脇 由	5	2部準優勝	2部4位
85年	60年	9年目	小玉 一彦	小玉 一彦	鈴木 隆	門脇 由	5	2部3位	2部優勝
86年	61年	10年目	小玉 一彦	小玉 一彦	岡田 浩之	安藤 正志	4	3回戦敗退	2部優勝 1部昇格
87年	62年	11年目	小玉 一彦	小玉 一彦	西村 嘉孝	羽立 俊士	5	3回戦敗退	3位
88年	63年	12年目	小玉 一彦	小玉 一彦	矢崎 良典	羽立 俊士	8	3回戦敗退	3位
89年	平成元年	13年目	小玉 一彦	小玉 一彦	菊池 浩之	浜松 良樹	8	3回戦敗退	3位
90年	2年	14年目	小玉 一彦	小玉 一彦	荒井 厚志	辰巳 修	11	ベスト8	6位
91年	3年	15年目	小玉 一彦	小玉 一彦	浜田 清之	須藤 伸樹	11	3位	6位
92年	4年	16年目	小玉 一彦	小玉 一彦	三浦 弘幸	須藤 伸樹	15	ベスト8	3位
93年	5年	17年目	小玉 一彦	小玉 一彦	三浦 祐司	桜井 武司	15	2回戦敗退	6位
94年	6年	18年目	小玉 一彦	小玉 一彦	高浜 繁克	江泉 良教	8	ベスト8	5位
95年	7年	19年目	小玉 一彦	小玉 一彦	太田 修	野中 憲仁	14	ベスト8	8位 2部降格
96年	8年	20年目	小玉 一彦	小玉 一彦	久松康太郎	深沢 一典	13	ベスト8	2部準優勝
97年	9年	21年目	小玉 一彦	小玉 一彦	渡辺 慎介	照井 寿和	11	優勝	2部優勝
98年	10年	22年目	小玉 一彦	小玉 一彦	照井 寿和	只野 良樹	8	3位	1部7位
99年	11年	23年目	小玉 一彦	小玉 一彦	只野 良樹	志田 佳之	3	3位	2部
2000年	12年	24年目	小玉 一彦	小玉 一彦	松川 英智	関根 仁史	5	2回戦敗退	2部
01年	13年	25年目	小玉 一彦	小玉 一彦	照井 貴幸	西崎 正樹	2	2回戦敗退	2部
02年	14年	26年目	小玉 一彦	小玉 一彦	高橋 俊之	西崎 正樹	5	2回戦敗退	
03年	15年	27年目	小玉 一彦	小玉 一彦	安斎 秀律	真山 寛朗	3	1回戦敗退	2部3位
04年	16年	28年目	小玉 一彦	小玉 一彦	中沢 宏光	岡田 敏幸	3	ベスト8	2部4位
05年	17年	29年目	小玉 一彦	小玉 一彦	及川健太郎	関谷 和俊	6	ベスト8	2部3位
06年	18年	30年目	小玉 一彦	小玉 一彦	鈴木 雄大	関谷 和俊	4	ベスト8	2部優勝
07年	19年	31年目	小玉 一彦	小玉 一彦	鈴木 雄大	関谷 和俊	6	2回戦敗退	1部7位
08年	20年	32年目	小玉 一彦	小玉 一彦	林 裕太	堀江 峻広	5	2回戦敗退	2部優勝

サッカー一部（前身は同好会。昭和52年に部にとなり、同53年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	東北総体	東北リーグ
09年	21年	33年目	小玉 一彦	小玉 一彦	佐藤 和也	伊藤 功	2	3回戦敗退	1部9位
10年	22年	34年目	小玉 一彦	小玉 一彦	藤本 淳	舟山 賢哉	6	2回戦敗退	2部4位
11年	23年	35年目	小玉 一彦	小玉 一彦	舟山 賢哉	吉田 裕喜	7	中止	2部2位
12年	24年	36年目	小玉 一彦	小玉 一彦	吉田 裕喜	相原 裕紀	9	2回戦敗退	2部2位
13年	25年	37年目	小玉 一彦	小玉 一彦	小林 秀彰	八重畑郁弥	1	ベスト16	2部2位
14年	26年	38年目		吉田 繁喜	八重畑郁弥	吉田 広喜	2	1回戦敗退	2部2位
15年	27年	39年目		吉田 繁喜	高橋 大朗	吉田 靖耶	7	1回戦敗退	2部6位
16年	28年	40年目	大野 光吉	吉田 繁喜	吉田 靖耶	濱 悠太郎	5	1回戦敗退	2部6位
17年	29年	41年目	大野 光吉	吉田 繁喜	濱 悠太郎	菊地 成美	6	2回戦敗退	2部6位
18年	30年	42年目	大野 光吉	吉田 繁喜	高橋健太郎	鎌田 隆成	3	ベスト8	2部6位
19年	令和元年	43年目	大野 光吉	吉田 繁喜	山縣 真大	井上 弘規	5	1回戦敗退	3部Bグループ1位
20年	2年	44年目	大野 光吉	男子 繁喜 女子 松村利子	星 元気	管井 勝哉	12	中止	3部2位
21年	3年	45年目	大野 光吉	男子 繁喜 女子 平野貴之	森岡和貴 浦澤愛奏	男子 菅原遼太郎 女子 沼崎瑞稀	9 0	中止 なし	2部南2位 3位
22年	4年	46年目	大野 光吉	男子 繁喜 女子 平野貴之	青木悠真 沼崎瑞稀	男子 鈴木 悠生 女子 福原亜美香	11 0	不参加 なし	2部南2位 3位
							計:301		

躰道部（前身は同好会。昭和53年に部になり加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	全 国 学 生
1976年	昭和51年	1年目	渡辺 信英	今野 清男			0	
77年	52年	2年目	渡辺 信英	今野 清男			0	
78年	53年	3年目	工藤 啓	今野 清男	中塚 晶	松田 一	7	
79年	54年	4年目	工藤 啓	今野 清男	佐藤 哲	酒井 俊明	0	
80年	55年	5年目	工藤 啓	今野 清男	佐藤 哲	酒井 俊明	2	
81年	56年	6年目	工藤 啓	今野 清男	佐藤 三三	長崎 淳	2	
82年	57年	7年目	工藤 啓	今野 清男	佐藤 文昭	向山 泰庸	1	新入団体法形3位
83年	58年	8年目	工藤 啓	今野 清男	平山 明	向山 泰庸	3	団体法形3位
84年	59年	9年目	工藤 啓	今野 清男	工藤 聡	渥美 浩一	4	個人法形2位 舩田高順
85年	60年	10年目	工藤 啓	今野 清男	斉藤 政浩	斉藤 圭一	2	
86年	61年	11年目	工藤 啓	今野 清男	平田 良彦	坂上 和人	4	
87年	62年	12年目	工藤 啓	今野 清男	桜庭 知巳	関口 義英	1	個人法形優勝 門馬史和
88年	63年	13年目	工藤 啓	今野 清男	桜庭 知巳	関口 義英	5	個人法形優勝 門馬史和
89年	平成元年	14年目	工藤 啓	今野 清男	中村 敬	工藤 道也	2	個人法形優勝 門馬史和
90年	2年	15年目	工藤 啓	今野 清男	石川 成一	小野寺 学	6	総合3位 個人法形優勝 奥山樹子 同3位 門馬史和
91年	3年	16年目	宇田川一夫	今野 清男	川村 紳	佐藤 仁美	2	
92年	4年	17年目	宇田川一夫	今野 清男	川村 紳	須田 仁	2	
93年	5年	18年目	宇田川一夫	今野 清男	山口 徹	須田 仁	6	団体法形2位 個人実戦3位 須田 仁
94年	6年	19年目	宇田川一夫	今野 清男	浦村 実	熊谷 知子	2	
95年	7年	20年目	宇田川一夫	今野 清男	福田 秀昭	佐野由美子	4	
96年	8年	21年目	宇田川一夫	今野 清男	林 学	清野 哲也	6	個人実戦2位 阿部浩太郎
97年	9年	22年目	宇田川一夫	今野 清男	中島 力	遠藤 真二	9	総合4位 団体法形2位 個人法形優勝 中島 力 伊藤好恵
98年	10年	23年目	宇田川一夫	今野 清男	寺崎 友和	松本 樹里	8	女子団体実戦2位
99年	11年	24年目	宇田川一夫	今野 清男	岡野 敬介	南 裕樹	5	
2000年	12年	25年目	宇田川一夫	今野 清男	齋藤 晴彦	山之内善弘	5	
01年	13年	26年目	宇田川一夫	今野 清男	鈴木 智之	盛田 一栄	2	
02年	14年	27年目	山川 敏久	今野 清男	持田千恵子	安瀬まゆみ	5	団体法形4位
03年	15年	28年目	山川 敏久	今野 清男	赤間 健司	岡田 典子	6	女子団体実践優勝
04年	16年	29年目	山川 敏久	今野 清男	館鼻 美雪	青木 寛敏	3	
05年	17年	30年目	山川 敏久	今野 清男	青木 寛敏	浅沼 徹彦	4	
06年	18年	31年目	山川 敏久	今野 清男	佐藤 敏顕	池嶋 香苗	3	
07年	19年	32年目	山川 敏久	今野 清男	結城 麻衣	池嶋 香苗	4	

北海道部（前身は同好会。昭和53年に部になり加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	全 国 学 生
08年	20年	33年目	山川 敏久	今野 清男	荒木 昭美	草野 克哉	3	
09年	21年	34年目	山川 敏久	今野 清男	後藤 裕介	後藤 裕介	1	
10年	22年	35年目	山川 敏久	今野 清男	熊谷 夏樹	加藤 高史	0	
11年	23年	36年目	山川 敏久	今野 清男	熊谷 夏樹	加藤 高史	0	個人法形ベスト8 熊谷夏樹
12年	24年	37年目	山川 敏久	今野 清男	熊谷 夏樹	加藤 高史	0	
13年	25年	38年目	山川 敏久	青木 寛敏	熊谷 夏樹	加藤 高史	2	
14年	26年	39年目	山川 敏久	青木 寛敏	菅原 森吾	坂本 裕美	4	
15年	27年	40年目	山川 敏久	青木 寛敏	奈良部早紀	米倉 茉佑	2	
16年	28年	41年目	中塚 晶	青木 寛敏	金沢 柚子	金沢 柚子	0	
17年	29年	42年目	山川 敏久	今野 清男	金沢 柚子	金沢 柚子	0	
18年	30年	43年目	山川 敏久 中塚 晶	今野 清男 青木 寛敏	井上 秀東	井上 秀東	0	
19年	令和元年	44年目	山川 敏久 中塚 晶	今野 清男 青木 寛敏	森 真機	越戸あかり	0	
20年	2年	45年目	中塚 晶	青木 寛敏	森 真機	越戸あかり	0	(中止)
21年	3年	46年目	中塚 晶	青木 寛敏	森 真機	越戸あかり	0	
22年	4年	47年目	武田 圭矢	青木 寛敏	森 真機	越戸あかり	2	
							計 129	

弓道部 (前身は同好会。昭和55年に部になり加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	全日本学生	女
1977年	昭和52年	1年目	百瀬 俊鳳				0						
78年	53年	2年目	百瀬 俊鳳				0						
79年	54年	3年目	百瀬 俊鳳		松川 弘	奥山日登美	4	不参加	不参加	不参加	不参加	不参加	不参加
80年	55年	4年目	百瀬 俊鳳		梅津 和彦	近藤 桂子	3	予選落ち	予選落ち	予選落ち	不参加	不参加	不参加
81年	56年	5年目	百瀬 俊鳳		梅津 和彦	野田 泰弘	9	予選落ち	予選落ち	予選落ち	不参加	不参加	不参加
82年	57年	6年目	百瀬 俊鳳		畠山 正己	丹野 孝雄	7	予選落ち	3位	不参加	不参加	不参加	不参加
83年	58年	7年目	百瀬 俊鳳		中沢 紀雄	小川 弥	2	予選落ち	予選落ち	予選落ち	不参加	不参加	不参加
84年	59年	8年目	小野 禎一		中沢 紀雄	小川 弥	9	ベスト6	ベスト6	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
85年	60年	9年目	溝口 謙三		岩田 進	佐藤 文彦	12	予選落ち	2位	不参加	不参加	不参加	不参加
86年	61年	10年目	溝口 謙三		山岡 久弘	柴田 雅則	5	予選落ち	2位	予選落ち	予選落ち	ベスト16	ベスト16
87年	62年	11年目	溝口 謙三		小松崎智幸	佐久間善幸	9	予選落ち	2位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
88年	63年	12年目	溝口 謙三		船橋 正人	吉田 秀昭	8	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
89年	平成元年	13年目	溝口 謙三		米沢 勇人	星 勉	12	予選落ち	2位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
90年	2年	14年目	岡田 清一		中村 忠司	山野 隆紀	11	4位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
91年	3年	15年目	岡田 清一		伊藤 拓	岡田 真善	15	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
92年	4年	16年目	岡田 清一		森戸 茂	伊藤 大輔	10	4位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
93年	5年	17年目	岡田 清一		久山 幸宏	松川 剛	9	4位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
94年	6年	18年目	岡田 清一	佐藤真二郎	小山 卓三	高村 忍	3	予選落ち	5位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
95年	7年	19年目	岡田 清一	佐藤真二郎	鈴木 良和	田子 裕子	8	4位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
96年	8年	20年目	岡田 清一	佐藤真二郎	宮田 和信	金澤 純子	2	5位	予選落ち	予選落ち	不参加	予選落ち	予選落ち
97年	9年	21年目	岡田 清一	佐藤真二郎	柳沼 知弘	若杉 和代	7	3位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
98年	10年	22年目	岡田 清一	佐藤真二郎	根岸 徹	根岸 徹	9	優勝	優勝	優勝	予選落ち	予選落ち	予選落ち
99年	11年	23年目	岡田 清一	佐藤真二郎	大堀 典昭	稲葉 祐介	6	4位	優勝	優勝	予選落ち	予選落ち	予選落ち
2000年	12年	24年目	岡田 清一	佐藤真二郎	永井 健夫	菅野 美和	6	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
01年	13年	25年目	岡田 清一	佐藤真二郎	千釜 智宏	鈴木 英恵	7	ベスト8	ベスト8	ベスト6	予選落ち	予選落ち	予選落ち
02年	14年	26年目	岡田 清一	佐藤真二郎	鈴木 和典	能倉久美子	9	ベスト8	優勝	優勝	予選落ち	ベスト8	ベスト8
03年	15年	27年目	岡田 清一	佐藤真二郎	三浦 亮介	中野渡万輝	5	ベスト8	優勝	優勝	予選落ち	ベスト8	ベスト8
04年	16年	28年目	岡田 清一	佐藤真二郎	佐々木貞美	石井 淑	4	ベスト8	優勝	優勝	ベスト24	ベスト16	ベスト16
05年	17年	29年目	岡田 清一		佐藤 真幸	松井 祐子	10	予選落ち	3位	3位	ベスト8	予選落ち	予選落ち
06年	18年	30年目	岡田 清一		草皆 洋輔	齋藤 知佳	10	5位	3位	3位	ベスト24	ベスト16	ベスト16
07年	19年	31年目	岡田 清一		天内 啓介	白勢 純子	10	準優勝	3位	3位	ベスト24	予選落ち	予選落ち
08年	20年	32年目	岡田 清一		小山 峻英	三浦 梨左	8	3位	5位	5位	予選落ち	ベスト16	ベスト16

弓道部 (前身は同好会。昭和55年に部になり加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	全日本学生	女
09年	21年	33年目	岡田 清一		佐藤 聡聖	中村 彩	7	3位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
10年	22年	34年目	岡田 清一		桃野 憲	高梨龍之介	5	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち
11年	23年	35年目	岡田 清一		塚原 隆文	島守 智美	6	中止	中止	中止	予選落ち	予選落ち	予選落ち
12年	24年	36年目	岡田 清一	佐藤 真幸	太田 嵩宗	齋藤 彩	8	ベスト8	ベスト8	3位	予選落ち	予選落ち	予選落ち
13年	25年	37年目	岡田 清一	佐藤 真幸	飯塚 翔	森 千花子	6	予選敗退	優勝	優勝	予選落ち	ベスト8	
14年	26年	38年目	岡田 清一	佐藤 真幸	江上 光紀	高上 卓也	3	準優勝	3位	3位	予選落ち	予選落ち	
15年	27年	39年目	岡田 清一	佐藤 真幸	中村 巧	庄子 裕佳	2	予選落ち	4位	4位	ベスト16	ベスト24	
16年	28年	40年目	岡田 清一	佐藤 真幸	生亀 大輝	末永 夏美	8	準優勝	3位	3位	予選落ち	予選落ち	
17年	29年	41年目	松本 祥子	佐藤 真幸	藪 光太郎	齋藤 瑞穂	6	優勝	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	
18年	30年	42年目	松本 祥子	佐藤 真幸	鈴木 秀孟	吉田 裕亮	2	4位	予選落ち	予選落ち	予選落ち	予選落ち	
19年	令和元年	43年目	松本 祥子	佐藤 真幸	渡邊 雄真	吉田 裕亮	5	優勝	3位	3位	予選敗退	予選敗退	
20年	2年	44年目	松本 祥子	佐藤 真幸	熊谷 健汰	太田 蒼子	4	(中止)	(中止)	(中止)	予選敗退	本選出場	
21年	3年	45年目	松本 祥子	佐藤 真幸	齋藤 巧樹	小山 耕大	11	(中止)	(中止)	(中止)	予選敗退	予選敗退	
22年	4年	46年目	松本 祥子	佐藤 真幸	川上 雄飛	丹野 陸	6	不参加	不参加	不参加	予選敗退	ベスト24	

計 308

男子ハンドボール部 (前身は同好会。昭和59年に卒業生2人あり。同63年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東北総体	東日本選手権	全日本選手権
1985年	昭和60年	1年目	青柳 勉		根来 宏之		3	一部6位	一部6位	2回戦敗退		
86年	61年	2年目	青柳 勉		金城 輝幸		6	一部6位	一部6位	2回戦敗退		
87年	62年	3年目	青柳 勉		和田 明人		2	一部6位	一部6位	2回戦敗退	出場	
88年	63年	4年目	青柳 勉		国井 弘行	小方 潔	3	一部6位	一部5位	2回戦敗退	出場	
89年	平成元年	5年目	青柳 勉		高橋 晃	福田 浩	2	優勝	準優勝	準優勝	出場	
90年	2年	6年目	青柳 勉		大沼 覚	金田 真則	4	準優勝	準優勝	準優勝	出場	
91年	3年	7年目	青柳 勉		金子 周一	工藤 英明	10	優勝	準優勝	準優勝	出場	
92年	4年	8年目	青柳 勉		市川 正人	伊藤 史	7	準優勝	優勝	優勝	ベスト12	
93年	5年	9年目	青柳 勉		須藤 勝俊	岡部 豊	6	準優勝	準優勝	準優勝	出場	
94年	6年	10年目	青柳 勉	山路 康男	佐藤 正樹	岡部 豊	8	3位	準優勝	準優勝	出場	
95年	7年	11年目	青柳 勉	山路 康男	菅井 正則	四戸 匠	6	3位	3位	3位	出場	
96年	8年	12年目	青柳 勉	山路 康男	山口 秀之	野沢 康良	6	3位	3位	3位	出場	
97年	9年	13年目	青柳 勉	山路 康男	田中 洋平	仁田原 勲	7	優勝	準優勝	準優勝	出場	出場
98年	10年	14年目	青柳 勉	山路 康男	間島 照結	水谷 吉宏	5	準優勝	優勝	準優勝	出場	出場
99年	11年	15年目	青柳 勉	山路 康男	斉藤 慎	菅間 豊和	7	優勝	優勝	優勝	ベスト8	出場
2000年	12年	16年目	青柳 勉	山路 康男	千葉 伸彦	我孫子広知	7	優勝	優勝	優勝	ベスト16	出場
01年	13年	17年目	青柳 勉	山路 康男	星川 雄二	我孫子広知	3	優勝	優勝	優勝	出場	出場
02年	14年	18年目	青柳 勉	山路 康男	二瓶 一貴	小山 泰裕	4	優勝	優勝	優勝	ベスト16	ベスト16
03年	15年	19年目	青柳 勉	山路 康男	岡野 友樹	本 健一	4	優勝	優勝	優勝	ベスト16	出場
04年	16年	20年目	青柳 勉	山路 康男	白澤 信	本 健一	5	優勝	2位	2位	ブロンク1位	ベスト16
05年	17年	21年目	青柳 勉	和田 明人	熱海 雄介	永窪 健太	5	4位	3位	2位	ブロンク1位	出場
06年	18年	22年目	青柳 勉	和田 明人	渡辺 直	熊谷 篤	8	2位	4位	優勝	ブロンク2位	出場
07年	19年	23年目	青柳 勉	和田 明人	圓谷 陽	横 隼人	7	2位	3位	優勝	ブロンク3位	出場
08年	20年	24年目	青柳 勉	和田 明人	大橋 厚太	丹木健一郎	2	3位	優勝	優勝	ブロンク2位	ベスト16
09年	21年	25年目	青柳 勉	和田 明人	原田 晃樹	丹木健一郎	8	優勝	優勝	優勝	ブロンク1位	ベスト16
10年	22年	26年目	青柳 勉	和田 明人	赤坂英太郎	角田 光宏	0	2位	2位	2回戦敗退	ブロンク2位	出場
11年	23年	27年目	青柳 勉	和田 明人	関口 秀	奥崎 健人	7	3位	3位	中止	ブロンク2位	
12年	24年	28年目	青柳 勉	和田 明人	山崎 大輔	奥崎 健人	7	3位	準優勝	準優勝	ブロンク優勝	一回戦敗退
13年	25年	29年目	和田 明人	千葉 伸彦	高橋 亮太	豊崎 大介	1	優勝	準優勝	3位	ブロンク2位	一回戦敗退
14年	26年	30年目	和田 明人	千葉 伸彦	大野 貴之	豊崎 大介	8	準優勝	3位	優勝	ブロンク1位	一回戦敗退
15年	27年	31年目	和田 明人	千葉 伸彦	相田 英貴	影山 陽大	6	3位	3位	準優勝	ブロンク1位	一回戦敗退
16年	28年	32年目	和田 明人	千葉 伸彦	谷藤 雄大	畠山 航	7	優勝	優勝	優勝	ブロンク2位	一回戦敗退

男子ハンドボール部（前身は同好会。昭和59年に卒業生2人あり。同63年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東北総体	東日本選手権	全日本選手権	
17年	29年	33年目	和田 明人	千葉 伸彦	小原 遼大	橋本 大和	7	優勝	準優勝	3回戦敗退	ブロック2位		
18年	30年	34年目	和田 明人	千葉 伸彦	高橋 海晴	橋本 大和	2	準優勝	準優勝	2回戦敗退	ブロック2位		
19年	令和元年	35年目	和田 明人	千葉 伸彦	羽場 大地	渡邊 一希	4	準優勝	3位		ブロック2位		
20年	2年	36年目	和田 明人	千葉 伸彦	佐藤 海大	半谷 慧太	9			(すべて中止)			
21年	3年	37年目	和田 明人	千葉 伸彦	村上裕次郎	半谷 慧太	0	3位	中止		出場	ベスト16	
22年	4年	38年目	千葉 伸彦	影山 陽大	立花 佑太	半谷 慧太	7	準優勝	準優勝		ブロック2位	一回戦敗退	
							計200						

女子ハンドボール部（昭和61年に加盟。それ以前は同好会）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東北総体	東北学生選手権	東日本選手権*	全日本
1981年	昭和56年	1年目	渡辺 秀彦	山路 康男	中村 純子		0						
82年	57年	2年目	渡辺 秀彦	山路 康男	中村 純子		0						
83年	58年	3年目	鈴木 智彦	山路 康男	中村 純子		0						
84年	59年	4年目	鈴木 智彦	山路 康男	中村 純子		4						
85年	60年	5年目	鈴木 智彦	山路 康男	本間久美子		1						
86年	61年	6年目	鈴木 智彦	山路 康男	葛巻 睦子	武者 真理	4						
87年	62年	7年目	鈴木 智彦	山路 康男	沼澤 央枝	三浦 育子	3		優勝			予選敗退	1回戦敗退
88年	63年	8年目	鈴木 智彦	山路 康男	阿部 真実	山口智恵子	4	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
89年	平成元年	9年目	鈴木 智彦	山路 康男	神尾 純子	佐々木悦子	3	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
90年	2年	10年目	鈴木 智彦	山路 康男	中井 恭子	森屋 純子	3	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
91年	3年	11年目	鈴木 智彦	山路 康男	伊原 美和	松山 由紀	7	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
92年	4年	12年目	鈴木 智彦	山路 康男	木下 陽子	伴野 圭子	7	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
93年	5年	13年目	鈴木 智彦	山路 康男	大島 美恵	桜井 恵美	8	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
94年	6年	14年目	鈴木 智彦	山路 康男	星川生恵子	小野寺 彩	6	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
95年	7年	15年目	鈴木 智彦	山路 康男	沼倉 恵美	志賀 友美	4	優勝	優勝			予選敗退	1回戦敗退
96年	8年	16年目	鈴木 智彦	山路 康男	石田 朋子	赤澤 真樹	3	優勝	優勝			ベスト8	1回戦敗退
97年	9年	17年目	鈴木 智彦	山路 康男	石川 和美	深田 寿江	4	優勝	優勝			ベスト8	2回戦敗退
98年	10年	18年目	鈴木 智彦	山路 康男	川口有美子	松本美美子	8	優勝	優勝	優勝		ベスト8	2回戦敗退
99年	11年	19年目	鈴木 智彦	山路 康男	高山 尚子	松本美美子	6	優勝	準優勝	優勝		ベスト8	1回戦敗退
2000年	12年	20年目	鈴木 智彦	渡辺 信英	田村 志穂	松原 里奈	3	優勝	優勝	優勝		ベスト8	2回戦敗退
01年	13年	21年目	鈴木 智彦	渡辺 信英	田村真理子	佐々木美子	8	優勝	優勝	優勝		ベスト8	2回戦敗退
02年	14年	22年目	鈴木 智彦	渡辺 信英	小野 書子	大柴加奈子	5	優勝	優勝	優勝		ベスト8	1回戦敗退
03年	15年	23年目	鈴木 智彦	渡辺 信英	庄内 美女	半澤 智子	6	優勝	優勝	優勝		ベスト8	2回戦敗退
04年	16年	24年目	鈴木 智彦	駒野 真司	花井咲有理	半澤 智子	9	優勝	優勝	優勝		ベスト8	2回戦敗退
05年	17年	25年目	鈴木 智彦	駒野 真司	及川まり子	高橋 祐子	6	優勝	優勝	準優勝		(ブロック)優勝	2回戦敗退
06年	18年	26年目	鈴木 智彦	駒野 真司	佐藤あゆみ	平塚 夏実	11	優勝	準優勝			(ブロック)優勝	2回戦敗退
07年	19年	27年目	鈴木 智彦	駒野 真司	池田 沙織	大内 寛子	4	優勝	優勝			(ブロック)優勝	1回戦敗退
08年	20年	28年目	鈴木 智彦	駒野 真司	佐藤 寛子	片山 由依	4	準優勝	準優勝			3位	1回戦敗退
09年	21年	29年目	鈴木 智彦	鈴木 智彦	畑村 彩	片山 由依	6	準優勝	準優勝			ブロック2位	1回戦敗退
10年	22年	30年目	鈴木 智彦	鈴木 智彦	駒屋 郁乃	片山 由依	7	3位	準優勝				1回戦敗退
11年	23年	31年目	鈴木 智彦	鈴木 智彦	中村ひとみ	町屋 佑子	7	優勝	準優勝			ブロック優勝	1回戦敗退
12年	24年	32年目	青柳 勉	駒野 真司	菅野 絢香	町屋 佑子	5	準優勝	準優勝			ブロック2位	1回戦敗退
13年	25年	33年目	青柳 勉	駒野 真司	鈴木 千琴	鹿原 花純	4	優勝	優勝			ブロック優勝	2回戦敗退

女子ハンドボール部（昭和61年に加盟。それ以前は同好会）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	リーグ戦春	同 秋	東北総体	東北学生選手権	東日本選手権*	全日本
14年	26年	34年目	青柳 勉	野野 真司	針生 華奈	鹿原 花純	2	準優勝	準優勝	/		ブロック2位	2回戦敗退
15年	27年	35年目	青柳 勉	野野 真司	三上 慎唯	牧野 結葵	3	準優勝	準優勝	/		ブロック2位	1回戦敗退
16年	28年	36年目	青柳 勉	齋藤 昌宏	飯島可奈子	牧野 結葵	7	Aリーグ2位	Aリーグ2位	/		ブロック2位	1回戦敗退
17年	29年	37年目	青柳 勉	佐藤あゆみ	鈴木あゆみ	佐々木優衣	5	Aリーグ2位	Aリーグ3位	/		ブロック優勝	2回戦敗退
18年	30年	38年目	齋藤 昌宏	千葉 伸彦	伊藤 佳奈	佐々木優衣	4	Aリーグ2位	Aリーグ2位	/		ブロック優勝	1回戦敗退
19年	令和元年	39年目	齋藤 昌宏	千葉 伸彦	芦名 桜	田母神千夏	4	Aリーグ2位	Aリーグ1位	/		ブロック2位	2回戦敗退
20年	2年	40年目	齋藤 昌宏	千葉 伸彦	佐藤あずさ	村上 真優	3	(中止)	Aリーグ1位	/		(中止)	(中止)
21年	3年	41年目	齋藤 昌宏	千葉 伸彦	大友 美恰	村上 真優	2	リーグ2位	中止	/		ブロック優勝	1回戦敗退
22年	4年	42年目	齋藤 昌宏	千葉 伸彦	加藤 杏菜	柿崎 花純	3	優勝	準優勝	/	優勝	ブロック優勝	1回戦敗退

計 193

※2004年度から開催規定が変わり、女子は8チーム（4チーム×2ブロック）の参加でした。
 福祉大はbブロック1位になりました。（各ブロック1位が全日本出場権獲得）

水泳部 (平成元年に愛好会から部に名称変更。同3年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	北部学生	女	全日本
1986年	昭和61年	1年目	菅本 昭夫		田中 孝	大友美香子	0							
87年	62年	2年目	菅本 昭夫		田中 孝	大友美香子	0	3位			4部優勝			
88年	63年	3年目	菅本 昭夫		小林 英明	中村真知子	5	3位	3位	3位	3部3位	2部3位		
89年	平成元年	4年目	菅本 昭夫		坂本 浩司	屋敷 真湖	5	3位	3位	3位	3部準優勝	2部3位		
90年	2年	5年目	菅本 昭夫		長尾 信	酒井 通江	3	3位	準優勝	準優勝	3部優勝	2部準優勝		
91年	3年	6年目	菅本 昭夫		長尾 信	戸田 英子	5	3位	優勝	優勝	2部6位	1部6位		
92年	4年	7年目	菅本 昭夫		兵藤 衛	葛岡 正勝	8	3位	準優勝	準優勝	2部6位	1部9位		
93年	5年	8年目	菅本 昭夫		佐藤 智之	小田島久子	7	準優勝	準優勝	準優勝	2部6位	1部6位		
94年	6年	9年目	菅本 昭夫		佐藤 智之	小田島久子	7	3位	準優勝	準優勝	2部6位	1部8位		
95年	7年	10年目	菅本 昭夫		平山 英伸	根田 修	8	優勝	優勝	優勝	2部5位	2部準優勝		
96年	8年	11年目	菅本 昭夫		斎藤 孝弘	根田 修	11	準優勝	3位	3位	2部4位	1部8位		
97年	9年	12年目	菅本 昭夫		坂本 光央	遠藤 瑞穂	9	準優勝	準優勝	準優勝	2部7位	2部優勝		
98年	10年	13年目	菅本 昭夫		佐々木智至	葛岡 香	6	準優勝	準優勝	優勝	2部6位	1部9位		
99年	11年	14年目	菅本 昭夫		大原 慎	高橋 淳雄	7	優勝	優勝	優勝	2部準優勝	1部7位		
2000年	12年	15年目	菅本 昭夫	高橋 淳雄	堀井 信博	藤原枝理子	11	優勝	優勝	優勝	2部3位	1部5位		國分七緒子二百背8位 國分七緒子百背6位
01年	13年	16年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	星 直樹	藤原枝理子	8	優勝	優勝	優勝	2部3位	1部8位		
02年	14年	17年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	堀井 宏明	原 健太郎	7	優勝	優勝	優勝	2部1位	2部3位		
03年	15年	18年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	梶谷幸次郎	中川 峻一	6	優勝	優勝	優勝	1部9位	2部5位		
04年	16年	19年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	梅津 亮	金子 優樹	6	優勝	優勝	優勝	2部3位	2部6位		
05年	17年	20年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	向山 洋央	畠山 亘	11	準優勝	準優勝	優勝	2部2位	2部5位		
06年	18年	21年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	畠山 亘	鈴木 智子	6	優勝	優勝	優勝	1部8位	2部6位		
07年	19年	22年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	安藤 大悟	越前 悠	8	優勝	優勝	優勝	2部4位	2部8位		
08年	20年	23年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	笹森 康寛	越前 悠	6	準優勝	優勝	優勝	男 北部学生 準優勝	女 優勝		
09年	21年	24年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	斎藤 良太	長内 佳祐	8	3位	準優勝	準優勝	3位	準優勝		
10年	22年	25年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	長内 佳祐	石成 和久	7	3位	準優勝	準優勝	3位	準優勝		
11年	23年	26年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	大館健太郎	石成 和久	7	中止	中止	中止	3位	準優勝		
12年	24年	27年目	菅本 昭夫	坂上 剛志	高田 雅人	幸野 祐香	4	3位	優勝	優勝	準優勝	優勝		
13年	25年	28年目	菅本 昭夫		赤井澤智司	石田 健人	6	準優勝	優勝	優勝	準優勝	優勝		
14年	26年	29年目	菅本 昭夫		江本 遼	伊藤 雅也	8	準優勝	優勝	優勝	準優勝	準優勝		
15年	27年	30年目	菅本 昭夫		伊藤 雅也	小池 智大	5	3位	準優勝	準優勝	5位	準優勝		

水泳部 (平成元年に愛好会から部に名称変更。同3年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男	東北総体	女	男	北部学生	女	全日本
16年	28年	31年目	幕内 孝		阿部 悠太	近藤 璃奈	3	準優勝	3位		6位	7位		
17年	29年	32年目	幕内 孝		渡邊 優	浅利 優太	4	3位	中止		4位	7位		
18年	30年	33年目	幕内 孝		神賀 晃	浅利 優太	1	準優勝	4位		5位	5位		
19年	令和元年	34年目	幕内 孝		峯田 佳知	佐藤 彩音	3	4位	4位		6位	5位		予選敗退
20年	2年	35年目	幕内 孝		上原 蓮	五内川創太	1				(すべて中止)			
21年	3年	36年目	幕内 孝		今 黎矢	齋藤 小梅	5				(すべて中止)			
22年	4年	37年目	幕内 孝		今 黎矢	齋藤 小梅	7	4位	3位		4位	3位		予選敗退
							計219							

ゴルフ部 (前身はゴルフサークル、平成3年に名義加盟し、同11年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	所属	男	全日本対抗	女	男	信夫杯争奪	女
1989年	平成元年	1年目	大竹 榮	阿部 靖彦			0							
90年	2年	2年目	大竹 榮	阿部 靖彦	藤田 雅也		0	関東G						
91年	3年	3年目	大竹 榮	阿部 靖彦	飯野 涉	簡井 聖	1	関東F						
92年	4年	4年目	大竹 榮	阿部 靖彦	飯野 涉	簡井 聖	6	関東D						
93年	5年	5年目	大竹 榮	阿部 靖彦	菊地 秀寿	宮村 秀幸	6	関東B				4位		
94年	6年	6年目	大竹 榮	阿部 靖彦	若生 将志	渡邊祐一郎	5	関東A				13位		
95年	7年	7年目	大竹 榮	阿部 靖彦	梶井 亮介	今井 康博	10	関東A				5位		
96年	8年	8年目	大竹 榮	阿部 靖彦	大友 正幸	久保田浩二	15	関東A				4位		
97年	9年	9年目	大竹 榮	阿部 靖彦	新井 竜也	増子 譲	16	関東A	準優勝			準優勝		
98年	10年	10年目	大竹 榮	阿部 靖彦	大野 良徳	竹沢 学	14	関東A	優勝			優勝		
99年	11年	11年目	大竹 榮	阿部 靖彦	星野 英正	高橋 潤	17	関東A	優勝	6位		優勝	5位	
2000年	12年	12年目	大竹 榮	阿部 靖彦	谷原 秀人	永井 完治	20	関東A	優勝	準優勝		優勝	優勝	
01年	13年	13年目	大竹 榮	阿部 靖彦	大塚 泰三	佐藤 賢和	16	関東A	準優勝	3位		準優勝	準優勝	
02年	14年	14年目	大竹 榮	阿部 靖彦	宮里 優作	佐藤 賢和	10	関東A	優勝	優勝		優勝	準優勝	
03年	15年	15年目	大竹 榮	阿部 靖彦	藤島 豊和	大上 寿	22	関東A	優勝	優勝		優勝	優勝	
04年	16年	16年目	大竹 榮	阿部 靖彦	権 奇澤	和田 朗	16	関東A	優勝	優勝		大会中止	大会中止	
05年	17年	17年目	大竹 榮	阿部 靖彦	藤島 晴雄	花山 大輔	11	関東A	優勝	優勝		優勝	優勝	
06年	18年	18年目	大竹 榮	阿部 靖彦	藤島 征次	花山 大輔	9	関東A	優勝	優勝		優勝	準優勝	
07年	19年	19年目	大竹 榮	阿部 靖彦	池田 勇太	井上 瑣音士	15	関東A	3位	6位		優勝	8位	
08年	20年	20年目	大竹 榮	阿部 靖彦	安本 大祐	内田 卓弥	8	関東A	優勝	9位		優勝	5位	
09年	21年	21年目	大竹 榮	阿部 靖彦	岡部 大輔	内田 卓弥	9	関東A	準優勝	5位		大会中止	大会中止	
10年	22年	22年目	大竹 榮	阿部 靖彦	松岡 勇作	江上 莉奈	11	関東A	準優勝	準優勝		優勝	準優勝	
11年	23年	23年目	大竹 榮	阿部 靖彦	藤本 佳則	江上 莉奈	13	関東A	優勝	準優勝		優勝	優勝	
12年	24年	24年目	大竹 榮	阿部 靖彦	塩見 好輝	西山 茜菜	12	関東A	優勝	準優勝		優勝	優勝	
13年	25年	25年目	大竹 榮	阿部 靖彦	松山 英樹	西山 茜菜	17	関東A	3位	優勝		準優勝	優勝	
14年	26年	26年目	大竹 榮	阿部 靖彦	吉田 幸希	山川 修主	18	関東A	優勝	4位		優勝	準優勝	
15年	27年	27年目	大竹 榮	阿部 靖彦	佐藤 大平	植竹 勇太	14	関東A	3位	準優勝		準優勝	不出場	
16年	28年	28年目	大竹 榮	阿部 靖彦	小西 健太 高久あずさ	植竹 勇太 石井 友梨	20	関東A	優勝	3位		準優勝	優勝	
17年	29年	29年目	大竹 榮	阿部 靖彦	佐藤 下室 舞弥	山下 将司 石井 友梨	12	関東A	優勝	優勝		準優勝	準優勝	
18年	30年	30年目	大竹 榮	阿部 靖彦	岡村 了 高久ゆうな	上松 佑平 松浦 美侑	14	関東A	優勝	優勝		優勝	優勝	

ゴルフ部（前身はゴルフサークル、平成3年に名義加盟し、同11年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	所属	男 全日本対抗	女	男 信夫杯争奪	女
19年	令和元年	31年目	大竹 榮	阿部 靖彦	関 将太 樋口 璃乃	上松 佑平 松浦 美侑	12		準優勝	4位	優勝	準優勝
20年	2年	32年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	金谷 拓実 上松 佑平	瑞穂 美侑 美侑	9		優勝	4位	(中止)	
21年	3年	33年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	米澤 蓮 上松 佑平	七海 優歩	16	関東 A	優勝	優勝	優勝	優勝
22年	4年	34年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	蟬川 泰果 倉林 大聖	木内 真衣 内田 夢乃	13	関東 A	優勝	優勝	準優勝	準優勝

計 407

軟式野球部 (平成11年に名義加盟、同17年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	東北大会	全日本	東日本*	選抜大会
1989年	平成元年	1年目	大竹 榮	阿部 靖彦	佐々木智彦	大友 英孝	9				
90年	2年	2年目	大竹 榮	阿部 靖彦	黒沢 誠	大友 英孝	4				
91年	3年	3年目	大竹 榮	阿部 靖彦	浜田 真吾	大友 英孝	10				
92年	4年	4年目	大竹 榮	阿部 靖彦	永友 仁	大友 英孝	6	優勝	準優勝	3位	
93年	5年	5年目	大竹 榮	阿部 靖彦	今井 賢知	土橋 照好	9	優勝	優勝	2回戦	
94年	6年	6年目	大竹 榮	阿部 靖彦	安井 知之	藤井 学	14	優勝	3位	ベスト8	
95年	7年	7年目	大竹 榮	阿部 靖彦	松下大志明	齋藤 睦	11	優勝	ベスト8		
96年	8年	8年目	大竹 榮	阿部 靖彦	鹿又 源州	武田 英俊	14	優勝	準優勝		
97年	9年	9年目	大竹 榮	阿部 靖彦	秋元 伸隆	武田 英俊	21	優勝	ベスト8		
98年	10年	10年目	大竹 榮	阿部 靖彦	鈴木 賢	小林 勝行	19	優勝	ベスト8		
99年	11年	11年目	大竹 榮	阿部 靖彦	森内 嘉則	富樫 純平	16	優勝	4位	1回戦	
2000年	12年	12年目	大竹 榮	阿部 靖彦	神原 伸吾	谷 哲文	11	準優勝			
01年	13年	13年目	大竹 榮	阿部 靖彦	永山 久志	柳瀬 高裕	8	優勝	2回戦	1回戦	
02年	14年	14年目	大竹 榮	阿部 靖彦	荒井 基光	柳瀬 高裕	6	準優勝		1回戦	
03年	15年	15年目	大竹 榮	阿部 靖彦	大山 重隆	土屋みさえ	7	準優勝			
04年	16年	16年目	大竹 榮	阿部 靖彦	根来 奉典	土屋みさえ	5	準優勝			
05年	17年	17年目	大竹 榮	阿部 靖彦	石井 聖	神山 美穂	4	優勝	1回戦		
06年	18年	18年目	大竹 榮	阿部 靖彦	佐々木大輔	吉田絵梨子	5	優勝	2回戦	1回戦	
07年	19年	19年目	大竹 榮	阿部 靖彦	佐々木大輔	吉田絵梨子	5	準優勝	2回戦	3回戦	
08年	20年	20年目	大竹 榮	阿部 靖彦	鈴木裕次朗	菅原 舞	11	優勝	2回戦	1回戦	
09年	21年	21年目	大竹 榮	阿部 靖彦	田卷 正嵩	吉澤 優	6	優勝	1回戦		
10年	22年	22年目	大竹 榮	阿部 靖彦	吉田 研吾	吉澤 優	8	優勝		準優勝	
11年	23年	23年目	大竹 榮	阿部 靖彦	樋山 大生	柴田 裕哉	6	ベスト8			
12年	24年	24年目	大竹 榮	阿部 靖彦	鈴木 雄太	狩野 杏佳	7	優勝	準優勝	1回戦	
13年	25年	25年目	大竹 榮	阿部 靖彦	鈴木 雄太	狩野 杏佳	15	優勝	優勝	2回戦	
14年	26年	26年目	大竹 榮	阿部 靖彦	板垣 健司	高嶋 玲奈	8	ベスト4	出場なし	準優勝	
15年	27年	27年目	大竹 榮	阿部 靖彦	小畑 賢人	佐藤 真由	2	ベスト4	出場なし	ベスト8	
16年	28年	28年目	大竹 榮	阿部 靖彦	小笠原理貴	佐藤 真由	3	優勝	1回戦	2回戦	
17年	29年	29年目	大竹 榮	阿部 靖彦	奥田 祐平	吉田菜々子	6	優勝	1回戦	1回戦	
18年	30年	30年目	大竹 榮	阿部 靖彦	吉澤 輝樹	吉田菜々子	14	優勝	優勝	優勝	
19年	令和元年	31年目	大竹 榮	阿部 靖彦	大友 新太	井澤亜里紗	9	優勝	ベスト8	出場なし	
20年	2年	32年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	西岡俊之介	井澤亜里紗	13	ベスト4	(中止)		

軟式野球部 (平成11年に名義加盟、同17年に加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	東北大会	全日本	東日本*	選抜大会
21年	3年	33年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	高橋 良平	井澤亜里紗	7	優勝	2回戦		出場なし
22年	4年	34年目	阿部 靖彦	阿部 靖彦	小野寺広夢	山本 彩乃	5	準優勝	出場なし		2回戦

計304

* 令和3年より東日本大会廃止。→全日本大学軟式野球選抜大会

アイヌホッケ一部（平成10年に部として名義加盟、同17年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	宮城リーグ戦	東北大会	インカレ
1998年	平成10年	1年目	千葉 幸喜	吉田 孝	渡辺 伸彦	長濱麻由子	0	3位		
99年	11年	2年目	千葉 幸喜	吉田 孝	渡辺 伸彦	長濱麻由子	0	優勝	3位	予選3位
2000年	12年	3年目	千葉 幸喜	吉田 孝	渡辺 伸彦	長濱麻由子	0	優勝	優勝	1回戦敗退
01年	13年	4年目	千葉 幸喜	吉田 孝	渡辺 伸彦	梶原 研哉	5	優勝	優勝	ベスト8
02年	14年	5年目	千葉 幸喜	吉田 孝	梶原 研哉	土屋 賢介	7	優勝	優勝	1回戦敗退
03年	15年	6年目	千葉 幸喜	吉田 孝	土屋 賢介	伊藤 慶洋	2	優勝	3位	
04年	16年	7年目	千葉 幸喜	吉田 孝	高瀬 博司	高橋 孝多	4	優勝	優勝	ベスト16
05年	17年	8年目	千葉 幸喜	吉田 孝	坂本 恵介	松尾 弘美	0	優勝	3位	
06年	18年	9年目	千葉 幸喜	吉田 孝	伊藤 竜太	松尾 弘美	6	優勝	準優勝	
07年	19年	10年目	吉田 孝	吉田 孝	藤井 拓美	松尾 弘美	4	準優勝	優勝	
08年	20年	11年目	吉田 孝	渡辺 伸彦	古川 洋	中村 和平	1	準優勝	優勝	出場
09年	21年	12年目	吉田 孝	渡辺 伸彦	島田 信吾	今藤 裕希	7	優勝	優勝	ベスト16
10年	22年	13年目	吉田 孝	渡辺 伸彦	今藤 裕希	柿沼 優太	4	3位	優勝	出場
11年	23年	14年目	吉田 孝	渡辺 伸彦	豊川 直樹	大橋 亮介	5	3位	準優勝	出場
12年	24年	15年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	大橋 亮介	渡辺 翔伊	4	3位	4位	出場権なし
13年	25年	16年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	佐々木恭介	渡邊 真史	3	同率2位	4位	出場権なし
14年	26年	17年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	渡邊 真史	高橋 寛司	2	4位	4位	出場権なし
15年	27年	18年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	高橋 寛司	石橋 嶺太	4	4位	準優勝	出場
16年	28年	19年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	高橋 信博	石橋 嶺太	3	4位	4位	出場権なし
17年	29年	20年目	門馬 利光	渡辺 伸彦	佐々木優武	大龍 侖奈	4	5位	4位	出場権なし
18年	30年	21年目	門馬 利光	門馬 利光	斉藤 雅人	前田 彩花	5	4位	4位	出場権なし
19年	令和元年	22年目	門馬 利光	門馬 利光	高橋リック	大龍 侖奈	11	3位	3位	1回戦敗退
20年	2年	23年目	門馬 利光	今村雄太朗	牛尾 七海	安東 希	1	5位	3位	中止
21年	3年	24年目	門馬 利光	今村雄太朗	三浦悠太郎	松本 玲奈	4	5位	4位	なし
22年	4年	25年目	門馬 利光	今村雄太朗	那須野留唯	宮腰真里江	1	5位	4位	なし
							計87			

女子ソフトボール部（前身は同好会。平成13年に部に部になり、名義加盟、同17年に加盟）

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	東北大大会	東日本大会	全日本	全日本大学
1997年	平成9年	1年目	上岡 良一	菊地 昌昭	天堤美由紀	小松 真希	0				
98年	10年	2年目	上岡 良一	菊地 昌昭	天堤美由紀	小松 真希	3				
99年	11年	3年目	上岡 良一	菊地 昌昭	内出みちる	岡本 典子	3				
2000年	12年	4年目	上岡 良一	菊地 昌昭	内藤 真紀	松本百合子	3				
01年	13年	5年目	上岡 良一	菊地 昌昭	佐藤咲南江	横田 律子	3	2位			
02年	14年	6年目	上岡 良一	舟山 健一	高橋 真美	塩川 聡子	3	2位	ベスト16	1回戦敗退	
03年	15年	7年目	上岡 良一	舟山 健一	近江 有理	塩川 聡子	0	優勝	準優勝	1回戦敗退	
04年	16年	8年目	上岡 良一	舟山 健一	村中 梢	関根 加織	2	準優勝	準優勝	1回戦敗退	1回戦敗退
05年	17年	9年目	舟山 健一	舟山 健一	村中 梢	関根 加織	10	優勝	優勝	優勝	優勝
06年	18年	10年目	千葉 幸喜	舟山 健一	新山亜也子	鈴木むつみ	8	準優勝	優勝	優勝	ベスト8
07年	19年	11年目	千葉 幸喜	舟山 健一	村中 梢	鈴木むつみ	6	優勝	ベスト8	優勝	3位
08年	20年	12年目	千葉 幸喜	舟山 健一	加藤 恵理	五十嵐恭子	13	優勝	第3位	1回戦敗退	優勝
09年	21年	13年目	千葉 幸喜	舟山 健一	増田奈津美	松井絵理奈	17	優勝	優勝	2回戦敗退	優勝
10年	22年	14年目	千葉 幸喜	舟山 健一	井上 愛	松井絵里奈	9	優勝	第3位	優勝	3位
11年	23年	15年目	千葉 幸喜	舟山 健一	小林 杏奈	本田久美子	5	準優勝	ベスト8	1回戦敗退	ベスト16
12年	24年	16年目	千葉 幸喜	舟山 健一	酒井 梨花	本田久美子	12	優勝	1回戦敗退	1回戦敗退	ベスト16
13年	25年	17年目	千葉 幸喜	舟山 健一	小泉ちづか	加藤 奈央	13	優勝	3位	回戦敗退	ベスト16
14年	26年	18年目	千葉 幸喜	舟山 健一	池田 唯	櫻井 美江	10	優勝	ベスト16	1回戦敗退	1回戦敗退
15年	27年	19年目	千葉 幸喜	舟山 健一	岩上 加歩	坂本 彩	10	準優勝	ベスト16	2回戦敗退	1回戦敗退
16年	28年	20年目	千葉 幸喜	舟山 健一	館野なつみ	秋野 唯	9	優勝	ベスト16	1回戦敗退	2回戦敗退
17年	29年	21年目	千葉 幸喜	舟山 健一	和島野乃香	堀口 理未	3	準優勝	ベスト8	1回戦敗退	1回戦敗退
18年	30年	22年目	千葉 幸喜	舟山 健一	山下 真穂	三浦 愛佳	8	準優勝	1回戦敗退	1回戦敗退	3位
19年	令和元年	23年目	千葉 幸喜	舟山 健一	保坂 鼓	阿部 綾乃	2	優勝	ベスト8	1回戦敗退	1回戦敗退
20年	2年	24年目	千葉 幸喜	舟山 健一	早坂 瑞希	印南 若奈	4	準優勝	(中止)		
21年	3年	25年目	千葉 幸喜	舟山 健一	南 亜子	印南 若奈	11	準優勝	第3位	1回戦敗退	2回戦敗退
22年	4年	26年目	千葉 幸喜	舟山 健一	門脇 杏実	岩松 真白	10	優勝	1回戦敗退	1回戦敗退	準優勝

計177

空手道部 (平成24年体育会加盟)

西暦	元号	年数	歴代部長	歴代監督	歴代主将	歴代主務	卒業人数	男 東北総体	女 東北総体	男 東北選手権	女 東北選手権	男 東日本	女 東日本	男 全日本	女 全日本
2012年	平成24年	1年目	石澤 優紀	阿部 晋二	田中 覚	高橋 将史	5	優勝	優勝	準優勝	準優勝	2回戦	2回戦	2回戦	1回戦
13年	25年	2年目	石澤 優紀	阿部 晋二	瀬谷 龍介	佐々木杏菜	5	優勝	準優勝	優勝	優勝	1回戦	2回戦	2回戦	2回戦
14年	26年	3年目	石澤 優紀	阿部 晋二	我妻 昂	浅田 紗希	3	優勝	優勝	優勝	優勝	1回戦	2回戦	1回戦	2回戦
15年	27年	4年目	石澤 優紀	阿部 晋二	石川 麻実	細貝亜沙海	1	準優勝	優勝	優勝	優勝	2回戦	2回戦	1回戦	2回戦
16年	28年	5年目	石澤 優紀	阿部 晋二	石本 佳祐	細貝亜沙海	6	準優勝	優勝	優勝	優勝	2回戦	2回戦	2回戦	2回戦
17年	29年	6年目	石澤 優紀	阿部 晋二	高橋 直弥	大須賀 光	2	優勝	優勝	優勝	優勝	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦
18年	30年	7年目	石澤 優紀	阿部 晋二	高橋 千春	大須賀 光	3	優勝	優勝	準優勝	優勝	2回戦	2回戦	1回戦	1回戦
19年	令和元年	8年目	石澤 優紀	阿部 晋二	佐藤 湧紀	大泉 そよ	5	3位	優勝	優勝	優勝	2回戦	2回戦	2回戦	2回戦
20年	2年	9年目	石澤 優紀	阿部 晋二	鈴木 渉平	高桑 勇也	6	(すべて中止)							
21年	3年	10年目	石澤 優紀	阿部 晋二	前田 祐也	渡邊 美咲	7	中止	中止	優勝	優勝	中止	中止	2回戦	2回戦
22年	4年	11年目	石澤 優紀	阿部 晋二	千葉 輝	渡邊 美咲	6	中止	中止	準優勝	優勝	1回戦	1回戦	1回戦	2回戦
							計	43							

令和5年3月31日発行

発行者 東北福祉大学体育会

編集者 東北福祉大学体育会常任幹事会
仙台市青葉区国見一丁目8番1号

TEL (022) 233-3111 (代)

印刷 笹氣出版印刷株式会社

TEL (022) 288-5555



東北福祉大学体育会